

川柳塔



No. 1148

同人特集・私の一句

一月号

★ 同人特集 ★

「私の好きな笑いの句」募集

締切 2月15日（本社事務所宛）

発表 四月号

※詳細は刷り込み用紙参照

第十一回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十一回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題2句 共選）
課題吟

「花」

中 岡 千代美（番傘川柳本社）
藤 村 亜成（川柳塔社）

「待」

佐 藤 岳 俊（川柳塔社）
木 本 朱 夏（川柳塔社）

自由吟

樋 口 由紀子（「晴」社）
小 島 蘭 幸（川柳塔社）

投句要領

規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料

一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切

令和五年二月二十日（月）消印有効

送付先

〒543-0005 大阪市天王寺区大道一―四―一七―二〇―

賞及び発表

川柳塔社 誌上大会係 宛
TEL/FAX（〇六）六七七九―三四九〇
各題特選に賞呈 発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

2023年（令和5年） 本社句会 開催日程表

会場：ホテルアウィーナ大阪

開催日	時 間	会 場
1月10日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
2月7日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
3月7日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
4月10日（月）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
5月8日（月）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
6月7日（水）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
7月6日（木）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
8月10日（木）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
9月7日（木）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
10月7日（土） 第29回 川柳塔まつり	同人総会 10:00～11:00	生駒 3F
	句 会 11:00～17:00	金剛（全室） 4F
	懇 親 宴 17:00～20:00	葛城（全室） 3F
11月7日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F
12月7日（木）	13:00～17:00	葛城の間（全室） 3F

ウサギの島

小島 蘭 幸

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年は兎年、私が住む竹原市には海外でも名の知れたウサギの島があります。

山陽新幹線を三原駅で降り、呉線に乗り換えて美しい瀬戸内海を見ながら約20分で忠海駅に着きます。忠海港から船で15分でウサギの楽園、大久野島に渡ることが出来ます。

島唯一の宿泊施設、国民休暇村は連泊をされる多くの外国人観光客、修学旅行生、大学のサークル活動、一般客で満室が続いていましたが、コロナになってからは島に渡る人も少なくなりました。

平成元年3月18日～19日、大久野島国民休暇村で第24回全国郵政川柳人連盟中国ブロック大会が開催されました。私は家族4人で出席しました。長女は小学三年生、次女は小学一年生の時でした。二人とも川柳のおじちゃんと自転車で島を一周したり、ウ

サギと触れ合ったりして島の春を満喫していました。宴会にも出席して、二人で童唄、パラダイス銀河を歌って大いに場を盛り上げてくれました。翌日の句会にも出席して、8句ずつ入選したのには驚かされました。

今ではすっかり「ウサギの島」として定着している大久野島ですが、「地図から消された島」「毒ガスの島」の別称も持っているのです。戦時中、私の母も女子挺身隊として参加したと聞いています。

島には要塞の名残をとどめる砲台跡や弾薬庫、発電所の遺構があり、毒ガス資料館も設置されています。

大久野島は訴える

戦争の悲惨さを

平和の尊さを

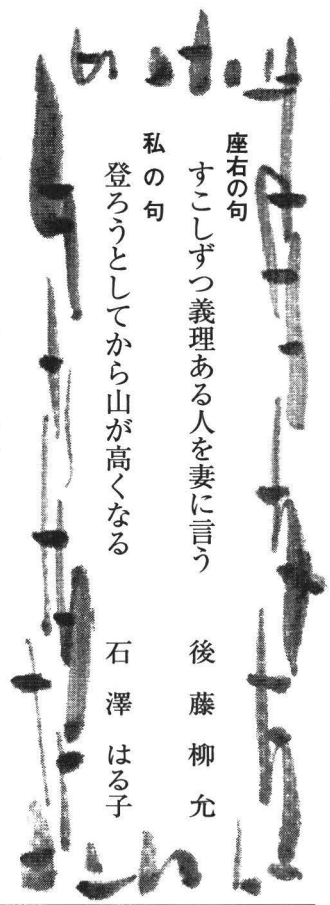
生命の重さを

この歴史を忘れないために

二度と再び繰り返さないために

いつまでも平和であり続けるために

コロナが落ち着きましたら、大久野島でのんびりウサギと戯れたいと思います。



座右の句

すこしずつ義理ある人を妻に言う

私の句

登ろうとしてから山が高くなる

後藤柳允

石澤 はる子

川柳塔 一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「エト・卯」

■巻頭言 ウサギの島

やることがある

小島 蘭 幸 ……(1)

新家 完 司 ……(2)

川柳塔 (同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

蒔萩草の花 ①

野 沢 省 悟 ……(36)

橘高薫風句集『肉眼』

野 沢 省 悟 ……(37)

自選集

後 藤 梅 志 ……(38)

句集の森

後 藤 梅 志 ……(41)

温故知新

後 藤 梅 志 ……(41)

水煙抄

本 本 朱 夏 選 ……(42)

英語 de Senryu ⑬

吉 村 侑 久 代 ……(59)

俳風柳多留 一二篇研究 29

吉 村 侑 久 代 ……(60)

愛染帖

新 家 完 司 選 ……(62)

やることがある

新 家 完 司

認知症になる原因はいろいろあるが、その内の一つが「やることが無くて暇を持て余している」ということ。もう一つは「コミュニケーションが少なくない」ということ。

定年退職をしてからほんやりボケ気味になってきたという人は珍しくない。もちろん、加齢も一つの要因ではあるが、これまで忙しい職場で頑張ってきた人が、急に暇になって話し相手も少なくなってきたことが大きく影響しているのだろう。

その点、川柳に取り組んでいる私たちは句会や大会に出席するために与えられた課題に向かって毎日のように作句している。外出が困難な場合は誌上大会に向けて、或いは所属する川柳会の会員作品やときにはネット句会にまで応募している。

その作品も「少しでも良いものを」と思えばいいかげんにはできず、脳味噌を絞って推敲を重ねて…となれば、一日はアツという間に過ぎてしまう。まさに「忙しくて

檸檬抄「ためらう」	江島谷勝弘・永見心咲共選	(66)
一路集「伝える」	村上直樹選	(70)
「はるばる」	北山まみどり選	(71)
初歩教室「雲」	水野黒兎	(72)
同人特集 私の一句		(74)
インスピレーション・ナビ 印象吟	大西泰世	(82)
川柳塔鑑賞	高瀬霜石	(84)
水煙抄鑑賞	川本真理子	(86)
せんりゅう飛行船 ⁽¹⁵⁾	新家完司	(87)
十二月本社句会		(88)
各地柳壇(佳句地十選/高田博泉・岸本孝子)		(93)
一月各地句会案内		(106)
柳界展望		(108)
■編集後記(ひとこと/北澤稠民)	道夫・眞澄・憲彦	(136)

座右の句

私の句

黙って眠ってそのうち糸を吐くつもり 八木千代

百人に百の挽歌があるだろう

妹能 令位子

ボケる暇がない」という嬉しい悲鳴。
また、「会話」は、相手の言葉を理解して自分の想いを伝えるという作業の繰り返しであり、無意識にやっているようだが脳はフル回転していてボケ防止になる。
この「相手の言葉を理解して、自分の想いを伝える」という作業は、話し相手がいなくて出来ないことではあるが、独りでいるときの「読書と作句」に置き換えることもできる。すなわち、他人の句を読むことによって作者の言葉と想いを理解する。そして作句することによって自分の想いを纏めて発言する。会話と比較して不足しているのは「声を出す」こと。声を出すことはストレス発散になり認知症予防でも大いに推奨されている。従って、「読書と作句」に疲れたときは「歌をうたう」こと。独居なら自由に歌えるが、家族に聴かれるのが嫌な場合は散歩でもしながら歌えば良い。ともあれ、川柳に取り組んでいるということは「やるべきことがある」ということであり、意識せずともボケ防止になっているということにはまことに有り難い。



小島蘭幸選

大阪市 平井 美智子
バーコード背負つて闊歩する此の世

ある日ふとマスクを取ればおばあさん
そうかムンクも喉が渴いていたんだね

私の鳥の部分は濡れたまま

金曜の夜は自分のことで泣く

真つ直ぐに進めと茶柱が揺れる

下駄箱の上の小さなまねき猫

枚方市 栃尾 奏子

大晦日今年も仕事しています

年賀状触るアドレナリンが出る

年賀状これは我らの誇りです

明けましてクタクタ深夜勤務明け

仕事仕事私は悪いお母さん

クリスマスなんて無かつたねと娘

倉吉市 牧野 芳光

再生紙元の記憶は戻らない

活字になれば色褪せてくる一行詩

生きている臭いのコインランドリー
放棄地に白髪累々ススキの穂
悪いもの見たのか視力落ちてくる
目立たないように呼吸をしています

大阪市 谷口 義

団十郎もにらみをきかす年の暮

せーのーでおばあさんにもお正月

皆既月食も観たし大らかに生きよう

心配事があるのか秋刀魚が痩せている

国葬は辞退しますと書いておく

足りなかつたり余つたりして歳を越す

桜井市 安土 理恵

小夜ふけて天体ショウのひとり席

零余子めしままごとほどを炊きあげる

足許の闇につわ路の黄色

遠い耳怒鳴り合つてゐるわけじゃない

夫婦茶碗へこだわりはまだ終らない

さみしさもちよつぱりお年玉の準備

堺市 澤井敏治

幻じゃなかったまつりの日の五分
賞を受け路郎読本よみかえす

八十路坂いまださまよう深い森
百態の雲とおしゃべりする自爾

降り出すとおしゃべりになる雪だるま
令和も五歳あけましておめでとう

大阪市 高杉力

ジャンケンに負けてジュースになる苺
温めてください弁当も愛も

いつまでも青いところは父譲り
花言葉通りになんて咲くものか

夕風のうちにしておくことがある
終章へ向かうにト書きなど要らぬ

堺市 楽原道夫

やる気満々で包丁研いでいる
花も根もみじん切りするおままごと

駄々っ子のダダ 塊になってきた
どぶ川が涙のように涸れている

よく見ればいちばん頑固な虫の顔
枕になるような尻尾が欲しいのです

尼崎市 山田耕治

ストローを突っ込んだまま捨ててある
遠足の子供が下りていく車内

娘等に老い見せまいと床磨く

全身でよろこんでいる犬を抱く
お隣へ娘が何か頼んでる

じいさんに小春日和のプレゼント

大阪市 宇都満知子

鬼嫁のバッキン緩くなってきた
無造作に転がってたな親の愛

折々に守ってくれる亡母が居る
ゆっくりゆっくり七十路のソナチネ

朝の光に今日のスイッチを見つめる
たいせつな一年なのに早いこと

土佐清水市 辻内次根

一生を旅に例えて今佳境

花園を飛ぶ蝶三百六十度

秋の日の夕日の角度寺の屋根
弄っていじって操作方法覚え込む

すぐぼしやる私カフエイン依存症
トタン屋根びっくり花梨の実が落ちた

八王子市 川名洋子

ページ繰る私はやはり紙が好き
義経の菊人形が見得を切る

愛犬を鎧にしてつつがない
湯タンポを抱いて対処の光熱費

ベンチでうたたね小春日和の昼
お菓手帳お守りに持っている

堺市 今井 万紗子

言い聞かす今が一番若いんだ
今日もまたいっぱい言うたありがとう

お互い様やんわり言うてわかること
一粒の母の涙が責めてくる

何時もの駅優しい風が待っている
マスク越しでもあなたの笑顔すぐ分かる

今治市 永井 松柏

現状を変えたくはない多数決
失敗の数が人間力になる

ああ言えばこう言う2色ボールペン
退屈はしない3色ボールペン

老醜がまた右腕を切り捨てる
6割の馬力でつつがなく生きる

箕面市 酒井 紀華

いい朝だ両手をひろげ深呼吸
力まない素直な君がだいすきだ

変身する月一回の美容院
いざとなれば涙を武器にかえまする

なんとかなるさ魔法の言葉もっている
久しぶり友の電話に涙する

三田市 堀 正和

久し振り笛も太鼓も嬉しそう
右見ても左向いてもカタカナ語

殺すのも死ぬのも嫌な兵士たち

本棚に眠ったままの歎異抄

募金箱持つ子の瞳キラキラと
寅年もトラは優勝出来ぬまま

手の甲に蝶がとまって逃げぬ 秋
河内長野市 森田 旅人

ここちよい書斎薄日の古畳
文机お茶も飲まずに日がくれる

人ごみに行かぬ約束そつと解く
富士が好き今年も行けぬままでした

障子張りがんばったねと亡夫の声
神戸市 斎藤 隆浩

お釣りだけもらい商品置いてくる
優しさも続くと消える有難み

料理よりイス席にしてクラス会
家の傾き知っているゴルフボール

ミサイルより平和が欲しいウクライナ
指定席買えばガラガラ自由席

河内長野市 大島 ともこ
新年へ天駆け抜ける君を見た

元旦の空へ小さな力こぶ
新年にずっと笑顔の君がある

おめでとう私の自立門出です
おせちの主役好物だったお赤飯

空白が目立つ新年予定表

岩国市 上村 夢香

年下にやさしいことばかけられて

このごろはニュースを見ない日は暮れる

変化球拾ってくれる母がいた

白バイがときどきわたしチエツクする

雨の日にゆるり繻く歎異抄

鳥取市 岸 本 宏 章

手助けは無理でも出来る思いやり

コンビニに家事の代役してもらう

素質ある人はめきめき上手くなる

愚痴ひとつ親には言ったことがない

いつの世も駕籠に乗る人担ぐ人

鳥取市 岸 本 孝 子

世の中を明るく照らす医療かな

介護でもプロに任せてスマートに

しあわせは分けて与えて波静か

七〇代ラストチャンスを楽しもう

日銀と政府協調しているか

鳥取市 奥 田 由 美

バス停に名前が残る雑貨店

持ち込みの足もとを見る下取り屋

元気なら百寿の父にハイボール

牛井の大盛たのむ胃カメラ後

園児から山里過疎に來たコロナ

鳥取市 加 藤 茶 人

鏡だけ知る毎日の浮き沈み

舌だけが頼り微妙な匙加減

身構えて好きと言えない片思い

ヒット曲昔B面だったのよ

ああこんな所に今朝の探し物

鳥取市 倉 益 一 瑤

破れ傘繕いながら生きている

傘開くわたし守ってくれますか

派手なシャツ買ってリズムを変えてみる

楽譜持たぬ母が見事に歌い切る

いくつもの愚痴飲み込んだ陽が沈む

鳥取市 田 賀 八 千 代

電話でいい気遣いながら母は待ち

おぼろ月好きならスキと言いなさい

今だからどしや降りの恋懐かしい

眠りなさいばあちゃんずっとここ居るよ

未消化の恋を埋めてる里の森

鳥取市 棚田 大

何事も代役たのみ逃げてゐる

本役も代役者見て感動す

できぬこと気のせいにして逃げてゐる

何事も孝行顔で甘えてる

孝行を解いてる人の声弱い

鳥取市 谷口 回春子

居眠りで全てを棒に振る愚か

踏切りで乗り鉄気分孫と味わう

免許返納するかしないか迷う歳

八十路坂あとひと息でやってくる

頭ばかり眺めています紅葉狩り

鳥取市 永原 昌鼓

音沙汰のないのが無事とかぎらない

ピンポンはまだ打てますよ米寿です

耳鳴りにテレビの音を奪われる

親孝行できずお墓に手を合わす

またひとつ歳をとるのね誕生日

鳥取市 中村 金祥

うさぎ年白兔の浜が大賑わい

勲章は貰えぬけれどボランティア

電線を伝う野猿にあしらわれ

あと一步とろい我が身が憎らしい

湾に入り安心したか酔い潰れ

鳥取市 前田 楓花

食べて寝る幸せかもね籠の鳥

晴れの日を味方に付けて吊るし柿

蕎麦殻の枕の音が子守唄

友達の新秘絶対ばらさない

幸せの続きに呑んだ大吟醸

鳥取市 山下 凱柳

検討をするなら誰も直ぐできる

政治家の同じフレーズ聞き飽きた

あれそれを一日何度言うことか

苦も難も皆人生の一ページ

善と悪何時も心に去来する

鳥取市 吉田 孔美子

温泉で収まりそうにない義憤

温泉で下つたと言う眉尻だ

宇宙基地近くに温泉はないか

日本海北の狂気の音有りや

猫だけだ足音させてお出迎え

鳥取市 吉田 弘子

夫植えた花を株分け秋日和

プレゼント孫の好意の派手を着る

多数決の一人になれる年会費

あと五年生きたいものだ母の齡

拉致を解く人こそ歴史名を残す

倉吉市 大羽雄大

風物詩冬支度する花時計

良し悪しはともあれ受けている電話
リハビリの結果に四股を踏んでみる
小鼻びくびく隠しごとあるようだ
弱点の鼻をコロナでカバーする

倉吉市 田中紀美恵

どつぷりと貧乏になれ八十年
友が逝く心の明かり消えてゆく
やさしさは金では買えぬ宝物
仏とも言われた亡母にあやかりたい
母が死ぬわずかな光り求め生き

境港市 藤原久直

知らぬ間に皺も白髪も増えている
良く動く父の形見の腕時計
削除キー押しても残る傷一つ
グーチョキパー足も一緒にグーチョキパー
線を引きました静かになりました

米子市 池田美穂

痩せサンマどこをつつけばいいだろう
ゴキブリに地球の未来聞いてみる
一日の動線たどる探し物
一世紀柱にしがみつくと時計
ウキウキと買い物ギョツと請求書

米子市 伊塚美枝子

稲刈りを終えた田んぼに鷺の舞
大山の初冠雪にコタツ出す
ハロウィンもサンタもババは無関心
剪定を終えた庭木は男前
私の心朝陽と共に上昇す

米子市 後藤宏之

うれしいが今はうれしい顔できぬ
図星だが認められないわけがある
明日のスケジュールにお使いも入れて
秒針と分針今日は食事会
引き算が続いて我が家大ピンチ

米子市 後藤美恵子

節約の慣れぬ剪定手が笑う
老いの手に買い溜め持てぬ値上げ前
砂時計くびれの美には憧れる
メモ用紙零す記憶の助っ人だ
亡母に似た顔が揺れてる里の池

米子市 妹能令位子

私にもそろそろ要るかGPS
線引きをされてもらった給付金
娘が捨てて母が拾って着た昭和
いつの間に固い絆が重くなる
ほどの良いゆるさで結ぶ絆良し

米子市 竹村 紀の治

鳥取県 門村 幸子

卒寿まであと三年のお楽しみ
がらくたも生きた証に見えてくる
スイッチを入れても直ぐに歩けない
甘口も辛口もまた深い酒
飾りものみんな外して野天風呂

米子市 中原 章子

朝刊を読む時間帯至福どき
小春日に防虫剤を入れ替える
セルフレジ増えてパートの場を奪う
ミサイルの発射が恐い空の旅
しあわせになれぬ戦争なぜ止めぬ

米子市 成田 雨奇

髪染めた笑うしかない色が出た
花の鉢運んで少し役に立つ
鈍足で得意種目は棒倒し
他人との境界線があやふやだ
捨てられぬものがまだまだ多過ぎる

米子市 野川 宣子

感染数シナリオ通り減りません
あめ玉を舐めたとたんに電話鳴り
のんびんだらり刺激が欲しい老いふたり
辛抱のあなたに贈る感謝状
出来秋に感謝しながら食べ過ぎる

すだち柚子カボスの違い教えられ
音訳の校正ほつと目処がつく
欲しいのは風水害に強い家
国連の無力はがゆいことばかり
一年の早さよ飛来コハクチョウ

鳥取県 斉尾 くにこ

半世紀前の私がいるノート
今もまだ追越車線走る人
進化するスーパー同じお買い物
二度聞いて分かる字幕がつき解る
飛べぬ羽蟻も餃子も持つている

鳥取県 竹信 照彦

歩く休む歩く休む腰かける
待ち時間短く早いちげの医者
新聞を読むのも日課ゆつくりと
マスクしてくぐもり声になる詩吟
杖二本突けば曲がらぬ腰になる

鳥取県 本庄 ひろし

重すぎるおんぶレースは勝ち目無し
この想い切ないけれど届かない
旗振りがいい今年忘年会
約束と少し違うがまあいいか
飼う人に似たのかどうか暴れ犬

鳥取県 山下節子

窯開き心を奪う技がある

出雲市 伊藤玲峰

メガネにマスク補聴器までも耳はタフ
保険金目当てにされるサスペンス

ちぐはぐな返事とうとう墓穴掘る

母は偉大どんな代役でも出来る

孫の守り親の代役気をつかう

松江市 石橋芳山

その件には触れず林檎囃んでいる

不可欠な一日青空が憎い

早食いのリズムがすでにジャズである

沈黙は美德かいつまでもバカな

無力さを感じる胸に刺さる語彙

松江市 藤井寿代

何十年ぶり夫婦でもみじ狩り

脳トレと信じて欠かさないパズル

背中のボタン頼む時だけ可憐妻

三年振りに娘が帰省すると言う

私にも欲しい山茶花の純白

松江市 松本知恵子

玄関に元気なカボチャ飾ってる

秋日和野菊飾って友を待つ

師の家の前は会釈をして通る

調子いい神楽の夜が眠られぬ

しつとりと小唄聞こえる裏通り

美しい一生でした火が絶えぬ

感染を拒みつづける咳ばらい

いい趣味を教えて逝った師を偲ぶ

秋最中真つ向勝負してみよう

出雲市 岸桂子

老いの身に達成感の一仕事

帰省して満天の星友と見る

薬飲む心やすらぐこと信じ

あの頃は良かったねとは言いません

もう二度と戻れぬ時を生きている

岡山市 大石洋子

あきらめのつかないヒールを磨きます

淡淡と日を送るのに老けていく

節樽の指から夢がすりぬける

アンチとはいいません共存します

他一名に括られて生きている

岡山市 工藤千代子

青空を付けてあげますカルテにも

三年ぶり空さえ笑う秋祭り

冬が来る地蔵さんにもチャンチャンコ

手が触れて迷いが覚める雨も止む

稲刈りも終わり田んぼに汗の痕

岡山市 丹下 凱夫

新米が噴くD51のように噴く

「読書の日」には図書館でカフェオーレ

スキップが出来なくなつた骨密度

年金の暮らしに見栄は通じない

神様に頼んで当てにしていない

岡山市 前田 恵美子

孫たちの夢に乗っかり未来翔ぶ

毎日を家事と畑に飛び回る

稲穂垂れ今年の米を予約する

読経するお坊様までマスクする

父母七回忌「やつとできた」と山に言う

笠岡市 藤井 智史

心身をリカバリーする酒を飲む

ワールドエンド タバコ一本吸うだろう

君と出逢つて真つ黒焦げのハート

心身をスベスベにする愛を食う

趣味特技川柳ですと胸を張る

岡山市 高岡 茂子

小瓶に酔すすきを切りに行く軍手

ママの誕生日パパは料理と格闘中

車窓から富士山見えて今日いい日

三年越し紅葉歓迎する墓参

旅に出ても探し物ぐせ直らない

岡山県 藤澤 照代

夢覚めてふいに涙が頬つたう

青空のブローチとなる大銀杏

無位無冠武骨に生きて逝つた父

どぎまぎのセルフレジ増え昭和思慕

全没は飛躍のための力瘤

広島市 岸 本清

年の瀬の世情気になる物価高

好き勝手に生きてハメは外さない

夕食を宅配にする友が増え

不眠症テレビつけるとよく眠れ

リーダーで決まる国家の信頼度

竹原市 岩本 笑子

夫送る今日は娘とデートです

花はピンクに小さなダリアでも飾ろ

美しい冬が来たのね毛糸編む

あの人にこの人に編む毛糸玉

秒針の早さに負けぬ母の針

三原市 鴨田 昭紀

まだ水の深さを知らぬ無鉄砲

教え込むごめんなさいとありがとう

ひと色を足して気分を塗り替える

にんげんを育てた昭和の拳骨

懐メロを溶かしたコーヒーが旨い

三原市 笹重耕三

蕎麦が好き蕎麦の水割りだって好き

思いきり串刺しにする今日の鬱

原発の嘆きを素直には聞けぬ

初恋を奏でるモノクロの日記

柱時計がボンと昭和がまだ動く

阿南市 小畑定弘

老人は一人ぼっちが好きなのだ

意気地なし特効薬はないという

人生の第四コーナー回りきる

いつだってレジはこの娘と決めている

逢いたしと何時もと違うポストまで

東かがわ市 川崎ひかり

空中戦カラスが鳶の餌奪う

華やかに舞う日待ってるトゥシューズ

華やきをまだ身に纏い散る銀杏

凍雲に甘さ増しゆくつるし柿

引き際を流れる雲に聴いてみる

松山市 大内せつ子

冬になったら冬に従うつもりです

ネジ山に迷い残した傷がある

笑いのツボが変わったね 笑えない

表面張力プチンと壊す人がいる

輪ゴムだかなんだか朽ちてゆく欠片

松山市 栗田忠士

弁当箱の飯粒拾う昭和の手

膝当ても肘当てもした昭和の手

丁寧に落ち穂拾った昭和の手

もったいないもったいないと昭和の手

その昔研ぎ屋鑄掛け屋青竹屋

松山市 古手川 光

食欲の秋そんな元気が有ればいい

あれも忘れこれも忘れて黄昏れる

サイバー攻撃受けたみたいなの頭

散蒔いた付けが間もなく攻めてくる

健康は大事人間も地球も

松山市 宮尾みのり

タクシーはワンメーターの所ばかり

メンテナンスしながら生きる他はなし

頑張った頃もあったと日向ぼこ

字幕スーパード難聴のこと忘れさせ

道路工事済み不自由な町になり

松山市 柳田かおる

ときめいていました箱を開けるまで

おもいきり弾けたあとの孤独感

ホオズキの朱ふるさとの忘れもの

木漏れ日のシャワーを浴びて生き返る

静電気ほどの熱量だった恋

西予市 黒田茂代

唐津市 山口高明

六郎の絵が紡ぎ出すものがたり

六郎の感性想像力無限

六郎の絵は夢を呼ぶ詩を呼ぶ

ファンタジックなどの絵も六郎の世界

六郎の命宿っている画集

西予市 西田美恵子

貧しい糸で母は豊かに織り上げる

骨になるまでここであなたと暮らしたい

生きてゆく形で丸も三角も

あなたと同じご飯を食べてお茶飲んで

新しい年だ希望の舟が出る

北九州市 小松紀子

生きづらい世の中ですネ アレやコレ

思えば山あり谷あり今至福

以心伝心今夜のメニューが一致する

人生の実りこれからを楽しもう

無理するな言われる程にしていな

唐津市 坂本蜂朗

補聴器を外し首肯くだけでいい

瓶の蓋開ける亭主を侍らせる

指示通り妻に薬を飲まされる

生きている証しのように恥ずかしい

痛たたたと言えは痛みが遠ざかる

病には勝てぬ陛下も御用心

安保理も北のやんちゃに手子摺られ

私書箱の宛名なにかがきな臭い

魔法瓶わたしの夢が詰めてある

他人騙す快感知った詐欺師どの

熊本市 杉野羅天

晩節は修業体も精神も

医と経が問答してる淋しい世

里のどか熟れし柿にも取り手なく

大雪と大雨温暖化哀れ

畑放置唐芋甘く甘くなり

札幌市 小澤淳

異端児がやがて時代の壁を変え

この夏は3kg瘦せたフクラハギ

つぎつぎと射程の伸びる日本海

勿体ない滲みて断捨離進まない

少子高齢逆三角が止まらない

黒石市 石澤はる子

思い切ってイメージチェンジ髪を切る

取って置き笑顔でかわす風当たり

図書館で時々浴びる活字シャワー

暗証番号なぞっています日に三度

ノータッチノーコメントも生きる知恵

黒石市 北山 まみどり

思い出をすべて忘れたわけじゃない

逃げたのはそっち追いかけたりしない

坂道もデコボコ道もまだ行ける

空白の時間を作らないように

少しでも楽しみ方を知ったから

弘前市 稲見 則彦

この先にボクの停留所はあるか

新雪を滑るわたしの弧を描く

最初からセピア色した二人です

ふる里は津軽弘前五能線

バカ塗りと呼ばれうれしい津軽塗り

弘前市 今 愁女

空き地空き家「売ります」やたら目立つ土地

熊と喧嘩してきた男に遭うてきた

米余りがアメリカからも輸入する

仲良しになるには義理もあろうかと

りんごの木裸に雪が降り積もる

塩竈市 木田 比呂朗

だとしても畏まる年初の暦

解つてはいるがやっぱり年賀状

不用意に尺貫法を口にする

値上げにも意気軒昂なエコバッグ

長生きはしたいカードに馴染めない

男鹿市 伊藤 のぶよし

すり鉢の絶品やはりとろろ汁

生きている生きてる二人日向ぼこ

凡人をようやく自覚やっど喜寿

何処へいったか満タンだった筈の脳

紅葉もテレビ新聞みて終わる

上尾市 中村 伸子

マニュアル車好きだったあの日の私

やっぱりねB型でしょと懐かれる

頭は一つなのにまた買う秋帽子

体重計あなたのことを忘れてた

良かったねクーポン使うその笑顔

朝霞市 前田 洋子

待合室となりのお腹グーとなる

木訥な昔へ笑い止まらない

仏壇へ話す事増えている

意外にも猫のおむつは勝れ物

ベランダは天体ショーの指定席

越谷市 久保田 千代

末席へ温み届かぬ政

世も末と思えど今日は昇る

頑張った過去年金で生かされる

一病が人の痛みを解らせる

とんがった鉛筆に見る几帳面

東京都 川 本 真理子

名古屋市 山 本 三樹夫

冬来たる夏には不戦敗続き

言葉数少なくなつて見る景色

スマートフォン使いこなしてわらべ歌

やる時にはやると一人で言っている

念のため第五案まで用意する

横浜市 川 島 良 子

穏やかな秋の陽浴びてみかん剥く

五十歩百歩夫婦の話聴いている

無防備な休日に鳴るインターホン

一週間日記を溜める記憶力

民意より派閥付度する総理

横浜市 菊 地 政 勝

大変が当り前なる世の流れ

三年も経つとマスクも市民権

散り際のスリル造花じゃ分らない

主流派へなびいてみても雑魚のまま

懐メロに老化の脳を目覚めさせ

可見市 板 山 まみ子

食欲は年中無休光熱費

我が家だけ不幸になったような事故

若ければ避けられたかもけつまずき

手術にはリスクあつても賭けてみる

不幸にも一息ついた保険金

泥臭さかも上司に好感度

顔パスは許さぬ自動改札機

砲弾を打つても心壊せない

自転車は免許がなくて罰がある

ドロロンと言う殺人兵器造りだす

犬山市 金 子 美千代

大きく変化あつた三年振りの友

そうかそうかと聞いて欲しいなひとり酒

ペット代わりに買おうかお喋りロボット

ごきぶり体操百回目覚めよし

一万五千歩歩けた足を撫でてやる

犬山市 関 本 かつ子

最下位の中日だけど離れない

コマシヤルの度に消音にするテレビ

逝く時はコスモスがいい花浄土

屋根裏に突然侵入したイタチ

結局は業者が捕獲したイタチ

愛知県 早 川 遡 行

如何なろうと残り僅かな泣き笑い

週一の休肝日さえ守れない

深入りはせぬ友達でいたいから

何党かと聞かれボクはビール党

残された命を囲む酒の瓶

京都市 清水英旺

澄みきつた空に命を吸われそう
気楽だなあその他大勢の中に居る
振り上げた拳どうするブーチンさん
夕七時のニュースが我にかえらせる
不吉とも感じる月蝕の赤い月

長岡京市 山田葉子

昨日の笑顔今日の幸せ呼び寄せる
マイナスがいつかプラスになる不思議
待つことが出来て落ち着き取り戻す
木洩れ日の紅葉秋の贈り物
自宅入院窓から紅葉見るばかり

大阪市 東敏郎

出雲から戻り居坐る貧乏神
目標は健診までのダイエツト
千鳥足ピタツと止まる自宅前
オリパラで「君が代」確と覚えきる
電報の打ち方消えた電話帳

大阪市 石田孝純

両の手に遊び心と恋心
日に一度頭を空にして笑う
冬のケヤキ寡黙な父の化身かも
通販に無い転た寝というサブリ
十年後の自画像飾り前を向く

大阪市 磯島福貴子

色づく街ちよつとセンチに秋暮色
年明けてすぐに歳とる一月生れ
天体ショー信長以来酔い痴れる
夫の手借りて今年も柿すだれ
あつあつの粕汁馳走凍てつく夜

大阪市 井丸昌紀

成り行きを見て見ぬ振りの立ち泳ぎ
抜け出せぬメビウスの輪の悪たくみ
廃線のレールが運ぶ冬の風
酔っ払いも分け隔てなく終電車
道譲る相手も同じ方へ避け

大阪市 岩崎公誠

結論の出ない会議はまだ続き
調べるとメツキばかりの古コイン
真ん中にでんと座ってケチつける
物価高日々アラートが鳴りつづく
ミサイルの練習場か日本海

大阪市 岩崎玲子

運動も無理ない量が続くコツ
ばあちゃんは口の運動ばかりして
イライラを図る胃腸がバロメーター
仲直り素直になればすぐ出来る
老いふたり仕事は散歩ストレッツ

大阪市 内田 志津子

山小屋の朝は霧水に包まれて
ちつぽけな事と槍ヶ岳が笑う
孫に継ぐアイゼン寝袋登山靴
山が好き何度語った風と空
物価高年金ぐらし立て直す

大阪市 江島谷 勝弘

太陽光電力買わず不足いう
マイカーをピカピカにした豪雨
いつの日か切れなくなるよ足の爪
なんでもスムーズ阿吽の友が居る
数独がだんだん解けぬ自覚する

大阪市 榎本 舞夢

ハロウィーン突然死者の大惨事
北朝鮮ミサイル発射何思う
骨折してのんびり秋を映像で
月食も映像で知り楽しめた
スマホテレビうまく使つて日日たのし

大阪市 大川 桃花

町内会の人の名前がすぐ出ない
探しあぐねた眼鏡がなんとポケットに
思い立って観音様に会いに行く
十年のブランク長谷は遠かった
廃屋のカンナ今年もちゃんと咲き

大阪市 大沢 のり子

注意事項文字がうすくて読めません
躊躇せず松茸さいている夫
はぐれ鳥よ大阪の水おいしいか
歓声はフェンスのむこう秋の空
寒くなりました うどんはあんかけに

大阪市 奥村 五月

クラス会この世でできぬ皆あの世
いろいろと蹟く事が多くなる
酒止めて長生きしても楽しめぬ
戦争で弱る地球をまた痛め
苦しいと言わぬブーチン餓鬼大将

大阪市 小野 雅美

悩み事なんじゃらほいと聞く大地
リカちゃんはいいな綺麗な部屋がある
豪邸をランク付けする散歩道
上を向きなさいと人は言うけれど
今年こそまた会おうねとまた電話

大阪市 折田 あきこ

老い支度せねばならぬがはかどらぬ
ドクターの優しい嘘に負けました
神の手がはずれて全治三ヵ月
一徹の夫に寄り添う五十年
運まかせ大きな雲に乗ってみる

大阪市 笠嶋 惠美

感謝して生きることが最高ね

淀川の水をながめて出す勇氣

あくびしてガスをぬいてる心地良さ

美しい落葉を拾う優雅な日

ケーキ代募金に化けた日曜日

大阪市 川端 一步

日本語好きで川柳やめられぬ

泣き顔で鏡を見ると母が居た

出来ぬ子もやさしい言葉待っている

妻の美点ありがとうがすぐに出る

針の穴こじ開けて欲し拉致家族

大阪市 古今堂 蕉子

懲りずにまた札幌五輪に手を挙げた

八十路の一年は肅肅と過ぎる

酒量減る中ジョッキから小ジョッキ

せめてもと結婚式の写真立て

クラシックをレクチャーして逝きはった

大阪市 近藤 正

この春は孫の結婚式がある

要介護のり越えてきた去年今年

化石賞単独受賞した日本

ウクライナ難民想う寒い冬

第八派コロナと風邪が襲い来る

大阪市 坂 裕之

すっきりと目覚めた今日はいい事が

する事はきつちり決めて次へ行く

休みの日ちよつと違った道走る

難しい事言わないで穏やかに

生句会出来るがちよつと緊張も

大阪市 高杉 千歩

行くも帰るもわたし次第よ車椅子

雲一つない青空を車椅子

見渡せば竹馬の友はみな冥府

同じとこで笑ってしまう名人芸

いい老後三食昼寝風呂お八つ

大阪市 田中 廣子

八十路越え計画だおれ多すぎて

年重ね祖母の教えが身にしみる

祖母語る昔話が好きだった

寒い中皆既月食あおぎ見た

団十郎襲名公演見たいなあ

大阪市 津村 志華子

令和五年B団地にも春が来た

新年は家で仏と祝いたて

年末年始入院というお仕置きに

意に添わぬ事ばかりなり老いるとは

退院の其の後の不安あれやこれ

大阪市 寺 本 実

内宮は榮え外宮寂しいお伊勢さん
想い出を紡いで歩く裏通り
譲られて始末に困る里の家
偽りの神は金だけ吸い上げる
動員の声はかからぬ歳ですが

大阪市 原 田 すみ子

キッチンはいつもわたしを光らせる
訳有りの人も野菜もそえられる
母の味わたしは何を残せるか
言い分けを探すわたしの背が曲がる
そのままがいい比べることはもう止める

大阪市 平 賀 国 和

久々の上京友の一周忌
碁盤囲み冥福祈る囲碁仲間
八十の壁越せない友が増えてきた
アラフォーの姪の結婚いい知らせ
戦などしている時か地球危機

大阪市 降 幡 弘 美

来客があると出来ちゃうお片づけ
意外なモノ売れてビックリするフリマ
激太りしている妻のスケジュール
すっぴんは肌も何だか嬉しそう
パスワードつい声に出し入力す

大阪市 宮 崎 シマ子

漁火を友と手を組み見つめてる
ホームではお餅も出ないお正月
こんなとこに夫のへそくり貰ったとく
あの雲は友を待ってる動かない
腰痛で丁度よかった寝正月

大阪市 山 本 加お里

カズノコはちよつと贅沢した気分
今までの人生書いて蘇る
プリンター故障で友にSOS
夫の声はつきり聞いた夜明け前
子の前で心配かけず空元氣

大阪市 横 山 里 子

光熱費値上げラッシュが癪の種
Jアラート鳴つても逃げるところがない
介護資格使わぬままに介護され
息子より会話がはずむロボコちゃん
テレビ消すわたしの時間取り戻す

堺市 柿 花 和 夫

雑学を武器に歳の差埋めている
仲直りできそう充電済みました
駅名にアイヌの歴史北の旅
コロナお手柄わが家にホームバーできた
耐えているピサの斜塔も難民も

堺市源田八千代

山頭火の境地晩秋何か鳴く
透き通った秋空の下亡夫の忌
白菊を好んだ母の心意気
芋掘りと柿挽ぎ曾孫大はしやぎ
ちよこんと座り僧のお経聞いている

堺市齋藤さくら

大地踏みしめて命の重さ知る
ふる里は土の匂いのしてる町
良い人になれぬ悪い人にもなれぬ
友に会う楽しみ元氣湧いてくる
顔よりも頭の形誉められた

堺市坂上淳司

独裁者増え混沌とする地球
台湾有事有れば沖繩巻き込まれ
飢える民見ずにミサイル撃つ狂気
ミサイルが飛び越えてから出る警報
徐々に徐々に面舵を切る日本丸

堺市内藤憲彦

若き日の僕の匂いがする息子
夕紅葉いにしえ匂う法隆寺
裏切りは裏切りを呼ぶ戦国史
しっかりと百を越したい粗衣粗食
願わくは演歌流れる家族葬

池田市太田省三

何回もブレーキランプ九十九折
行動が地域支える婦人会
詐欺メール残金ゼロの鉄の壁
少子化の母校が消えて故郷死ス
鉄鍋とお玉がひびく町中華

貝塚市石田ひろ子

ペン牝脈を知らぬスマホに馴染む指
久びさの句会血液さらさらに
落葉燦燦ふとシャンソンを口ずさむ
昭和一粒どっこい令和華にする
てのひらに大きな恩があるのです

河内長野市梶原弘光

耳の痒み治り小指を持て余す
ストレッチ負荷のかけ方にも慣れる
三千円以内と決めてますサブリ
墓仕舞い引つ越し先を決めてから
後出しのじゃんけん既に読まれてる

河内長野市木見谷孝代

休耕田コスモス揺れて人の波
耕して土に元気をもらう日々
絵手紙で心耕し十五年
あれこれと刺激をくれる友がいる
この世の旅焦ることないあと少し

河内長野市 中島 一 彌

諍いも日課のひとつ自然体
戦場に散った命の軽さ問う
バスよりも山車を優先する風土
情緒捨て観光を取る町づくり
ドヤ顔の園児が見せる掘った秋

河内長野市 藤 塚 克 三

年重ねいろんなことの謎が解け
酒浴びて薄いたプランはすぐ忘れ
ありがとうの妻の一言サブリかも
支えると笑った妻も医者通い
詰め放題不動明王主婦の顔

河内長野市 村 上 直 樹

九条で戦も知らず喜寿傘寿
ざりざりでも生きた誇りの戦後っ子
平気ですあの世でも酒飲めるなら
目論見通り運ばぬ老いを楽しみつ
校庭の歓声夢よ咲け実れ

岸和田市 岩 佐 ダン吉

地球儀が泣いていますよ大統領
年金が減った医療費倍と言う
距離を置き暫く僕を見てやろう
眩きもやがては声になるだろう
付度が続き私が軽くなる

岸和田市 雪 本 珠 子

生きてれば心が折れる事もある
迂回したお蔭で視野が広くなり
ありがとうの気持忘れず生きてゆく
日日感謝余生を妻と過ごす幸
八十路坂気持は若い頃のまま

吹田市 太 田 昭

飯が美味いこんな贅沢して余生
よい国に住んで平和の鐘を聞く
まだ生きるために両手の爪を切る
枯れ葉でも肥やしになって役に立つ
3密に山も他人も無口なり

高槻市 片 山 かずお

少しならいいと言われて飲んでいる
アンタの少しは多いと言われながら飲む
追い越されるばかり傘寿の高速路
妻だけが僕の運転でも眠る
歳に不足はないと優先席に座す

高槻市 島 田 千鶴子

充電です十分ほどの立ち話
ミステリー興味津津秋夜長
本棚の奥にひっそり歎異抄
参道の落葉のアート消す風よ
坂道のバス停の椅子ひと休み

高槻市 初代 正彦

皆既月食惑星食に酔うた夜
澄みきった青空日本の平和
お買ひ物偶のお供もいい刺激
ふるさとの秋を包んである土産
気晴らしにボールをポンと蹴りあげる

高槻市 富田 保子

糸通し出来て傘寿の針仕事
毛筆を持つと背筋がピンと立つ
会う人に会えた笑顔が嬉しそう
新米の宅配便に涙する
当分は旅行するなど言う夫

高槻市 松岡 篤

お年玉皮算用の内が良い
久しぶりの熱はコロナかインフルか
一枚で便利とリスク持つカード
音信が絶えた友から年賀状
川柳に溺れた沼が深すぎる

豊中市 池田 純子

若者のどうぞの椅子にありがとう
歩ければアタージュで良し二重丸
五センチのヒールで歩く夢を見る
飛び跳ねていたい今年は兎年
天体ショー孫とはしゃいだ赤い月

豊中市 上出 修

深い闇オリンピックも金まみれ
老い知らず古希にも米寿にも五欲
老いる脳錆びてたまるか五七五
ノーベルから連絡ないとハルキスト
神々しい思わず拝む初日の出

豊中市 きとう こみつ

久しぶりの旅にときめくバスポート
きつちりと靴を揃えて恙無し
のんびりとしてた昭和という時代
蹴らないと心配されるお腹の子
お風呂場でわたしの美声響かせる

豊中市 藤井 則彦

逆上がりできた夢見てふとやる気
お互いに知らん顔して済むマスク
百歳の夢語り合う遠い耳
懸命に生きて合点の行く最期
いざ妻が外出すると寂しがる

豊中市 松尾 美智代

足早に過ぎ去ってゆくいい季節
ひとつずつ仕事こなして日が暮れる
片付けがいつぱい待っている八十路
おいしいは大事な言葉生きる糧
皆出かけホッとひとりでモンブラン

豊中市 松田 蟻日路

時雨ゆく落ち葉と俺を湿らせて
色づく木などのあたりだろ俺の秋
待合室ベンチの端に一人ずつ
楽勝のはずがエラーでこける虎
譲れない物も有ります僕だって

豊中市 水野 黒兎

ゴロゴロと小芋洗って秋豊か
コスモスの迷路に秋の日を遊ぶ
三叉路の風にまかせろ進む道
金曜はルンルンだった若かった
幾度目の卯年再び跳ねようか

富田林市 中村 恵

小さな翼を持っていましたむかし
断捨離を兼ねて尽きない衣更え
思ひ出の母のばらずしお赤飯
疑いの芽は早々に摘んでおく
優先席シルバーだけが譲り合う

富田林市 山野 寿之

幸せのパロメーターは笑い皺
メルヘンの世界へ誘う子守歌
一本の傘へどうぞが美しい
笛太鼓体が疼く血が騒ぐ
懸崖の菊庄巻に息を飲む

寝屋川市 川本 信子

願い事一つ増やして初詣
カフェインの力を借りる老いの脳
水空気あるから文句言えません
元気を過信ギックリ腰が襲う
見てほしい褒めてほしいと青いバラ

寝屋川市 伊達 郁夫

次ないと知っているけどまた今度
することがあるから今日もメガネ拭く
爺さんと呼ばれ返事をしてしまう
順番に逝くから覚悟出来ている
字足らずの秋がふんわりやって来る

寝屋川市 富山 ルイ子

ねやがわ句会行きたければと言うけれど
ワクチンの五回目予約してくれる
ウクライナ冬に向かって頑張つて
生活の基盤なくなるウクライナ
ウクライナの事考えて痛む胸

寝屋川市 平松 かすみ

祝米寿お鮎十貫平らげる
生きること忘れぬように深呼吸
記憶には無いが写真に並んでる
ばあちゃんの今日の出立ちヘルメット
八波など来ぬよう祈る今朝の冷え

寝屋川市 廣田和織

考える輩でありたい喜寿の坂

ストレスで甘さが増すという果実

医者の指摘に心当たりの私生活

寒風に晒して僕に味が出る

どんどんとサラサラになる夫婦仲

羽曳野市 磯本洋一

しかし待て議員定年そのままか

今時はスマホの釣書味気なく

まあまあ試飲コップで目が回り

元氣かい煙草酒止め羊羹も

こんこんの雪が恐くて息子呼ぶ

羽曳野市 宇都宮ちづる

チンブンカンブン理解不能の若者語

夜中のキッチンゴキブリに出会す

喜寿傘寿あたりが町の溝掃除

部屋犬も行く寝る前のトイレット

巢ごもりに慣れて紅葉の誘い断つ

羽曳野市 徳山みつこ

まっ白な今年汚れませぬように

小春日に笑う山茶花二つ三つ

亡母の齡越えて糠床なじみ出す

電子辞書よりよれよれのマイ辞典

苦勞した人だ自然体になる私

羽曳野市 藤原大子

コロナ禍のやる気しぼんだまま三年

日記とや今じゃ私の記憶帳

何よりの天敵決めれない私

一言がフラッシュバックして責める

新聞とにらめっこする至福どき

羽曳野市 三好専平

涯知れぬ砂漠に挑む棋士聡太

八階の病棟に入り決めしこと

コルセット外したままの足の冷え

退院の人がバッグを肩にかけ

腰痛の霜月の朝となりにつけり

羽曳野市 吉村久仁雄

のんびりと生きるとすぐに腹が減る

次の日のおでんに妻の愛を知る

ぎらぎらと睨みつけてた惚れていた

デジタルな暮らし生き様はアナログ派

喧嘩もう止めメシとお酒がそこにある

東大阪市 北村賢子

コロナ禍へ充分すぎるほど一緒

ありがたい傘寿を過ぎたバースデー

月蝕へベランダ出たり入ったり

血眼で赤銅色の月を見る

天体ショー何度大空仰いだか

東大阪市 佐々木 満 作

物価高俚しく暮らすすほかはない

真夜中も情報キャッチするスマホ

昏迷の世の中なるようになるさ

子も孫も入れて毎月誕生日

終活はまだしない百まで生きるから

東大阪市 西村 哲 夫

慚愧無き心で過ごすお正月

呑むだけの正月おせちよく似合う

そうですか言えは終つてしまうから

川柳の薫じる先は路郎流

無位無冠私はわたし母の自負

枚方市 谷 英 也

ここ三年マスク美人に慣れました

賃金延びず物価指数は延びてます

コロナ禍も普通の風邪になりきれず

八十路きていまだ夢見る追試験

便秘です自転車止めて歩きます

枚方市 丹後屋 肇

マドンナも杖で参加のクラス会

さんばら髪稽古の虫のかい夢

老いの杖一票投じて帰るのみ

情けないコロナブーチン寒暖差

振り込みを急かすメールがまた届く

枚方市 藤 田 武 人

干からびた芸へ声援という水

名言を焼き付けている耳小骨

揺るがない躰ける父の座標軸

鍵穴に潜む攻撃型メール

人生のマニユアルの数ひとの数

藤井寺市 太 田 扶美代

コスモスもわたしも秋を愛おしむ

チッチチッ小鳥の声を真似てみる

亡母の味やとカレーライスを食べに来る

掃除機もわたしもフリーコードレス

私にない優しさ病夫あなごが持つてはる

藤井寺市 鴨 谷 瑠美子

母の歳になりその哀しみがわかる

きれいい好きというから深入りはしない

吊り革のままで終点まできたの

華だったころの妻には僕がいた

ぎこちない軸足夫と支えあう

藤井寺市 鈴 木 いさお

頭から足の先までお爺さん

本気出せば若いもんにはまだ負けん

ボケないで九十までは生きたいね

老人と呼ばれたくない傘寿です

諦めが悪い僕です悪いからず

藤井寺市 吉田 喜代子

末妹の喪中ハガキを出す身とは

五体みな不満足です生きてます

川柳を長く続けた御褒美に

中妹とは電話回数増えました

来春は明るい光が射すように

箕面市 大浦 初音

拾った犬常に忠実恩にきる

老犬にわが老い先を教えられ

まな板に鉋をかける亡父がいた

一番星見つけて帰る子供たち

キャッシュレスなれて無駄買い多くなる

箕面市 中山 春代

Ｉターンの友の工房皆遊庵

「ゆきの家」初体験の山羊チーズ

ハロウィンの魔女へお菓子を渡す役

残り物にコロッケ足して晩ごはん

藁を焼く煙に透けている昭和

箕面市 出口 セツ子

言いたいこと顔色を見て言えず老い

忙しい方が元気になる私

子を産んで長生きしたい欲がある

優しい子居るから明日もがんばれる

子が元気ならば幸せ世界一

箕面市 広島 巴子

三年振り車窓わくわく日本海

旅の無事まず大仏に祈願する

アルプスの峰に感動雪化粧

ゴンドラで空中散歩夢心地

滑りたい苗場リフトで青春に

八尾市 寺川 はじむ

好きも嫌いも三度の飯を噛みしめる

青春時代何と響きがいいんだろう

火傷せぬ距離で悩みを聴いている

恥を承知で言うたひと言葉が和む

思い起こせばあのひと言で波に乗る

八尾市 村上 ミツ子

川柳にざつくばらんをちりばめる

ベランダのすみれぐちばかりきかされる

わたしの愚痴だまっつきいてくれる空

とりあえず起きるなんとかなるだろう

愚痴にみせかけた幸せじまんだな

大阪府 米澤 俣子

気の乗らぬ話は浅く腰かけて

足元のしあわせついぞ忘れ勝ち

母の教えに無駄というもの見つからず

ひと月の糧を宅配に頼る日も

秋の夕暮もの悲しくて嫌い

神戸市 上田 和宏

イヤなところも許しておこう妻だから
ほやくのは余裕があつて出来ること

子に勝てぬ歳を悟っている至福

チャンネルはどれもおんなじことを言う

ガードマンスタイルで行く夜散歩

神戸市 奥澤 洋次郎

今日もまた馬鹿でないのかもの探し

一時間待てば必要のなかった死

遺産相続昔のうらみ顔を出す

勘違いする者になつている大臣

帰り道ビールの当てをかう余生

神戸市 輿水 弘

間の抜けたやり取りだけど和む古い

新年を空気のような夫と屠蘇

思い出に石を投げつけちよと遊ぶ

スキんシップ膏薬張りがただ一つ

思ひの舊咲かず今年そのつもり

神戸市 近藤 勝正

Jアラート朝から響く文化の日

秋夜長読書もいいが酒もいい

坂のない道を歩けるやつと八十

一年を静かに終う銀杏の葉

寒い朝すべて許せる夏のこと

神戸市 敏森 廣光

この歳でまだ働ける場所がある
妻娘孫女性の絆強いなあ

久しぶりの飲み会友に癒される

今年こそ行つて騒ぐぞ忘年会

幾つになつても優しい人でいたいなあ

神戸市 冨永 恭子

忙しくも満たされぬ日日人を恋う

胸中を察して言葉しまい込む

信用を受けてやりぬく力湧く

朝露を浴びてかぶらも甘くなる

悪用はしないでドローンもAIも

神戸市 能勢 利子

マスク外しウオーキングする須磨の浜

コロナ禍に役に立ちます隙間風

マニキュアで今日はにこにこケアハウス

甘えるより甘えられたい百二歳

久し振りのカラオケ声が出なかった

神戸市 松倉 正美

両腕にワクチン打って冬支度

友の悩み親身になつて聞く夜長

児も母も満艦飾の七五三

どしどしといふコロナ野郎が憎らしい

坪庭に熟柿が落ちて真っ赤っか

神戸市 山口 光久

咄嗟に出たジョークにその場救われる

大声をあげるほどでもあるまいに

揺れながら老々介護続いている

団子虫に保身の術を学ばねば

やるだけのことは遣ったと風を待つ

神戸市 山崎 武彦

ふわりふわふわふわりご前様

偏差値で輪切りされてく子の未来

蜜行にJアラートが鳴り止まぬ

ロマン追う少女は花の匂い持つ

焼酎にカニ缶が付く誕生日

明石市 穂谷 和郎

ワクワクの欠片が底に古靴

神はまだ見捨てておらぬいい目覚め

グラデーション元の私が薄れゆく

ひとりでは編めぬふたりで編む家族

君とならやれる気がする茜雲

芦屋市 荒牧 孝子

平凡に過ぎた一年感謝する

この年で生きがい見つけ句作りの

ワイワイと家でタコ焼き子にかえる

平和ですテレビ見ながら居眠りす

横の椅子貴方を待って空けてます

芦屋市 新阜 義明

値上増タンス預金の鍵も開け

グロランブつくより遅い更迭が

スーパリーの無料袋をリサイクル

母超えるいなり寿司には未だ会わず

トイレ用ミニエアコンがあれば買う

尼崎市 近兼 敦子

恋をしてまるで別人二十歳の娘

さわやかにおはようさんと仲直り

結び目をわざとふんわりさせたまま

車イスぎゅつとにぎった使命感

自信あることはたいいボツになる

尼崎市 永田 紀恵

なにやかや言うがまとまる飲み仲間

悪友が多く世渡りスムーズに

忘れましょ答え合せはしないまま

G7なぜか見劣りしたジャパン

老人医療値上げを聞いてスクワット

尼崎市 羽奈 和子

背は高い足も長いと限らない

混んでても空いてもイヤ病院は

勝ち負けにこだわらないと負けの側

することがあつて朝から元気です

イベントのように楽しむ回る寿司

尼崎市 藤井宏造

案山子にもごくろうさんと秋祭り

はぐれ雲気楽でいいな一人旅

運動会孫を見つけるのが仕事

若いなあと言われて役をさせられる

淋しさがどんだんつのる秋の雨

尼崎市 藤田雪菜

ガムテープしつこく貼ってある荷物

あいさつで増えるつながり地域の目

水捨てて水の匂いのする花瓶

窓開ける部屋が寂しくないように

一服にお茶も紅茶もマグカップ

尼崎市 山田厚江

金持ちは古今東西ケチですわ

半世紀たつて変わらずサザエさん

盆・暮を催促してる母元氣

指揮棒振る孫の帽子の羽根が揺れ

里芋がゴロゴロ母の小言言う

加西市 山端なつみ

今回は標準語での初朗読

鎌倉の話になぜか播州弁

アクセント辞典片手にチェックする

アクセント気にしすぎると読めぬ文

朗読会次はいつかと記入あり

川西市 山口不動

あつあげにだいここんにやく冬温し

初恋の人も老いたか落葉踏む

明け遅しベッドの中で五七五

毎日が聖なる日々や八十路坂

どんぐりのころがる道をそろそろと

三田市 足立つな子

まっくろに焼けたニンニクおいしいの

気のきいた生意氣盛り目立つころ

聞こえてるイエスもノーも言わないの

犒われ並み大抵のことでない

エイジングあつちこつちが痛みだす

三田市 稲角優子

赤ん坊の笑顔のようなパン焼ける

嬉しいと人に優しくなってくる

あきらめない佳き日は今にやって来る

外来の廊下で遅い秋を知る

萩のみち母に叛いた日を想う

三田市 上田ひとみ

本当を知ることとてもつらいこと

大丈夫あなたのウフ守ります

長年のボーカルフエイス疲れ気味

陽の当たる小さな家で幸せて

友だちの作ったお芋の甘いこと

三田市 大西 重男

廃校の廊下に残る遠い夢
平均寿命越えてこれから付録です
思い出を缶詰にしてあの世まで
金がない知ってか詐欺の電話ない
三年越しマスクはずした素顔見る

三田市 尾崎 一子

衣替えコタツも出して猫になる
月食に御近所さんの顔そろろう
何もないがゴミはたまるよ生きている
カニ解禁テレビ見ながら里を恋う
菊日和家族が揃う墓参り

三田市 九村 義徳

逆風が養いましたど根性
プランなし人生気儘ひとり旅
指切りを信じ眠った孫の顔
羽ばたけと飛び立つ背なに郷の風
立つ位置を変えれば見えた打開策

三田市 住吉 美和子

次々と値上げラッシュで身も細る
老いの日々皆で知恵出し暮らしてる
風に揺れる洗濯物も秋の色
案山子祭り世相を映す晴れ舞台
四季折々田舎ぐらしは魅力的

三田市 多田 雅尚

コロナ慣れ感染者数気に留めず
簡単な体操さえも続かない
日差し浴びパワーを貰う古い二人
血圧と体温測り今日も無事
スポーツの後はシッブの世話になる

三田市 中山 昭美

自家野菜どっさり入れた自慢鍋
国宝と知って野仏もありがたし
誤送信より選ってすぐ既読
ストレッチすればポキポキ老いの音
おにぎりをふわっと結ぶ優しい手

三田市 野口 真桜子

人生を狂わすタイプ君に夢裡
気合だけで買ったスマホに躍らされ
遺言は安い柩と家族葬
ミサイルに平和背負わす罪な国
あの日から秘密を抱いてダイヤ婚

三田市 村田 博

継続は力と知った文化の日
ビッグマウスチーム鼓舞する大花火
間引き菜で一品おかず出来ました
テニスコート忍者まがいのレストランで
年賀はがき減ってもゼロにせぬ積り

高砂市 松尾柳右子

成り行きに任してありがたい師走

年末の墓参氣遣う孫子達

恙無く亡夫を偲ぶ6年目

それぞれの名前まごつく孫曾孫

栗むきの苦勞が判る栗御飯

宝塚市 丸山孔一

自転車のおばちゃん横一列

たてがみの立派なオスは動かない

はやけてる眼鏡拭いてもまだぼやけ

断捨離と言いつつ妻は家電買う

夜明けかと思れば時計は午前二時

丹波篠山市 北澤稠民

霧深い丹波に冬がやってくる

しわしわの手で渡される妻のお茶

世界中心寄せ合う募金箱

今の我老いゆく備え食べるこ

幾とせも住んで都と知る我が家

丹波篠山市 酒井健二

爪だけは丸く研いて旅の人

善人の顔して渡る沓岐対馬

沓岐対馬記述通りの倭人伝

背伸びして釜山眺めている倭人

奮発の沓岐焼酎は値打ち物

丹波篠山市 藤井美智子

怒らずに済んだ自分を褒めてやる

亡夫の分私がもらう生きる道

人気者ひ孫家族を和ませる

のんびりと出来る我が家が愛おしい

新年へ卯七回目の年女

西宮市 緒方美津子

久しぶり元氣をもらう「舞いあがれ」

今を舞うしなやかに舞う秋の蝶

マイペースすたこらさつさといかぬ

ソフトな声ではつとまらぬ鮮魚店

可愛がっても逃げていく籠の鳥

西宮市 亀岡哲子

少しずつ押してコトンと開く音

ふくろうの住居無くしてビル建つ

今更に分かったことのあり小春

会えないがありがとさんと選る歳暮

お巡りさんに助けてもらた里の道

西宮市 福島弘子

悔やまぬよう会える時會っておかねば

百武歳形見の琥珀偲ぶ会

クラス会兼ねる恩師の墓参り

故里の香りも届く初りんご

物価高具材を減らす鍋料理

反論に半歩譲って妥協案

南あわじ市 萩原 狸月

歌映画美術に飢えて島ぐらし

一票をくれる人なら色を見ず

手間要らぬ夫で妻に忘れられ

いつか死ぬ今日でなかったそのいつか

奈良市 東 定生

金曜日リタイヤしてもなんか好き

冗談もジョークも言える国が好き

バラエティー字幕が欲しいニッポン語

億もするミサイル飛ばす北の国

太陽と風が便りの脱炭素

奈良市 大久保 眞澄

締め切り日漢字調べているうちに

ブーチンはもう人間をやめたらし

厄介かけます団塊世代です

立ち話ラ抜きイ抜きは自然体

夢もいいけど人を巻き込まないでよね

奈良市 加藤 江里子

トロ箱の惨懐かしい浜育ち

一本締め祭り終了恙なく

良心の欠片を探す謝罪文

瞳に涙吾子は悔しさ堪えてる

異国の街ふつと暮らしてみたくなり

万博よ五輪の轍を踏むなけれ

観光地インバウンドに気もそぞろ

暑いねが寒いねになる母の声

失敗を笑いに変える旅の道

秋明菊風の行方追った跡

奈良市 辻内 げんえい

ひつまぶし食うためだけに名古屋行く

年賀状やめると言えぬ歳上に

スロー&ステディ我がリハビリの合言葉

ご近所散歩あごマスクだけつけていく

ゆっくりねと言われ留守番寝てるだけ

奈良市 山本 昌代

秋景色ひとり散歩の靴の音

海岸を歩く波音耳にして

帰ろうかお腹もグウと鳴り出した

ひとりじゃないながーくのびる夕日影

シャンプーの香り明日へ夢つなぐ

奈良市 米田 恭昌

ハロウィーン阿鼻叫喚の大惨事

ブーチンを取り巻く平和叫ぶ声

リベンジを誓う男に炎たつ

スマホ手に同行二人という遍路

諸物価高騰眠れぬ兎目が赤い

生駒市 飛 永 ふりこ

奈良県 谷 川 憲

掛け軸の七福神に祝う屠蘇
誉めたのに深読みされる情け無さ

山頭火飄飄生きる道標

大らかな笑い木霊す紅い森

真っ直ぐな銀杏仰いでさあジャンプ

香芝市 大 内 朝 子

踏み出せば心羽撃く青い空

日溜りで働き蜂の頃思う

御利益は決して金で買えません

重い荷をまだ下ろせないカタツムリ

前を向き希望の明日へひた歩く

香芝市 山 下 じゅん子

半世紀家族の会話聴いた椅子

敬える父と気付いた七回忌

方言を使うと故郷近くなる

家族皆壁を作らずワンチーム

旅するチヨウ羽根を休めてわが庭で

奈良県 安 福 和 夫

振り返り我も大和の謎探る

二上山指差す卑弥呼目に浮かぶ

日本の源流探る奥深し

高松塚飛鳥美人無事復帰

古都の謎発掘に目が離せない

コロナ禍の祭り元気を皆もらう

円安は日本の良さを売るチャンス

何をしたということもなく日が暮れる

独裁者相談できる人いない

海の幸いっぱい母の散らし寿司

奈良県 中 原 比呂志

初日の出高い所へ登りたし

叶わぬが賽銭投げて鈴振って

一億を信者にさせて日は昇り

福耳といわれ細々暮らす日々

子や孫が働き返す給付金

奈良県 中 堀 優

老いた鯉まだ上ろうと川の堰

閻魔さまに問う極楽か地獄行き

頑張ろうと誓う二人のグータッチ

喜寿を越え見かけは枯れど脳青葉

釈迦の説く「空」少し知り楽になる

奈良県 長谷川 崇 明

夢を見ることはAIでは出来ぬ

三年が残酷でした同期会

カタカナの波に溺れている八十路

サンマ高値やはり秋だし食べました

戦よりドローン平和の使者になれ

奈良県 渡 辺 富 子

身の内の尖りが消えるまで歩く
お日様と折り合いつけてウォーキング
理想とは遠い男にある魅力
コロナ明け若さばくはつした惨事
まあいいか自分に言って甘くなる

和歌山市 上 田 紀 子

リモコンで僕の一日制御され
天敵は私の中に棲む悪魔
秋なのに思考回路が錆びている
柿の種植えて八年待ち切れず
マスク顔慣れてしまったノーマイク

和歌山市 柏 原 夕 胡

紅葉狩りせぬまま冬になりました
猫が居るので暖房は消せません
パンジー植えた球根も植えました
冬の日の風呂極楽の声が出る
冬の日には手抜きの出来る鍋がある

和歌山市 松 原 寿 子

土の香が好きで高層には住めぬ
文化財指定囲炉裏で集う里の秋
発想の乾き散歩に癒される
鈍くなる頭磨いて趣味生かす
優しさがじんわり浸みて頬伝う

和歌山市 藤 原 ほのか

リハビリはやればやるほどもどかしく
あせらない一歩ずつ歩く庭
このままで終れない歩み止まらない
一日を精いっぱい生きて過したい
坂道でも歩みを止めることはない

海南市 小 谷 小 雪

市民には良い戦争はありえない
残念にも喪中ハガキに致します
拉致の二字まだ悲しみに耐えている
合点のいかないうちに夕暮れる
ひょうひょうとアンソロジーを紡ぎゆく

橋本市 石 田 隆 彦

のんびりと生きるも老いは急ピッチ
里山も田んぼアートの村起し
妻がいるそれだけの幸つね日ごろ
国会の答弁聞くと出る阿修羅
打つ手と詭弁プーチンにある焦り

川柳塔柳箋

3冊 送料共 1000円

事務所あてお申し込み下さい。

蒔蘿草の花

①

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

新年おめでとうございます。当欄を担当することになりました野沢省悟と申します。簡単に自己紹介します。昭和28年生まれ（ブーチンより半年程若い）、青森市在住。看護師として国立病院に勤務（今は無職）。昭和51年（23歳）川柳入門。現在「川柳触光舎」主宰。みなさまの作品から力をいただき当欄と一緒に歩いてゆきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

タイトル「蒔蘿草の花」は、麻生路郎の次の句から考えました。

君見たまへ蒔蘿草が伸びてゐる

僕はこの句の蒔蘿草が野菜であること、誰かが種を蒔かないと芽を出さないことから、この蒔蘿草は川柳人のことではないかと思いました。路郎が川柳という種を蒔き、そして多くの芽を出し育った。やがてその蒔蘿草は次々と花を咲かせた。その花とは川柳の一句一句という

花。「川柳塔」欄は、そのお花畑と思いたわけです。

美しい錯覚でした枯れ葉舞う

上田紀子

落葉ではなく舞うのは枯れ葉。茶色になり乾いてしまった葉が舞う中に、ひとりの女性が佇み空を見上げている。さつきさやかな別れがあつたのだ。あきらめるためには、何か言い訳を考えなければならなかった。そうしなければあきらめきれないから。ふいに一陣の風が吹き、一枚の枯れ葉が舞い上がった。そしてキラリと輝いた。やがて女性は一歩を踏み出した。

秋日和ひがな一日ぬらりひょん

斉尾くにこ

「ぬらりひょん」は、漫画「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる妖怪。お爺さんをお地藏様にしたような姿で、気配を消す能力があるという。みんな出かけて一人になったある日、何となく人間で居ることがめんどくさくなった。そうだ、ぬらりひょんさんになろう。気配を消して、お日さまと一体となった、ある秋のいちにち。

Jアラート危機感煽りほくそ笑む

近藤 正

僕がBS「心旅」をみていたら、画面が急に変わった。Jアラートであつた。北海道・青森にミサイルが来るといふ。その後もJアラートがあつたが、一度は飛び越えてしまつてから、二度目は飛んで来なかつたJアラート。何かおかしいと思う人は多いだろう。「ほくそ笑む」輩の仕業ではないのか。川柳の燻し銀の眼が光る。

味噌煮込みうどんに深々と潜る

石橋 芳山

コロナ禍、ミサイル、ウクライナでの戦争。いろいろとありすぎる世界。一匹の男にはなすすべもない。考えていても腹はすく。ちまちまと働き、「今日は味噌だな」と眩し煮込みうどんをつくりはじめる。食べようとすると妻が帰つて来た。叱られることがあつたことを思い出した。一匹の男は煮込みうどんに潜るしかなかった。

白鳥の白一色の多彩かな

栗原 道夫

つぎつぎと青森に飛来している白鳥。気高く美しい白鳥ではあるが、近づいてよく見ると汚れたり傷のある白鳥もいる。白ゆえに逆に目立つたりする。「白」は美しいが残酷な色でもある。

川柳句集『肉眼』

橘 高 薫 風

滝の白 雨は斜めに降りかわり

春日大社万灯籠 三句

灯籠三千 祈願三千 尽くや神

静かな灯三千集つてしずかなり

大いなる硝子の如き寒気あり

お水取り 二句

火の粉降る闇 豊頬の奈良乙女

走る火の行きつくところ屋根の反り

恋を待つ人座り椅子充実す

雪国の路にひ弱な都会の靴

真心をあげて淋しくなりました

待つ人が来て愛犬を放ちやる

税務署出て万の毛穴を推しひろげ

赤い鉤 赤い糸もて人魚は釣られ

春愁の 無より淋しき無限大

笛吹き童子 恋ならなくに ならなくに

仏像を恋うるがごとき恋となり

ホームバー 子なき夫婦が赤を着て

秋吉台 石の饒舌 雲の默

朱の鳥居 愛恋道の入口か

寂まくと 伎芸天女に指紋なし

尾の道にて 五句

師はあらず 文学小径埒もなや

尾道や 今見下ろせし船に乗る

五月の雨 尾道生駒似たるあり

師を胸に置く 船と船すれ違い

盲目の亜鈍氏が笑む 師を話し

四十過ぎ 闇の深さが見え初めて

鯛網の威勢も劣る鯛の鰯

鯛網の冷めたき鯛と思われず

香水を変えぬ 女の絆に似て

自選集

小島蘭幸

トランポリン兎の脚力が欲しい
聞く力総理の耳と僕の耳
返納しますか認知検査を受けますか
カウントダウン生きねばならぬ日が続く
柳歴を誇る一途な僕がいた

平田実男

年輪と思えば皺も勲章だ
よいしょされまだ会長をしています
いい汗がビールをうまくうまくする
訃報欄今日も僕より齢が上
生字引なんて言われている卒寿

富士慕情

師の句碑と会える中野の紅葉狩
年賀状今年も減った喪の知らせ
あの世へは行って帰った人いない
娑婆にこそ地獄極楽あると知る
不眠症ねむりの醒めぬ時がくる

恩師との別離

看取られる方が見送る破目になる
生き切った微笑湛えている骸
涙溢れ言葉つまらせ読む弔辞
大切なひとが何故そうも先に逝く
現世の守護霊となる師の祖靈

藤村亜成

松本文子

酸欠になりそう ふっと空を見る
我慢ガマンと生きて来た昭和
幸せをしみじみ結ぶ糸の先
蚊も生きているのに叩くくせが出る
米寿です 自転車止めました

三浦強一

家庭菜園収穫祭はバーベキュー
スマホより生で聴きたい孫の声
柳誌来て心が和む秋灯下
巢ごもりへ生きる鼓動の五七五
濡れタオル立てて見せます氷点下

三宅保州

坂道があつて人生鍛えられ
村長の音痴の歌で盛り上がる
祭りより露店目当ての孫はしゃぐ
テレビでは窮屈そうな立ち廻り
年の暮れだから解決できること

村上玄也

広大な大地持つ露の領土欲
人間と思えぬプーチンの仕業
頑張れと祈るしかないウクライナ
独裁者同士気脈が通じ合い
毎日が同じパターンで暮れていく

輪廻とや

八木千代

百年あまり生きて終わった樅の樹よ
父の愛した松は庭師の定収入
紅葉は私旅の終りの隠れ宿
枝垂れしだれて根もとの土に実を渡す
輪廻とや かくていのちは周りに来る

山本希久子

のほほんと生きて米寿の誕生日
未経験の米寿だわくわく迎えよう
米寿スタート転ばない風邪ひかぬ
血圧からメッセージくる冬ごもり
句の姿さえ年齢並みになってきた

板尾岳人

白鳥のように浸りし妻と湯に
仲秋の月眺めてる乳房
おい妻よ風邪をひくなよ露天風呂
明日にも逝くかも知れぬ百度石
一枚の畳に砂漠落ちていた

居谷真理子

子を産んで鯨は魚になりきれず
人の世に生きて深海魚の孤独
スーパリーのちりめんじゃこにある格差
残酷な箸が兜煮食い散らす
本当の味は煮干しになってから

川上大輪

へソ少し曲げればそれで済む話
タンスから昔話が二つ三つ
ポケットの小銭明日も生きられる
慌てるなうどん食べたら教えたる
先頭はまっすぐ歩くだけでいい

北野哲男

腕時計話の腰折る役もあり
元旦に会うのに書いた年賀状
実ったを見届けてから散る葉っぱ
街灯に影前になり後になり
婆さんにいつも句会で飴貰う

木本朱夏

この橋は渡るべからず鬼が待つ
待ち伏せていたのは鬼か山姥か
花野経由檜山行きのバスが来る
満員のバス見送ってまだ此の世
赤い月の夜はまほろしだったのか

新家完司

コンビニで弁当買つて独り酒
ぺちゃんこにひしゃげて眠る嵐の夜
閉じた目の奥まで届く稲光
トゲトゲは明日に回して目を瞑る
明日のハードル軽い軽いと眠りつく

高瀬霜石

ゼンマイを巻けば動くことは動く
心と技はまだしも体が追いつかず
絶滅危惧種靴べらを使う人
湿布薬ベタリと貼って背すじ張る
遺言を書く巢籠りの徒然に

竹治ちかし

国民の心一つにさせた月
人の居る数だけ想い残る駅
新しい景色に溶けて消えた過去
幸せはきつと貴女の色でしょう
コロナ禍の自粛の中で消えた夢

津守柳伸

健康で長寿お札の初詣で
天高く冬装束の紅葉狩り
むらさきを被せられ卒寿祝われる
底冷えに釣瓶落しの急ぎ足
晩秋へ喜怒哀楽の住所録

西出楓楽

本とチョコあれば孤独もまた楽し
木枯し吹き落葉舞つて胸の内
川柳にそのうち愛想つかされる
メレンゲを作つてみるか腹立つ日
令和四年いいことがなく幕降りる

仁部四郎

私は女性天皇賛成派
皇室で嫁いでならぬマスメディア
皇室のお荷物もちよつと減らせぬか
お言葉の品格それが国力だ
天皇がいて日本の民主主義

「川雑」語録 ⑩

自己の感懐

前田雀郎

人を捨てゝ人の恋しき影法師

右自信の句と申すよりも、や、自己の感懐を吐き得たりと存ずる句に御座候、これ今日も変らぬ小生の嘆かに有之、かく申せば作句の動機など、云ふ事殊更めかしく申上げずとも御推察願はるゝものと存じ居り候。

（「川柳雑誌」昭和3年8月）

森の集句



『秀句鑑賞と梅志句集』

後藤 梅志

こぼれては咲き こぼれては咲き 朝顔の
朝刊がはさまったまま日が当り
叩き売りからも甲斐性なしにされ
非常口 こんなところへ吐き出され
図書館のシミで前途を語り合い
スイツチをひねるとはやい油虫
遊んでる目に鉄骨の早いこと
海亀の思えば母に似たしぐさ
もう秋か 古い門標見上げて出
キヤラメルを出して淋しい一人旅
鶏とあひる 川原の上と下
ただ人が通る堤を見て飽かず
あじさいの花がゆれてる隠れんぼ
ゴミ捨場 トンボ安心した姿
夜汽車いま風に乘ってる音になり

(昭和45年2月発行、川柳塔社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

乙女いま老いていくさを語り継ぐ
ニッポン過労死 豊かさとは何か
受けて立つ喧嘩もあつた靴すべり
ひたむきに生き残照が美しい
不器用に生きてため息ばかりつく
悲しみを重ね大きくなるのです
天と地を汚し豊かになりますか
母の日も母は主役になりきれず
碩学がまた一人逝く沈丁花
転落の詩集浮いてる泥の河
ベルリンの壁を崩したのは電波
善人の帽子に止まる赤トンボ
地平線むかし関東軍ありき
登ったら何もなかった神の山
後始末せぬ父さんのフライパン
人はみな生きねばならぬ風の詩
さまざまな別れ見てきた風の駅



木 本 朱 夏 選

門真市 坂 本 星 雨

風船を飛ばし愉快な風に乗る

これ以上これ以下もない橋の上

忘れ物いっぱい過去を手繰り寄せ

山口市 中 前 幸 子

晩学へ風の視線があたたかい

最後まで話を聞かぬ尾軀骨

重い空気を持ち上げる広辞苑

髪切つて翔べない鳥になりました

夕焼け小焼け気のいい鬼と手をつなぐ

夢遊び素敵なちぎれ雲に乗る

尼崎市 八 木 幸 彦

二歩進み三步後退する加齢

ある時は月光仮面になるマスク

起き上がりこぼしのように生きる母

今もなお枝雀が蕎麦をすすする音

踏み切りの警報いつも試される

冒険の終わり天王寺の夕陽

古里にもう母はなく柿熟れる
コスモスの丘しあわせは風の中
来る冬へ小春日和を身に溜める
濃い珈琲を一口秋が深くなる
裸木が覚悟の風を受け止める
人生の日暮れに一番星光る
欠けてゆく月は悔いなど残さない

貝塚市 吉 道 あかね

なぜなぜが空しいと知る今更に

東京へ向かう重たい足になる

頑張れと言えぬがんばり過ぎたから

緩和ケア余命宣告受けている

お守袋穏やかな日があるように

句読点のように三食作つて

大らかに私を生きる恥かいて

凜と立つ追い風向かい風の中

躓いて転んだ石を磨きつつ

三木市 山 口 ヨシエ

誰にでもおはようが出る朝のジョグ
尼崎市 清水 久美子

ワクチンをせず雑踏を行く出好き
渋柿を百個吊るして夕暮れる
生き下手の杉田久女の句に惚れる
残り福らしいが比べようが無い
景品で貰った辞書は頼りない

大阪市 中村 峰子

図書館をマイ本棚と決めました
マイホーム隣コンビニ夢のよう
抜け道がいくつもあって迷います
忘れてたホクロ煩く喋りだす
あの世とはこの世の人のためのもの
鈴の音に尖ったころ円くなる

大阪市 岡田 恵子

同意書にサイン覚悟の墨の色
病室の窓に見つけた昼の月
なるようにしかならんから笑つとこ
図書館の棚でくすぶる平和論
売土地のエノコログサがざわめいて
コスモスがウフフオホホと身を躲す

河内長野市 坂野 澄子

鉛筆が拗ねて弾まぬ誤字脱字
一葉が散ってわが身の老いを知る
振出しに戻り心を解きほぐす

コンパスがゆるり円書く歳になり
よまい言までも眩く足の裏
黄昏に愛を奏でる烏瓜

交野市 山野 双葉

三面鏡見慣れぬ顔に会釈する
譲りつつ愛はあるかと自問する
置き去りにしたはずの恋燻って
深呼吸して悲しみを薄めてる
悩みごと首をかしげて聞く仔猫
アールグレイ ミルクを入れて春を待つ

豊中市 貝塚 正子

リハールサル無しの人生陽が昇る
幸せは短かったが濃かった
五回ほど「さて」と掛け声して動く
痛いところ突かれて「はて」と白を切る
夫婦げんか外から見るとオベレッタ
記憶消えゆく友抱きしめて「忘れんよ」

大阪市 阪本 秀子

カーテンを開けておはよう街に言う
秋ですね栗にさんまにうろこ雲
父さんの茶目っ気ころ緩ませる
エコキヤップ閉めて迷いに栓をする
少しだけ背のび私のリニユーアル
母心みように染み込む秋の空

大阪府 大浦 福子

生真面目で生き下手だった亡父が好き
早々に孝行できず父は逝き
愚痴言わず母はいつでも笑つてた
細腕で支えた母の肝っ玉
母さんごめんもつと優しくしたかった
父母よ命戴きありがとう

大阪府 奥野 健一郎

出発点みんなチヨボチヨボだったはず
矢印に見向きもしない自由人
吉報にあえて釘さす親ごころ
引立て役買つて苦にせぬカスミ草
好敵手いずれも去つた偉くなり
生かされて命しみじみ秋の虫

佐賀県 真島 久美子

月光が届かぬ場所を見てほしい
わたくしの世界に蟪蛄の骸
サヨナラの風は金木屋だった
空っぽになれずに深夜ラジオ聴く
花言葉勝手に君を困らせる
石像とおんなじように濡れている

神戸市 米田 利恵子

出歩くなと高齢者には厳しい目
背筋なら伸ばしコロナと伴走中
紅葉のニュースに窓を開けてみる

お祭りが終つたように夏はゆく
秋の空青くりんごが食べたい日
お隣のピアノ調律済ましたな

美作市 岡本 余光

終焉に想いを馳せる秋夜長
生きている苦楽綯い交ぜ日々未完
無観客ひとり芝居が続く老い
男飯やはり気にする物価高
自給率知らずそこそこ食べている
鞭打ち症手鏡で見る月蝕は

横浜市 巖田 かず枝

階段で上げたつもりの足だった
行く当てはないがワクチン打つておく
採血の看護師泣かせ母ゆずり
若くなれまじない添えてマツサージ
節電のために重ね着家事炊事
ウクライナ助けてあげて寒い冬

和歌山市 定松 宏枝

嫁姑平和の基は同じ趣味
おばちゃんは気さくに声を掛けてくる
よく転ぶ慌てて計る骨密度
隣家より不法侵入柿落葉
親切の押売りたまに買ってみる
ばあちゃんの知恵を受け継ぐ文化の日

堺市 古川 光雄

一人ぼち今日もテレビが友となる
いい年になった我が子に意見され
飲めることそれが健康バロメーター

歩け歩け年寄りの仕事歩くこと

一病が五病になって八十路越え

友五人逝ってスマホは鳴りもせず

小田原市 虎澤 昭久

顔のシワ枯れ木に化けるじい忍者

お互いはただの風景散歩道

波しずか太平洋も休み取る

柿の実は隙間の空の大らかさ

肩口の落ち葉と白髪秋を着る

後悔の静止画像の居座りて

弘前市 小山内 真由美

癖になるおやすみ前に天然水
慣れるとは居心地のよい空間だ
運命と向き合いながら老いてゆく

母でよかった母の気持ちがかかるから

ラテアートこわさぬように夢の中

自由自由心の中の宇宙船

宮崎県 恵利 菊江

思い出を棄てにバイクを走らせる

忘れない空持ち帰る球児たち

思い出の明かりを点す祭りの夜

弁当が家族への愛物語る

あしたへと声掛け合ってゆく絆

意思疎通出来ずに孤独噛み締める

倉吉市 宮田 風露

八十路半はまだ残ってる好奇心

懐に夢が広がるまだ若い

線引きのすれすれになる骨密度

横文字に馴染めぬ老いのひとり言

初耳でした耳石と寿命の関係

暗算を旅の宿での脳トレに

鳥取県 橋谷 静江

もう一度ペアールックで歩きたい

あの星は私を見つめウインクだ

節電へ早寝早起き決めている

掃除して孫の来る日は落ちつかぬ

気苦労は隠していても顔にでる

後の無い人生プラン立てている

もう来たか十二枚目のカレンダー

府中市 岸田 武

醉えないでいる後輩の喪のハガキ

六人の総代だけの秋祭り

マイナカードお上が頼に急いてきた

うつ伏せに事切れている秋の蜂

嘘らしい語尾の力が抜けている

津山市 高橋 由紀女

子の声を聞きたい柿は熟れてゆく
待ち時間四時間がまんするカルテ
転んだら変わる景色の情け知る
財産が増えた気がする柿たわわ
草取りを待つ玉葱三百本

広島市 田 桑 恵 子

蹟いた小石に下ジを笑われる
サブリはいかがとCM迫る老いの午後
スイーツが心の内を覗き込む
必着日指折り数えいざポスト
片づけた筈置いた筈だとまた探す

広島市 松 尾 信 彦

美容室噂話も巻くロール
マスクでも美人は美人その鮮度
チューニング好みの音で聞く噂
高齢の鋳型も多様その格差
シルバーがカラダを張った通学路

広島市 森 田 博 之

八十路だが恋の文字には脇見する
俺流の不始末妻が尻拭い
じいじギャグ孫が種本見てにやり
受賞歴皆勤賞と参加賞
少しトーン下げて隣の子を叱る

尾道市 小 川 道 子

此処にあり風のまにまに運不運
お浄土の無二の友からメッセージ
可能性信じて励むチャレンジャー
曖昧な空気漂う群れの中
笑いたいところで啼いているカラス

尾道市 小 畑 宣 之

しなくても良い弁解をする仲間
悔いは無しと言つてそうだと納得し
悔い多い人生なれど面白し
じいさんの苦勞のおかげ榮えてる
あれこれと弁解しても黒は黒

尾道市 村 上 和 子

想い出を捨て去る思いで断捨離
淋しさと気楽な風と住む独り
菩提寺で先祖の風と語り合う
我が道を極めたように流れ星
お迎えはある日突然それがいい

竹原市 土 井 輝 恵

コロナ禍が変えた生活なんとする
新生児寝顔飽きずに三十分
曾孫抱く背骨にあった未来感
おむつ替え人形ごっこ如くする
なんとかなるそんな氣持も年の所為

三次市 伊藤 寿子

親友の安否きかれぬ日のまどい
「これが最期よ」か細い声が残る耳

大手術二つも耐えた友なのに
気が付けば今日は結婚六十年

ケ・セラ・セラやっぱりわたし抜けてるわ

山口市 兼崎 徳子

フルーツを越えてるトマトのインパクト

コスパ良しメイク時短のマスク顔

少子化でこぼれる愛を注がれる

見返りを求めたくなる家事育児

美人顔よりも長寿の恵比須顔

松山市 郷田 みや

ダンスと歌インド映画の渦にいる

劇場の出口で愛を確かめる

晴れの日に根回しちゃんとしておこう

賛成もしないが反対もしない

天体ショー見ているだろなあの人

今治市 安野 かか志

愛情の欠片で唸る妻の鞭

少年の壮志を砕く老婆心

マイペース崩して自分見失う

秋晴れを独りぼっちの浮浪雲

隠形のカラスの空は鳶が舞う

大洲市 花岡 順子

へらへらのクラゲになつて生き延びる
幸せは好きな仕事に命がけ

末席の気楽誰にも譲らない

昔なつかし蛍光灯のような人

くるくると巻いて初恋しまつとく

高知市 三谷 松太郎

補聴器も消しゴムなども二個いるよ

毎朝の行事こなして微苦笑し

この句だと嫁さん怒ること必定

罪深い高価な造花僕の嘘

家族らに隠すほどもない日記

沖縄県 あら さくら

好きな友似たり寄つたり友を呼ぶ

思いきり乱れてみたい夜の蝶

行く道は口笛吹いて成るがまま

好奇心思考回路がはじけ出る

ねばねばとねばり強さが勝ち誇る

沖縄県 禰 モモト

人生の設計を日日立て直し

クイズ番組わたしも解けて脳活に

マスクからこぼれる笑顔笑み返す

川柳を添え赤い羽根募金箱

性格を変える薬があれば良い

沖繩県 宮 すみれ

すきな靴迷い迷いに修理中
両手には二個の焼き芋ほつりと
秋さんま高値骨までしゃぶりつく
独り言重なる枯葉とりながら
秋風は失恋さえもぬぐい去り

富士見市 中 島 通 則

百均がますます流行る物価高
波乗りはマスター出来たもう八波
半分も知らないけれど流行語
夫婦茶碗が昨夜見た夢語り合う
息継ぎが上手な人の句読点

東京都 宮 田 栄 子

東博の国宝愛でる秋一日
等伯の松林へと迷い込む
大道芸パフォーマンズの空高く
沿線の秋薔薇を愛で都電乗る
アクティブに七〇代のスタートだ

神奈川県 小 田 幸 子

久々に投句する気になりました
十年の収穫ワザは笑うこと
鏡見た突然そこに亡父の目
なんでやろ家電いっせいに反乱す
おしめ替え添い寝の犬もおおむけに

横浜市 加 藤 佳 子

ばつざりと根元切られて酔芙蓉
また来夏素敵な姿見せてほし
暖冬か衣更えには早過ぎる
常連の顔が支えてきた句会
無情にもやって来るらし第八波

岐阜県 喜多村 正 儀

手の平で捏ねて固める自尊心
正直な顔でお世辞が言える人
首筋に最初に止まる小さな秋
経歴が踏み台にした人間味
アドリブが消した月夜のいいムード

八幡市 武 田 悦 寛

明日のこと分らないから米を研ぐ
平和ですみそ汁の具が日日変わる
苔まとい歴史を語るけやきの木
太ももをピシャと叩いて入る風呂
無人駅降り立ち両手はポケット

京都府 北 野 クニオ

人徳はその人逝って現われる
一人身になって女房のおかけ知る
給与日は一日限りの旦那様
秋盛り栗柿りんごマスカット
捜し物ひよんな所で首を出す

大阪市 今村和男

晩秋に月の欠片の揺れる池
切り札を出しているのに知らん振り
うかつにも腹の底まで見せられる
掛け違う鉦と穴の伸直り
冬まぢか苔だけ残る植木鉢

大阪市 近藤風羅

ここだけの話みんなが知っている
ほんくらと言われ得心するほんくら
謙虚だと思ひ込んでる意気地無し
折れぬまましなる強さの母がいて
亡き母と初めて口に出して言う

大阪市 白谷よしみ

雄孔雀やぶれた羽根でプロポーズ
生花展野に咲く花がドヤ顔で
花水木赤い実付けてウインクス
今日もまた気休めだけの薬のむ
診察待ち淀む時間の思考ゼロ

大阪市 田原康雄

月末は豆腐料理が主菜です
物価高霞を喰う人耳にする
庶民には割引旅行予算なし
今日カレー二日は続くカレーの日
秋の夜は月を眺めてスクワット

大阪市 松田聰

血圧の多少の上下無視をする
桁違う献金という信心か
ミシン掛け妻はため息ひとつく
呼吸法健康効果あるみたい
茜雲今日の疲れが癒される

大阪市 森廣子

勾玉に卑弥呼の汗が浸みている
母から子へと編んで繫いだ毛糸玉
母との内緒覚えていますサクランボ
透かして見てる浄土はおぼろ擦りガラス
もうすぐ暮れる気負わなくてもいいんだね

大阪市 吉積栄次

時々に人の優しさ苦になつて
金がなく学が無くても幸せだ
美人の湯5時間浸かる母の意地
コロナ数欠伸しながら見るテレビ
4Bで遺書らしきもの書いてみた

池田市 倉本一弥

いい男だいつも笑顔でやってくる
サブリ飲むでも余るんじゃ効かないか
猪木の言葉「元気ですか」に救われた
豹柄はファッションじゃない文化です
サブリ漬け医療費よりも高いくつ

泉大津市 助川和美

優しい味の暮らしがしたいだいこ煮る
生きてる証しささやかな髪切りに行く
認知症の父が戦争語り出す
りんご剥く母に年齢また聞かれ
長き夜チラシの裏に一句書く

泉大津市 葛城隆雄

行く宛もなし晴天がうらめしい
王手かけ明日は決めるぞこの調子
句捻りのあれよこれやで夜が更ける
皆既月見たいぞ空よ晴れてくれ
知恵絞り絞り切つてのこの一句

泉佐野市 檜葉良子

写真しか知らない亡姉と夢で会う
無人駅日傘をさして電車待つ
内心は若さ競って老人会
元気ですその頑固さがあるうちは
幸運ねちょっぴり努力してますよ

柏原市 神崎江

一粒のパール身につけ逢いに行く
始まりも終わりもなかった淡い恋
ひとり呑みできるお店の指定席
沈黙が居心地良くて君という
浮き雲と言われても私は私

河内長野市 穂口正子

家に付く猫か娘が居続けて
許せないことも有るがなこちらにも
喧嘩の後腹いせに蹴る夫の靴
これも縁背中合わせの五十年
柏汁の旨さしみじみ老いを知る

吹田市 西沢司郎

円安に貧乏国の道辿る
これが老いこれが年貢と悟る日日
呆けたかていいではないか自然の理
四コーナー回る辺りかわが命
食糧難知らぬお方の呑気節

摂津市 野々村レイ子

井戸端の話が苦手間がもてず
意にそわぬ事にもキット意味あるな
好きな事やって笑顔が満ちている
絵心を持ち続けたら八十路晴れ
お赤飯母の面影浮かび来る

高槻市 鳥居宏

百歳を目指し数独 ヨガ サプリ
いよいよか何度もあった早とちり
暖房をしてるか長女から電話
堂堂とすすき隣をのぞいとる
水守る主なきあともベシヤワール

高槻市 三谷白黒

敬老も年齢上げて祝うべき

この歳でするめが好きなおじいです

お隣の野菜の出来が気にかかる

ごめんなさい入浴中の宅配に

似ています四コマ漫画と川柳が

豊中市 齋藤奈津子

物価高德利の底も上がってる

盗まれた自転車身受け二千円

高齢化ペット病院混んでいる

優先席譲ってほしい欲しくない

まとめ買いした日に故障冷蔵庫

寝屋川市 長尾千賀

街角ピアノ遠く聞えるティールーム

ハラメント姦しいとか女々しいとか

セーターの編み上がる頃は他人かも

バカラグラス今もあの日が燃えています

眠らせた愛旅行カバンに詰め込んで

羽曳野市 黒木ひとみ

伊勢神楽奉納舞に福もらう

八十を越えまた一年を積み重ね

旅終えて待つ人もない家に急ぐ

金銀の木犀咲いて香を競う

コスモスの優しさ受けて人は笑み

東大阪市 青木ゆきみ

沿線の景色も捨てたもんじゃない

誕生日いくつになれどおめでとう

白髪染めやめても私良い感じ

いわし雲見ればTシャツもう着ない

立ち飲みも女性が集う良い時代

東大阪市 青木隆一

留置いている文すべて鬼が住む

セーターの色であの日を思い出す

飾らずに楷書で暮らす自然体

スーツ着た人を社長と呼ぶ飯屋

泣き上戸二合の酒で三度泣き

八尾市 田邊浩三

良薬も副作用見て飲む気せず

人間は根から戦う動物か

新聞が続くのはあと何年か

耳遠く思わず互い怒鳴り合い

大抵のことなら歳と諦める

大阪府 高木道子

稜線の無傷の空を鳥帰る

モラルとは何ぞや巡査に聞いてみる

菩提寺の方へ方へと雲流る

命日に行けたら行くわてどっちやねん

無住寺の寂に堪え兼ね銀杏散る

神戸市 石川 克美

この歳でポジティブ思考むつかしい
青い空短い秋が惜しまれる
人生の目的は何?と聞かれても:
老い方のレッスンあれば学びたい
化石賞なんてもらつてどうするの

神戸市 城戸 誓子

待ち構え降りまちゅボタン孫は押す
女子会のおしゃべりは木琴になる
ひとことの棘が抜けずに笑えない
行間に想いにじませ君へ書く
散り紅葉森のかけらが降り積もる

神戸市 田本 古鈴

風が好き私の心揺さぶつて
恋がゆく私は年を取りました
圏外の人に私は甘んじる
悩みあり人それぞれの過去未来
恋文はうす紫の便箋で

神戸市 横田 次郎

親ガチャと聞いてピクピク動く眉
いつからか本音の角を削る癖
爺ちゃんへらへらするが卑怯じゃない
身構えるお呼びかかった無礼講
悪魔さえ明るいほうが選ばれる

神戸市 みぎわ はな

癸卯^{みづのえ}日本の水を守らねば
水清き瑞穂の国で水を売る
物価高道の一円玉拾う
寿司折りは買えず土産は御座候
味薄い気がする生チューも耐ハイも

神戸市 村松 久江

楽しみが待っているよと朝が来る
側に居る唯それだけでは物足りぬ
手伝いの欲しい時には消えている
綻びを幾重にも継ぎ年を越す
喪中でも御節御雑煮御年玉

神戸市 山根 弘華

ガムシヤラに生きてゆとりの女坂
しがらみを捨て卒寿の坂半ば
一言で積んだ努力も水の泡
じつくりと大樹育てる母の愛
好奇心まだまだ枯れぬ卒寿です

明石市 瀬島 流れ星

任せたと聞こえはいいが見放され
条件が揃い過ぎて落とし穴
ハハハハで許した酒の席悔いる
走り書き自分の文字を読む苦勞
二番手が解いたどや顔鼻につく

尼崎市 宗 和 夫

川柳に託け妻と沖繩へ

平和の礎に思いを馳せるウクライナ

観光客見ようとしなない基地のこと

根拠なき自信はすぐに泡と消え

全ボツも旅行支援で元を取り

尼崎市 山 本 百 合

知らぬ間にニュースソースの罪を負う

楽しみを見つけた道に師の明かり

辻褄を合わせた嘘が足を引く

肩車家族の影が笑ってる

労りの目で送られる背を伸ばす

伊丹市 延寿庵 野 鶴

澄んだ瞳には表も裏もない

口ほどに動けぬ老いを確と知り

いわなけりやよかつた世間狭くする

明日の風読めぬまなこを二つ持つ

遣る事がまだある眼鏡光らせる

伊丹市 岡 村 風 琴

窓開けて昨日の風と入れ替える

スーパ一の袋へ今日の幸を詰め

誉め言葉蝶にもさせる人の性

好い目覚め今日の命が躍動し

鳥獣戯画兎楽しく戯れる

三田市 幸 田 厚 子

おしゃれ無視猛暑過ごしたあつぱ

寄り添う愛子供食堂見守り隊

濃い4B投句の準備削り済み

真夜中のメール明日でもいい中味

三田松茸今年も祭り寄りもせず

三田市 野 口 龍

本日のあなたの笑顔満点です

私の朝はミルクたつぷりカフェオーレ

名人と声かけられてゆるむ頬

この道は君と歩いた記憶ある

盛り付けで味をごまかす嫁と母

三田市 松 下 英 秋

無人家に萩とナンテン麒麟草

ドンダリのポトリと落ちて二回転

長寿国「歳のため」とふ病増え

そう言えばと言いて話題が変わりゆく

稽田にカカシ一本立ててある

宝塚市 岸 田 万 彩

気前よく遣えとばかり配布金

インフレに抗う術を教えてよ

八万票あれば日本を動かせる

靈感があれば容易な金儲け

エコじゃないブランド物のエコバッグ

たつの市 江尻 房子

ネクタイを外し落葉と日向ぼこ
姓変わる嬉しかったよ紅つばき
後継者不足の寺に夕陽落つ
一握り握った土に生かされる
秋の恋タリア真つ赤に咲きほこり

丹波篠山市 河南 すみ江

新春は五穀豊穰幸を盛る
リハビリは苦手だけれど愛がある
次の世に残しておこう義理人情
座右の銘ひと言だけで素晴らしい
おーい元氣 古里の山にこだまする

丹波篠山市 澤 良子

枝豆をあちこち送り宣伝す
働いた指先にサック痛み止め
日記帳毎年三ヶ月坊主です
携帯にインプリントできぬわたしです
冬の案山子も店頭でご活躍

西宮市 高橋 千賀子

スッピンでも平気になったマスク顔
ロシアから越冬隊が来る季節
花が咲く日がきつと来るウクライナ
久々に句会再開ネジ締める
読書より睡魔が襲う秋夜長

西宮市 藤原 みよし

誉め言葉仲良しになるチャンスです
常識も世代で変わる非常識
何してもひと呼吸遅れ足もつれ
店先で決心つかずまた明日
何となく側にいる間に五十年

生駒市 饗庭 風鈴

酔いたくてビール一氣にすきつ腹
君のこと忘れてしまおチヨコロール
目が回る鳴門の海に捨てた過去
生まれたてマシユマロほどのわが子抱く
進歩とは何ぞや誰もわからない

生駒市 永田 美美子

古里の空が恋しい千切れ雲
昭和史がつぎつぎ浮かぶ演歌聴く
聞き上手十人十色知恵貰う
初詣新の靴はき颯爽と
通販は今の私の遊園地

奈良県 室田 行久

静寂な秘境の宿にバイク音
負けて泣き勝って奢らず伸びる人
星座群いにしえ人のロマン生む
山上で叫ぶ我慢の愚痴不満
にこにこに潜む冷酷夜叉の顔

和歌山市 北原 昭枝

和歌山市 福島 一雄

SLの旅人だった遠い日々
もうあのひとはいない昭和が遠くなる

裕さんも健さんもいた映画館

青い山脈うたった頃の青春譜

浮き雲が流れてゆくよあの頃に

和歌山市 佐藤 まき

卒寿越え大事に生きる出発点

家事雑事悠悠自適とはいかぬ

今生に最初で最後天体ショー

古人は如何に仰いだ赤い月

月にありと卯年の亡夫月にみる

和歌山市 鍋嶋 澄子

秋祭りあせ寿司貰い香も嬉し

こころ浄化『えんとつ町のプペル』読む

控えめに隅に咲いてる吾亦紅

秋日和苗をじゃまする草取りを

柿の実の枝つき飾りティータイム

和歌山市 西川 千鶴

終活のノートは未だ白紙です

無垢な目で無慈悲な事を言う子供

古傷を暴きだしてる秋時雨

海のない郷に生まれて海が好き

夢なんか疾うに捨てたか冬の蝶

楽をして稼いだ金に羽根がある

プーチンも笑顔みせれば憎めない

揉め事も笑顔見せれば解決す

旗色は経済力でカバーする

秋風とおせち前触れ賑やかに

和歌山市 まつもと もとこ

守ってた子供に今は護られて

君の背にカイロ貼りたい片思い

腐葉土の中から新しい未来

直ぐそこに世界がみえるハッシュタグ

ジレンマをかかえて朝も夜もくる

海南市 山中 閑

なつかしい酢のものの食用菊の黄

鮎香草蒸して香りのマリアージュ

秋老いて回顧の森をさ迷いぬ

運動靴念にはねんを二度結び

行く秋に懷中時計ちち想う

和歌山県 三枝 眞智子

北国の原野に降りた迷い鶴

休日が多過ぎるのも不幸幸

似かよった暮らし仲よくご挨拶

根回しの酒に迷いの下心

温厚な父が拳を上げる時

鳥取市 上山 一平

歩けないしびれ切らした大茶会
ひじ鉄をくらわぬ距離は保ちたい
何時出すかレッドカードの助け舟
欠かせない自肅中でもストレッチ
お隣のサンマの煙我慢の子

鳥取市 大前 安子

半券がいつぱいになる宝箱
あそこここ走馬灯ですカラー付き
秋夜長もつとつとに話そうよ
子と語るキャッチボールがスムーズに
語る内うれし涙が浮いてくる

鳥取市 狭武 紫陽

未来図になかった薔薇を一つ足す
うやむやを許さず生きて散った花
よしよしとなだめプライド抱いてやる
一番は同じ感性持つ男
薄情な風が一人にしてしまう

倉吉市 若松 由紀子

横道にそれて出口が解らない
背を伸ばし若い気分で行く八十路
娘が注意屋根も脚立ものらないで
同じ愚痴黙って聞いてくれる友
柿落葉なぜか隣にとんで行く

米子市 川本 美津子

柱の傷が孫の成長物語る
諭吉さん美人好みかすぐに出る
亡母の歳越えて生きてる有り難さ
露天風呂星降る夜はファンタジー
喋らない猫に孝行煮干買う

松江市 中筋 弘充

CO₂の乱かも知れぬ温暖化
氷山が解けて熱帯魚に微熱
ミサイルが飛んで来たようですと聞く
ガス締めた玄関締めた繰り返す
何回も座りたくなるウォーキング

安来市 原 徳利

妖精の静かに眠るオンネト
美人女将と新酒新蕎麦奥出雲
亡くなった人へ弔辞は美化される
ほろ苦の味はひと日を中和する
長生きの秘訣語らぬ鶴と亀

鳥取県 田中 重忠

九十六大声も出る愚痴も出る
もの言わぬ猫もみている朝ドラを
仰ぎみるダイヤモンドの伯耆富士
真実は一つだ天がみてござる
どん底を生きた証しの顔の皺

三田市 生田 えい子
右左脳にしっかりせよと螺子を巻く

リモートも三食昼寝太る彼
うっとり記憶の中の音を聴く
若者について行けない頑固爺

三田市 辻 開子

外食の味の濃ゆさに胃が騒ぐ
目が覚めて術後なんだと二度寝癖
娘に甘え二人の親の介護させ
右往左往免許返納のびのびに

三田市 馬場 貴美江

秋刀魚です店頭価格高級魚
物忘れ転び始めた老いの坂
三日前メール交わした友の訃よ
変りなく過ぎゆく日々になだ感謝

三田市 森 玲子

孫とハグ幸せくれる宝物
耐えてきた苦勞語らぬ亡母の手
口紅もポーチの中で出番なく
餌求め今朝も遠くできつねの子

丹波篠山市 横溝 安子

落ち葉あり子うさぎ走るけものみち
光ってる一番星に願いこめ
ルビウってはじめ読める子の名前
落ち葉たき庭でしたのはいつのこと

西宮市 高瀬 照枝
きれいな字書くため習うペン習字
平和に感謝してます生きてたい

毎食事作る手間掛けひとり食う
もう寝ます洗うかたづけそして明日

鳥取市 山野 すみれ

朝の月連れて連れられ軽い足
お日様も風も溶け込む吊るし柿
膝の上絵本広げて子は眠る
雑踏を抜けてゆつくり見る世界

倉吉市 伊藤 嘉昭

永病い実家に帰ると妻の乱
コロナ禍は家で飲んで花愛でる
ボランテア「いや仕事だよ」まだ傘寿
パソコン雀夜更しするが金要らず

松江市 相見 柳歩

朗らかな君に出逢えるのが祭り
窓を開けもつと優しい風入れる
いいじゃない時代の波に乗っていない
紙の辞書苦勞の跡が残ります

福岡県 本田 さくら

わが庭にさした小菊が今盛り
今朝散歩今日もわが身にねじを巻く
あと二年結婚五十年がんばろね
雀たちが庭そんなに楽しいか

石川県 堀本 のりひろ

議員さんちらつと見える欲の皮
ハチャメチャの言い分通す金バッヂ
政界に善人面が揃い踏み
政治家は甘い言葉で票稼ぐ

豊橋市 小松 くみ子

やわらかな御飯を食べて歯が欠けた
カマキリも揺れる葉っぱになりきって
キッチンに3つの星が描いてある
頂きます鳥がかじった甘い柿

東京都 高岡 弥生

日本だけ時代遅れのマスクかな
鳴き声で起こす老犬ご飯くれ
コンビニに行くのはゴミの袋買い
Jリーグ最後の最後楽しんだ

大阪市 滝井 えみこ

円満を装っている丸い顔
栗入りの方あげるか迷う間柄
手の甲が微妙にとしを暗示して
子の歳を数えた指で護摩木かく

大阪市 前川 善之

秋の空世界は平和未だなし
人生は百年生きる努力する
オリックス日頃努力で日本一
卯年には平和が来ると期待する

大阪市 宮本 千恵子

出不精がワクチンだけはすぐ予約
山中の栗無心に拾う古稀夫婦
孫三ヶ月ギャン泣きしてもいとおしい
寺社巡り大好き友はクリスチャン

吹田市 岩口 のぞみ

値上りに頭の底値書き替える
やせ秋刀魚塩焼きにして食べ尽くす
ミサイルが流れ星より飛んで来る
天体ショー今日見逃すと次は無い

「川雑」語録 ⑪

私

奥村丹路

片方の眼を塞いだ時私は楽天家である
そこで得意気に句が出来る
その時私は不幸だと思ふ
両眼をかつきり見ひらき凝視する時
白い句箋はいつまでも白い
その時私はもつとも幸福である
そのふたつながらの私を
今——限りなくいとほしむ

（「川柳雑誌」昭和17年6月）

英語 de Senryu ⑬③

麻生 茂乃 『福寿草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

福寿草松にしたがいそろかしこ

*New Year's flower, Adonis
planted just right
it follows the pine tree*

節約の床葉牡丹が活かされる

*saving life...
ornamental cabbage is arranged
at the alcove*

New Year's flower 正月花 *Adonis* 福寿草 *planted* 植えられる *follow* 従う
pine tree 松 *saving life* 節約暮らし *ornamental cabbage* 葉牡丹 *alcove* 床の間

～リバーウィローのため息～ ㊦ 2023年の子規ハイクカレンダー(愛媛大学校友会) 発行

愛媛大学校友会は毎年、子規ハイクカレンダーを制作しています。子規の2万4千余の俳句から仁科弘重愛媛大学長の選句で、俳句を英訳し、さらに俳句に適う写真をつけた卓上カレンダーです。月が終わると葉書にも使用できる便利ものです。田村七重さん(シキプロジェクト)とバージンルース(愛媛大学)さんによる英訳です。いつか川柳のカレンダーが出来ると楽しいなと、密かに待っています。

大船のへさきに浮かぶ初日哉

first sunrise/floating above the bow/of a ship (1月)

春の海鯛も金毘羅参り哉

spring ocean/sea bream also coming to pray/at Kōpira Shrine (2月)

低き木に鳶の下り居る春日かな

a kite perches/low on the tree/spring day (3月)

両側の桜咲きけり登り口

trail entrance/blooming cherry trees/on both sides (4月)

木の末をたわめて藤の下がりけり

the branches weighted by/the hanging/wisteria clusters (5月)

見送らん夏野に君の見えぬ迄

seeing you off/until I can't see you/summer field (6月)

誹風柳多留一二三篇研究 29

230 せめて一トこしはとちよきへやばな事

高野 範雄・山田 昭夫

小栗 清吾・細井 龍夫

伊吹 和男

清 博美

高野「一腰」は、刀剣の数をいう。一振り。一本（『角川古語大辞典』）。

吉原では武士といえども、中宿あるいは遊廓の二階の上がり口で大小を預けなければならぬ規則になっていた。せめて脇差だけでもさして行きたいと、猪牙の船頭に野暮な事を言っているのである。

刀を下けてちよきへの見ともなさ

228 北の六郷は黒羽二重でこし

高野 「北の六郷」は、②浅草の金龍山浅草

寺の北側、浅草象潟町にあった山形本庄六郷家の屋敷の略称（『川柳大辞典』）。

鎌倉へ行く姫は、旅装あるいは着の身着のままの悲壮な覚悟で六郷を渡るが、吉原へ行く息子は羽二重を着て六郷屋敷の側を通過びに行くのだ。

そう行くと六郷様の御門シたよ 明七礼1

小栗 賛。「鎌倉へ行く姫」は不要だと思うが。単に旅装でよろしからん。要は「色気のある方の六郷」がいいだけ。

六郷八舟より駕がおもしろし 二三3

清 賛。

229 だまかすとむしんにおろかなりけり

高野 人を騙したり、ねだりごとするのは、

簡単に成功するものではない。それなりの努力が必要であるというのである。髪を切ったり、爪をはがしたり、入れ墨を彫り込んだり、血文字で誓紙をしたためたり吉原の遊女は必死なのである。

あいつらハだますが役といけんする

しんぞうハ袖でぶちくむしんい、 安二亀1

山田 賛。でも遊女とかきらなくてもよいでしょう。 安四仁2

清 賛。

231 此頃の雪でときばるなつなつり

山田 賛。吉原の遊びを知らない浅黄裏。 天五松1

高野「薺売り」は、一月七日の七草粥に入れる薺を、六日に売り歩く行商人（『川柳大辞典』）。江戸近在の農民の行商である。売価は一文。

句意は、最近の大雪で取れた薺が例年に比べて少なかったであろう。「売りきれますよ」「残りわずか」薺売りが大声を張り上げて客を呼び込んでいる光景。

入相にふちまけて行なつ葉売 宝12礼5

となつては大変。完売して早く帰りたいのである。

うぬかためはるの野に出るなづなうり

安七梅 1

まだ鶴つるかおりて居ますとなづなうり

安九義 4

山田 賛。ですが、どちらかというと、雪のため苦労していることで同情を期待しているのではないか。

小栗 たかが一文の薺なづなを売るのに「雪で供給不足」などという口をきくのがおかしいのである。

なづなうりかけねをいつてしかられる

一五 24

しきみうりきつい船十間を言ひ習ひ

二 35

清 賛。

232 どうやらこつやらどらものに母ハする

高野 「どうやらこつやら」は、どうにかこうにか。やつとのことで〔角川古語大辞典〕。

やつとの事で息子を放蕩者にしたというのであるが、二通りの解が考えられる。

① 労咳ろうかを患い、陰気で部屋に閉じこもった息子を、何処で聞いてきたのか母親は吉原行きを勧めたのである。そしてやつとのことで道

楽息子が出来上がったのである。

② 息子の夜遊びを案じ、親父の防波堤になった、母親の優しさが仇となり息子はどらになった。逆説的に詠んだ句。

らうかいの母ハむすこをそゝのかし

天四松 2

ちつとつ、母手伝てとらにする

安九松 2

山田 賛。②でしょう。

母の相いつちてなまくらものに成

一七 35

小栗 同右。どうやらこつやら「一人前」に育て上げた、のではなくて、「どら者」に育て上げたのである。

伊吹 同右。そうでなくては面白くない。

清 同。

233 笑ひなんせとかりた子をあやす也

高野 遊女達にとつて閑散な昼見世は時間を持て余す。

句意は、遊女が近所の幼児を借りてあやしている光景。苦界での一瞬のノスタルジー。

ちつとまあたかせなんしと筆を置き

安八礼 6

ひる見世は能笑ふ子をかりに遣り

明元礼 2

小栗 賛。「笑ひなんせ」がいい。

清 賛。

234 一ト口に五六人うる花の暮

高野 「一口」は、まとめて簡単に言うこと。

また二つ以上のものを一くくりにして言うこと。ひとこと。「売る」は、利用する。口実にする。遊里に行く者が、家族をだますために謡の会とか花見とかをだしにするのいうことが多い〔角川古語大辞典〕。

花見の帰り道。花見など家族を騙す口実、吉原行きが目的の連中五六人に、ひとこと、声を掛けたというのである。もちろん即座に同意したであらう。

花のくれ身について皆こうまいれ

一一 14

もミちから市の間タうるものなし

天二松 1

清 賛。

235 ちつ三を生酔の時ははじめ

高野 普段であれば揚げ代三分もする昼三を買わないが、酒を飲んだ勢いで最高級の三分

女郎ぢやうらうを買ひ始めたというのである。

清 賛。

愛染帖

新家 完司 選

(投句260名)

土佐清水市 辻内 次根
見慣れない虫をスマホで追いかける

(評) 珍しい虫をスマホで撮ってアプリで検索する。小さな事を見逃さないのは川柳の基本。いつまでも少年のような好奇心を！

防府市 坂本 加代
旅行カバン持って行きたい入院日

(評) 着替えや読みたい本や化粧品などなど、あれこれ詰め込んで。旅行も入院も非日常。海外旅行のつもりで異空間を楽しもう。

高槻市 松岡 篤
電車空く時間に合わせ墓参り

(評) 先祖さんには時間がたつぷりあるので、いつお参りしても喜んで下さる。こちらの都合の良いタイミングでゆっくりと…。

大阪市 大沢のり子
美しい宝石箱は持っている

(評) 凄いいモノが入っているような美しく豪華な宝石箱だが、残念ながら、中にはまだお見せするほどのものは入っていない。

富士見市 中島 通則
娘が嫁ぎやつと書斎を持てました

(評) 子ども優先で我慢していた自分だけの部屋。娘が嫁ぐのはいささか寂しいが、待望の書斎がそれを埋めてくれるだろう。

大阪市 宇都満知子
カレーでも酒の肴になるらしい

(評) 超俗の酒仙は肴にこれ注文をつけない。カレーであろうがバナナであろうが、出されたものは総て有り難い肴である。

鳥取県 斉尾くにこ
エレガントに怒る方法模索する

(評) 修行を積んでも「怒り」をコントロールするのは至難。爆発直前に「エレガント」と呟く習慣をつけると少しは効くかも…。

高槻市 片山かずお
自分からやれば楽しい風呂そつじ

(評) 何事も、奥方からの依頼で動くのと自主的にやるのでは気分が違ふ。特に面倒な風呂掃除や草抜き等は言われる前に動こう。

神戸市 能勢 利子
屑入れにシュートを決める百二歳

(評) 長寿も良いが気が弱つてくるのが心配。屑入れにシュートを決めるほどの元氣とユーモアがあれば百歳を超えるのも悪くない。

和歌山市 上田 紀子
これからも枯れないように恋の歌

(評) 幾つになつても心身共に若返らせて

くれるのは恋心。恋の歌を口ずさむのも良し、好きな人への想いを五七五で表すのも良し。

鳥取市 山野すみれ
松葉ガニとつくに旬を迎えてる

大阪市 吉積 栄次
偉そうに蟹がタゲ付けVサイン

男鹿市 伊藤のぶよし
飽きこない米が大好き研いで寝る

大阪市 谷口 義
おばあさんになつても新米はうまい

弘前市 高瀬 霜石
金婚のお土産焼き鳥とお寿司

尼崎市 清水久美子
ケバいけど富山かまぼこ味が売り

豊中市 水野 黒兎
中味より百倍重いウニの瓶

大阪市 平井美智子
につこりと手招きをする冷蔵庫

豊中市 齋藤奈津子
夏痩せを味覚の秋が取り戻す

柏原市 神崎 江
うな重は松竹梅の竹にする

高砂市 松尾柳右子
デイ仲間ボロボロ減つて柿熟れる

倉吉市 宮田 風露
豊作の柿が次々舞い込んだ

富田林市 中村 恵
メロドラマ台無しにする袋菓子

三田市	北野	哲男	立候補なしとは過疎の証明か	唐津市	仁部	四郎	東京都	宮田	栄子
香芝市	大内	朝子	お別れの言葉上から言わないで	佐賀県	真島久美子		黒石市	石澤はる子	
高槻市	初代	正彦	情念を拭い切れない葛の花	津山市	高橋由紀女		岡山市	丹下	凱夫
枚方市	枳尾	奏子	虹を追う周回遅れだとしても	今治市	永井	松柏	堺市	内藤	憲彦
倉吉市	牧野	芳光	会議室亀の甲羅が欲しくなる	榎原市	居谷真理子		河内長野市	藤塚	克三
奈良県	安福	和夫	熱々のうどんの後の風邪薬	松井市	安土	理恵	西宮市	福島	弘子
合わせ柿ノンキヤリが持つ真の美味			ドル・ユーロどう変わろうと食べてます	松江市	中筋	弘充	奈良県	長谷川	崇明
オバチャンと呼ばれ老妻上機嫌	岡山県	高岡	新しい下着でなくていい歯医者	真新しいパンツを穿いて泌尿器科			池田市	倉本	一弥
カラスよりお先に採った柿固い	鳥取県	竹信	頑張れを口癖にして車椅子	大阪府	高杉	千歩	河内長野市	大島	ともこ
女捨て婆さん役を熱演中			再放送の水戸黄門は亡母と見た	鳥取市	岸本	孝子	松山市	郷田	みや
耕運機動かすだけの畑仕事	大阪府	古今堂	おでん鍋仕込んで二日薬をする	模様替え秋をとばして冬支度			鳥取市	白谷	よしみ
立派な妻に任せた秋野菜	池田市	太田	身は焼かれ物は捨てられそんなもの	神戸市	奥澤	洋次郎	大阪市	白谷	よしみ
醒醐味はホールインワン投げたゴミ	省三		私を知る人ひとり居なくなる	熊本市	杉野	羅天	福井市	伊藤	良一
大穴を狙った後の無力感	東大阪府	青木	現役の気概を笑う税の嵩				米子市	池田	美穂
予報士のスパコンまかせはば当たる									
すれ違う人の数だけ句が浮かぶ									
五重塔見たくて通う月句会									

吹田市 西沢 司郎
十七音に収まりきらぬ句に嘆く

横浜市 加藤 佳子
コロナ禍の句会垣根を低くする

鳥取市 山下 凱柳
今年の憂さ晴らしてやるぞ没句会

広島市 松尾 信彦
伸びしろをほめて選者はまた没句

鳥取市 谷口回春子
披露した後で没句に懺悔する

大阪市 折田あきこ
主語のない言葉が脳にてんこ盛り

米子市 後藤 宏之
むつかしい本より今はマンガ道

大阪府 高木 道子
無住寺の寂に耐え兼ね銀杏散る

大阪市 近藤 風羅
正論が正論過ぎて鼻白む

黒石市 北山まみどり
雑談がヒントになって生かされる

松江市 石橋 芳山
ずぶ濡れの骨まで濡れて仕事中

奈良県 大久保真澄
ステテコのゴムがぐらげになっている

松山市 栗田 忠士
免許返納不便は不便だが気楽

川西市 大坪 一徳
罪ですか毎日してる片思い

三田市 上田ひとみ
年齢はたつたひとつの勲章だ

豊中市 松田蟻日路
どちらもが若いつもりで譲り合い

宮崎県 惠利 菊江
過ぎ去った思い出語る壁の染み

羽曳野市 吉村久仁雄
自分の名忘れた老母がよく笑う

寝屋川市 川本 信子
昭和の子ヤングケアラ―当たり前

藤井寺市 鈴木いさお
下心あるからお賽銭弾む

鳥取市 前田 楓花
友達が「実は」「実は」とよく喋る

枚方市 藤田 武人
五十まで数えて嬉し風呂の中

箕面市 大浦 初音
時により猫を二匹もかぶります

郡山市 安藤 敏彦
迷うこと多いが自由席がいい

鳥取市 狭武 紫陽
天国行きのマジナイ笑顔絶やさない

石川県 堀本のりひろ
親子三代いびきを競う旅の宿

神戸市 みぎわはな
口開けて言い足りないか棺の中

大阪市 小野 雅美
家事忘れ両手独占するスマホ

大阪市 平賀 国和
外出はスマホ持たされ繋がれて

弘前市 小山内真由美
年代がしつかりわかる着信音

河内長野市 村上 直樹
「ゴメンネ」のメール休戦受け入れる

西宮市 高橋千賀子
CMほど効き目のでない化粧品

松江市 相見 柳歩
周波数ピッタリ合って笑いあう

大阪市 島田 明美
イノシシに先を越されたお芋掘り

富田林市 山野 寿之
針に糸軽く傘寿の袋縫い

大阪市 岡田 恵子
数独が解けた明日は晴れマーク

鳥取県 門村 幸子
シンプルに気ままがよろし老いの幸

橋本市 石田 隆彦
受信料要らぬ今夜も深夜便

寝屋川市 富山ルイ子
小春日和友の文読む日向ぼこ

倉吉市 大羽 雄大
雨漏りに虫喰い家も老体化

大阪市 宮崎シマ子
シニアなど言うな嫁と同じことしてる

大阪市 江島谷勝弘
脳ちぢみ財布もちぢみ背もちぢむ

河内長野市 梶原 弘光
育毛剤今更感は否めぬが

大阪府 内田志津子
万歩計ノルマ果たせと急かされる

沖繩県 禰 モモト
完歩して生爪抜けた二十キロ

奈良市 加藤江里子
ベットホテル一泊六千五百円

札幌市 三浦 強一
リモートの忘年会は猫抱いて

海都市 小谷 小雪
人間を休みたいとき昼寝する

鳥取市 岸本 宏章
気のせいかサブリ飲んだら身が軽い

河内長野市 森田 旅人
ポトポトとトトトとと雨見るひとり

神戸市 興水 弘
持病四つクスリ仕分けが生業に

沖繩県 あらさくら
手には本風に揺られて夢ごこち

香南市 桑名 孝雄
新暦孫の佳き日へ二重丸

三田市 辻 開子
暇だからなかなか切れぬ長電話

横浜市 菊池 政勝
やり直しきかぬ育児に悔い残る

大阪府 岩崎 玲子
プライドをちよつと横置きゴマをする

三田市 多田 雅尚
さとふるで毎年変わる我が故郷

鳥取市 吉田孔美子
微細な事が大病に繋げてた

安来市 原 徳利
ひと汗を流す転ばない体操

大阪府 滝井えみこ
素うどんに似た人生と言ひし母

弘前市 稲見 則彦
BBQトング奉行としやしり出る

弘前市 福士 慕情
ビル解体ガレキに想うウクライナ

名古屋市中 山本三樹夫
ウクライナ人の情けで国守る

鳥取市 永原 昌鼓
黒帯が泣いてるブーチンの仕業

大洲市 花岡 順子
コロナから微熱が怖くなりました

宝塚市 岸田 万彩
オイお前マスクをしろという視線

豊橋市 八甲田さゆり
皺かくし慣れて外せぬ顔パンツ

岩国市 上村 夢香
コロナ超えて女子会続くエンドレス

箕面市 広島 巴子
三年振り旅行で五年若返る

堺市 澤井 敏治
ときどきはマスク外して縄のれん

神戸市 斎藤 隆浩
路地裏はちよい悪オヤジの秘密基地

米子市 竹村紀の治
先ず酒だツマミはあとで考える

西宮市 緒方美津子
どうしたら飽きるのだらう酒ビール

尼崎市 永田 紀恵
トリスハイ五十円から酒デビュー

東大阪府 青木 隆一
五号酒人格保つ自信なし

神戸市 敏森 廣光
僕の体3Lにした酒・コロナ

和歌山市 北原 昭枝
そろそろと熱燗がいい冷える夜

三原市 笹重 耕三
冷えますね熱燗ですな鍋ですな

堺市 坂上 淳司
封切った亡母の梅酒は琥珀色

東大阪府 北村 賢子
晩酌へ胃散を飲んで休まない

沖繩県 宮 すみれ
今も聴く胸キュンキュンのふたり酒

寝屋川市 長尾 千賀
その後をもっと聞きたい酒を注ぐ

奈良県 室田 行久
二日酔い日が沈む頃同じ轍

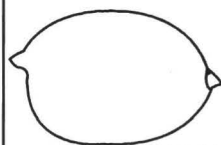
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句329名)



「ためらう」

江島谷

勝弘選

年賀状ためらいながら止められず
ためわらずワクチン五度目打つつもり
にんげんであるなら押せぬ核ボタン
ためらわずブーチンには氏を付けぬ
ミサイル発射ためらいもない北のドン
ためらいの瞬時に株価急降下
更迭をためらい総理大ピンチ
中国製はためらう癖がついている
医療費の値上げためらい医者通い
ためらいが正解だった詐欺電話
ためらって旬の果実を食べそこね
物価高眺めるだけの菓子売場
第八波の影が気になるカニツアー
どうしよう鼻毛出ると教えない
吊り橋のまん中辺で立ちすくむ

米子市	中原	章子
鳥取市	岸本	宏章
郡山市	安藤	敏彦
高槻市	松岡	篤
豊中市	きとうこみつ	
松山市	宮尾みのり	
堺市	坂上	淳司
富士見市	中島	通則
奈良市	東	定生
大洲市	花岡	順子
鳥取県	竹信	照彦
鳥取市	太田	睦子
尼崎市	清水久美子	
宮崎市	押川	胡坐
奈良県	渡辺	富子

「ためらう」

永見心咲選

ためらったあとはアクセル吹かすだけ
お見舞いに行こうか手紙にしようか
里帰りしたいが賞与少ないし
水平線ためらうように入る夕陽
片足でのつてみました体重計
裁判所のまえを行ったり来たりする
本当に俺でいいかとふと思う
ためらって書いた草書に角がある
女性車両ためらいもなく乗るおばちゃん
ためらいが家の周りを回らせる
ためらわず夫の物は捨てられる
面接日阪神ファンか尋ねられ
ためらった指先まち針が叱る
オンラインやってみようか知らんけど
医師黙り問いを躊躇のレントゲン

岩国市	上村	夢香
大阪市	島田	明美
尼崎市	清水久美子	
宝塚市	丸山	孔一
河内長野市	坂野	澄子
岡山市	大石	洋子
土佐清水市	辻内	次根
宝塚市	岸田	万彩
神戸市	斎藤	隆浩
倉吉市	大羽	雄大
奈良市	加藤江里子	
神戸市	米田利恵子	
枚方市	桧尾	奏子
箕面市	広島	巴子
岡山県	藤澤	照代

パンジー台まだ決心がつかぬまま
 断捨離に日日ためらつて捗らず
 ためらわず相続権は放棄した
 ためらつてやはり大きい方にする
 別腹と言つてためらう事もなく
 もう入らないM寸をまた仕舞う
 五万円ちよつとためらうクラス会
 削除ギー君のアドレスまだ消せぬ
 リフォームをためらう内に床抜ける
 ためらいながら血管探るインターン
 三食昼寝ためらいのない塀の内
 新車買う買わずに今のままいくか
 ゼロの数 数えグッチの店を出る
 散髪屋ためらい勝ちに髪洗う
 片足でのつてみました体重計
 ためらつている長蛇の駅トイレ
 ためらわず落ちてる金は拾います
 憎い奴死んでもバンザイは出来ぬ
 ためらつたばかりに恋の負け戦
 ためらつて会えずに逝つた友へ悔い
 恥じらいを知つてためらう観覧車
 妻の腹見て思うことあるけれど

大阪府	近藤	風羅	河内長野市	森田	旅人	西宮市	福島	弘子	鳥取市	加藤	茶人	大阪市	川端	一步	明石市	桃谷	和郎	広島市	羽城	裕子	米子市	坂野	澄子	河内長野市	竹村紀の治	三田市	村田	博	大阪市	坂	裕之	鳥取市	上山	一平	神戸市	松倉	正美	倉吉市	宮田	風露	大阪府	大浦	福子	米子市	池田	美穂	尾道市	村上	和子	弘前市	稲見	則彦	尼崎市	藤田	雪菜	島取市	岸本	孝子	豊中市	水野	黒兎	藤井寺市	鈴木いさお
-----	----	----	-------	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-------	-------	-----	----	---	-----	---	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	------	-------

ためらいを仲人口が丸め込む
 どうしよう鼻毛出ると教えたい
 ためらわず進めばきつと虹がたつ
 ためらわず別れなはれと言う他人
 中国製はためらう癖がついている
 ためらいの沼に嵌つて抜け出せぬ
 指切りをするのに躊躇する小指
 散り時は今日か明日かと銀杏の葉
 ばあさんと呼ぶをためらう若作り
 入学金家業を継げと言えぬまま
 廃屋の土足ためらう畳の間
 ためらいを先に失敬するクラス
 そのうちに治るだろうと日延べする
 ためらいの一言誤解されたのか
 捨てられた子猫にごめん「飼えないの」
 鉛筆書きで何度も消した跡がある
 百均に入つた妻が出てこない
 腹黒い自覚CT躊躇する
 秋日和ためらつた旅悔やまれる
 ドルの価値わかつているが今買えぬ
 リフォームをためらう内に床抜ける
 一人居に同居促す申し出で

可児市	板山まみ子	倉吉市	宮田	風露	豊中市	きとうこみつ	鳥取市	吉田	弘子	唐津市	坂本	峰朗	和歌山市	柏原	夕胡	倉吉市	牧野	芳光	丹波篠山市	澤	良子	大阪市	古今堂蕉子	和歌山市	定松	宏枝	大坂市	今村	和男	今治市	安野かか志	樫原市	居谷真理子	米子市	妹能令位子	石田	孝純	大阪府	石田ひろ子	後藤	宏之	富士見市	中島	通則	神戸市	山崎	武彦	三田市	稲角	優子	宮崎市	押川	胡坐	広島市	森田	博之
-----	-------	-----	----	----	-----	--------	-----	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	----	-------	---	----	-----	-------	------	----	----	-----	----	----	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	----	-----	-------	----	----	------	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----

まだ全部聞けないことが夫でも
面接日阪神ファンか尋ねられ
ためらわず辞表受け取る想定外
半顔をのぞかせ猫の好奇心
逡巡の視線に焼酎のロツク
飲み会の誘いためらいなどしない
誘われて即答できぬもどかしさ
成功は五分五分迷う膝手術
ためらった嫁に介護を任してる
赤を着て少しためらうおばあちゃん
ためらいの気配伝わる電話口
ためらった指先まち針が叱る
損や得思案決まらぬ腕を組む
ためらいの波決断を鈍らせる
ためらいを先に失敬するカラス
挫けそうためらい捨てたはずなのに
ためらいの後に後悔やつて来た
ためらって斜めに座る窓の椅子
ためらった愛想笑いが板につく
本題にまだ入れずに雑談中
ここという時にためらうあかんたれ
ためらった言葉の流れつくベツド

奈良市	加門	萌子	神戸市	米田利恵子	三田市	松下	英秋	防府市	坂本	加代	松江市	石橋	芳山	寝屋川市	伊達	郁夫	鳥取市	吉田	弘子	寝屋川市	川本	信子	鳥取市	中村	金祥	尾道市	小川	道子	羽曳野市	藤原	大子	枚方市	栃尾	奏子	三田市	北野	哲男	富田林市	山野	寿之	今治市	安野	かか志	米子市	後藤	宏之	三田市	九村	義徳	三木市	山口ヨシエ	神戸市	横田	次郎	神戸市	上田	和宏	芦屋市	上野多恵子	鳥取県	斉尾	くにこ
-----	----	----	-----	-------	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	-----	-----	----	----	-----	----	----	-----	-------	-----	----	----	-----	----	----	-----	-------	-----	----	-----

ラストワンためらいもなく伸びた箸
ためらわずグレーヘアーに赤を着る
円安の儲け話はちと怖い
ためらえば嫌いなのかと聞いてくる
軸吟はどっちがいいか訊かれても
ためらうと化粧の乗りも悪くなる
武士道を汚すためらい傷の跡
ためらっている長蛇の駅トイレ
年の差を気にはしないが踏みきれぬ
もう入らないM寸をまた仕舞う
ためらいのボンと背押す肝っ玉
迷い箸マナー違反と叱られる
子といえど貸すをためらう老の金
お気の毒値上げたためらう蕎麦店主
病人へためらう言葉ががんばって
ためらって良かったこともありました
おずおずと蓋開けてみる玉手箱
ちよっとキツイ空いた座席を横睨み
ためらってみても心は決めてある
ゴキブリをためらいもなく叩く妻
ためらいの跡は見せまい熨斗袋
ためらいなく縦にだけ振る首である

河内長野市	中島	一彌	鳥取市	岸本	孝子	奈良県	谷川	憲	たつの市	江尻	房子	明石市	瀬島流れ星	宇部市	平田	実男	香南市	桑名	孝雄	広島市	羽城	裕子	大阪市	岩崎	公誠	尾道市	村上	和子	富田林市	山野	寿之	箕面市	大浦	初音	大阪市	宮崎シマ子	東京都	宮田	栄子	鳥取市	山野すみれ	青木ゆきみ	東大阪市	中村	恵	富田林市	大島ともこ	倉益	一瑤	大阪府	田原	康雄	藤井寺市	太田扶美代	黒石市	石澤はる子
-------	----	----	-----	----	----	-----	----	---	------	----	----	-----	-------	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	------	----	----	-----	----	----	-----	-------	-----	----	----	-----	-------	-------	------	----	---	------	-------	----	----	-----	----	----	------	-------	-----	-------

ためらったあとはアクセル吹かすだけ

ためらわず信じる道をひた歩く

八十路坂いまやためらうこともなく

いのちさえあればためらうことはない

とんとん拍子ためらいを捨ててから

本当に俺でいいかと思ふ

後はもう左クリックするばかり

初めてのキス 彼の手もふるえてた

百均に入った妻が出てこない

ためらわず夫の物は捨てられる

ジェンダーと言えずためらい傷がある

おきれいですねもセクハラかも知れぬ

親戚がここに判子を押せと言う

バツイチを平気で言えるいい時代

抱き寄せた肩がこんなに揺れている

ためらった二秒で買えぬ奉仕品

ためらったようだ何度も消した跡

分娩はひといきにためらわずする

秀 句

お見舞いに行こうか手紙にしようか

羊羹にためらい傷が残ってる

一瞬のためらい三振で終る

岩国市 上村 夢香

香芝市 大内 朝子

尾道市 小畑 宣之

貝塚市 吉道あかね

藤井寺市 太田扶美代

土佐清水市 辻内 次根

佐賀県 真島久美子

大阪府 古今堂蕉子

倉吉市 牧野 芳光

奈良市 加藤江里子

箕面市 出口セツ子

奈良市 大久保眞澄

枚方市 藤田 武人

尼崎市 藤井 宏造

三田市 上田ひとみ

尼崎市 近兼 敦子

神戸市 富永 恭子

岡山市 大石 洋子

大阪府 島田 明美

池田市 太田 省三

和歌山市 佐藤 まき

人混みに分厚い財布落ちている

胃カメラのあとはノンアルそつと飲む

ためらわずブーチンには氏を付けぬ

躊躇した返事へ本心が透ける

あきらめてしまえばみんな美しい

逆縁にかけの言葉が見当たらぬ

シナリオにない終章がもう近い

ゴムズボンためらいがある女です

手を上げるためらい捨てた少数派

その先が見えているから近づけぬ

咳すると隣に誰も座らない

決心がつかず崩れた膝小僧

ヘアピースずれてるなんて言いづらい

ゼロの数 数えグッチの店を出る

逡巡の視線に焼酎のロック

親戚がここに判子を押せと言う

ボタン押す指を何度も引つ込める

四捨五入の四を切れないままで雨

秀 句

再会へあの日の鈴は響かない

ためらえばホラね刃こぼれてしまう

後はもう左クリックするばかり

大阪府 井丸 昌紀

米子市 竹村紀の治

高槻市 松岡 篤

香芝市 大内 朝子

生駒市 饗庭 風鈴

鳥取県 門村 幸子

越谷市 久保田千代

鳥取市 大前 安子

大阪府 近藤 正

黒石市 北山まみどり

神戸市 能勢 利子

和歌山市 松原 寿子

東大阪府 北村 賢子

三田市 村田 博

松江市 石橋 芳山

枚方市 藤田 武人

神戸市 みぎわはな

大阪府 平井美智子

松山市 柳田かおる

弘前市 高瀬 霜石

佐賀県 真島久美子

「伝える」

(投句 221名)

村上直樹選



見逃していいのだろうか子のサイン
こそそ話一番風にのりやすい
言の葉は足りなかつたり余つたり
マズクてもマズイと言えぬりポーター
被爆者が愚直に語る生きた声
子や孫へ語り部となる大津波
でかい文字躍る歓喜のスポーツ紙
好きですと伝えてみたい好きな人
本心を伝える為に呑むお酒
一子相伝これぞ老舗の極意技
胎教にいい音楽を聴いている
グループメール既読のつかぬ人が居る
メールでは君の吐息が伝わらぬ
冷蔵庫残業しますが貼つてある
見習いがスキルに挑む町工場
新聞受け異常伝える三日分
アイドルは歌でダンスでルックスで
正直に伝えるという刃あり
片想い以心伝心なんて嘘
田畑を譲り伝える血の絆

明石市 糒谷 和郎
西宮市 緒方美津子
篠屋川市 廣田 和織
浜松市 中田 尚
鳥取県 門村 幸子
弘前市 福士 慕情
河内長野市 中島 一彌
豊中市 藤井 則彦
東大阪市 青木 隆一
男鹿市 伊藤のぶよし
貝塚市 古道あかね
大阪市 古今堂蕉子
三田市 稲角 優子
岡山市 工藤千代子
富田林市 山野 寿之
篠屋川市 川本 信子
和歌山市 まつもととこ
神戸市 富永 恭子
香南市 桑名 孝雄
宮崎県 恵利 菊江

平常心のうちに書き置く遺言書
移ろいを千年杉の伝道師
捨てられず伝えられずに抱く未練
食べ頃を伝える無花果の媚態
補聴器が要らぬ事までキャッチする
寂しさを伝える術のない夜ふけ
又聞きのと聞き尾緒てんこ盛り
植物も秘かにしてる意思疎通
糸電話乳の匂いも伝いくる
耳打ちの誤作動針が棒になる
伝統の蔵と技継ぐ女杜氏
ありがとうだけは最期に言うつもり

佳作

不機嫌なママを子供が目で合図
気遣いの四季を運んだ花切手
「大好き」を伝えきつぱり別れた日
獅子舞の過疎の伝統継ぐ茶髪
言葉より確と伝える目の力
ひと言に添えたワサビのほどの良さ
地
ママ聞いて夢は無限のランドセル
天
遺跡だと思つたわしの蒙古斑
軸
未熟者！目は笑つて師の遺影

松山市 宮尾みのり
大阪市 石田 孝純
藤井寺市 太田扶美代
札幌市 三浦 強一
三田市 多田 雅尚
大阪市 岡田 恵子
奈良県 室田 行久
豊橋市 小松くみ子
河内長野市 森田 旅人
神戸市 みぎわはな
三田市 北野 哲男
犬山市 金子美千代
明石市 瀬島流れ星
河内長野市 坂野 澄子
岐阜県 喜多村正儀
岡山市 藤澤 照代
羽曳野市 藤原 大子
橿原市 居谷真理子
三田市 尾崎 一子
弘前市 高瀬 霜石

「はるばる」

(投句 215名)

北山 まみどり 選



リュウグウが時空を超えて運ぶ夢
アサギマダラ日本の夏は長かった
どこ行くのだれも知らないいいところ
はるばると来ているはずだ宇宙人
やしの実は無賃乗車で潮任せ
砂浜のベットボトルの多国籍
ガソリンを満タンにして紅葉狩
山頂に登った時の達成感
はるばると里の噂が来て止まる
故郷へ三年かけて辿り着く
ふるさととは見る陰もない変わりよう
村人の笑顔見にくる渡り鳥
白鳥が飛来しロシア語を話す
謎解きに宇宙の果ての砂採取
ゴキブリは偉い氷河期越えてきた
軒下集う椋鳥はるばると
ランドセルしよって通った二里の道
三陸の再起うれしいわかめ着く
停滞へふる里の灯が遠くなる
リュウグウへ夢を広げる玉手箱

河内長野市 穂口 正子
岡山市 工藤千代子
三田市 尾崎 一子
東大阪市 青木 隆一
芦屋市 新阜 義明
土佐清水市 辻内 次根
尼崎市 清水久美子
西宮市 高瀬 照枝
岐阜県 喜多村正儀
河内長野市 木見谷孝代
大山市 金子美千代
富山市 伴 よしお
倉吉市 牧野 芳光
河内長野市 中島 一彌
弘前市 高瀬 霜石
大阪市 内田志津子
大阪市 島田 明美
大阪市 岩崎 公誠
和歌山県 三枝眞智子
河内長野市 大島ともこ

病む妻が「月の砂漠」を口ずさむ
一歩ずつ歩いて後期高齢者
この気性持っていきますあの世まで
四日かけ着いた手紙のいじらしさ
エメールやつぱり君は遠いんだ
オリオンがはるばるの会に來てくれる
亡き人と約束がある星の駅
はるばると來た道一人になつて
振り返る道の長さに感無量
拉致の子を思う遥かな国想う
はるばるの概念変えたグローバル
地球儀よ心をつなぐ愛つなぐ
佳 句
果てしない旅路が待っている最期
左遷地が子の古里になる大地
向日葵が遠く西空向いたまま
長旅の羽根を休めるこはく鳥
はるばるの言葉を軽くしたLINE
人
身辺をクリアーにして長い旅
地
年輪がはるか遠くへ來たという
天
どこまでも紙飛行機で飛んでゆく
軸
長旅の証しだ角が取れている

弘前市 福士 慕情
大阪市 原田すみ子
和歌山県 上田 紀子
橿原市 居谷真理子
三田市 上田ひとみ
大阪市 今村 和男
大阪市 平井美智子
神戸市 奥澤洋次郎
札幌市 三浦 強一
箕面市 出口セツ子
河内長野市 梶原 弘光
和歌山県 柏原 夕胡
三原市 笹重 耕三
横浜市 加藤 佳子
奈良県 安福 和夫
西宮市 福島 弘子
大阪市 宇都満知子
防府市 坂本 加代
貝塚市 吉道あかね
東京都 川本真理子

初級教室

題一雲

水野黒兎

謹賀新年。皆様のご健康とご多幸とそし
てご健吟を祈ります。

先ず、目がかもるとか、気分がかもりが
ちなどといった場合の漢字は雲ではなく曇
ですね。「目が曇る」です。

今回の雲の題は難しかったとの意見が寄
せられましたが私も同感です。しかし多く
の佳句が寄せられ感心しました。

以下、☆は皆様の句、★は参考句です。

☆ 海外の雲の写真で行った気分 弥生
先ず下6を解消します。次に具体的な地
名を入れた方がインパクトがあると感じま
す。例えば

★ ウユニ湖の雲の写真で旅気分
★ エッフェル塔の雲の写真にバリ気分

☆ 月の夜の逢瀬手伝う粹な雲 通則

うまくまとめてあります。しかし、やや

古めかしい内容ですので、少し現代風に

★ 雲散って月が見守る初デート

☆ 日暮時 静かな夕日あきれい 照枝

日暮れと夕日がダブリます。また句に雲

の姿が見当たりません。あきれいという

気持ち、句を読む人に感じていただけれ

ばいいですね。

★ 夕焼けに雲のうさぎを子らと見る

☆ 大の字になって雲と独り言 尚

中6を解消します。青春時代の一人旅の

感傷と解釈しました。そして雲に語りかけ

てみてはいかがでしょうか。

★ 旅の野に大の字になりなあ雲よ

☆ 入道雲ちぎってみたい待ちぼうけ

えみこ

待ちぼうけの苛立たしさを強調して

★ 入道雲をちぎって囃んで待ちぼうけ

☆ 言い出しがいつの間にやら雲隠れ

栄次

何を言い出したのが少しでも分かったと

いいですね

★ 言い出しつべが雲隠れしたプロジェクト

☆ 雲壤の僧侶と並ぶ父の墓 えい子

雲壤は難しい言葉ですね。天と地、違い

がなはだしい事などと辞書の説明。何が

天で何が地か、そしてなぜ雲壤なのかの疑

問がのこります。作者の意図とは全く異な

るかもしれませんが

★ 夏雲や僧服の黒墓碑の白

★ 夏雲を仰いで墓に父偲ぶ

☆ 青雲に映える故郷の彼岸花 栄子

青雲は晴れた高い空、また地位・学徳な

どが高い事と辞書にあります。青雲の志と

いう表現があります。この句の場合は柔ら

かな言葉の方が良さそうですね

★ いわし雲に映える故郷の彼岸花

☆ 遠い日にふる里で見たいわし雲 静恵

このままでもいい句と思いますが望郷の

念を強めてみます

★ 師よ友よふる里で見たいわし雲

☆ 雲行きを見ることばかり上手くなり

双葉

作者の年齢はわかりませんが、句の内容

からして人生のベテラン。そこで例えば

★ 雲行きを見るのに長けて今や古稀

☆ ストレッチ雲龍型の妻の所作 誓子

雲の題で雲龍型を發想したのは拍手。

★ ストレッチ雲龍型でのっしのし

☆ 飛行機雲ゆつくり生きる知らないか

次郎

下5の意味がつかみ取れませんでした。

作者の意図とは違うかもしれませんが

★ 飛行機雲にまっすぐ生きる道学ぶ

☆ 劍岳際立たせるや鰯雲 のりひろ

劍岳が雲を際立たせているようにとれますが、劍岳自体が際立つており、その上に

鰯雲が浮かんでいるという風景と解釈し

★ 劍岳際立つ空にいわし雲

☆ ちぎれ雲世界一周つなぎたい さくら

ちぎれ雲のようにバラバラになつていざ

ここの絶えぬ世界を嘆いている句と考え

★ ちぎれ雲のような世界をつなぎたい

☆ 茜雲心の苦楽薄れゆく 玲奈

「楽」まで薄れては困りますので

★ 茜雲こころの憂さが薄れゆく

☆ 青空が雲間に隠れつく一息 開子

★ 青空が雲間に見えて気が晴れる

★ 青空を雲が隠して出る吐息

☆ 雲に乘りたい 背中の中根がはえるまで

龍

空想豊かな句なので空想をさらに広げて
みます

★ 天使に羽根借りて乗りたいあかね雲

☆ 近未来空のタクシー金斗雲 和夫

西遊記では筋斗雲、鳥山明の漫画ドラゴ

ンボールでは筋斗雲。發想が面白い句。

一字訂正しこのままでいいと思います。

☆ 夕暮れにいわし雲の大舞台 一平

中6を解消して

★ 夕暮れはいわし雲には晴れ舞台

☆ 大好きなシャボン吸い込む雲を追う

中7の意味がよくわかりませんが 幸子

★ シャボン玉吸って染まったあかね雲

☆ 刻々とファンタジックに変貌をマユミ

多分、推敲をされているうちに課題の雲

が消えてしまいましたね。

★ 刻々と変貌雲のファンタジー

☆ 初恋は才色兼備 雲の上 行久

★ 初恋の君はまぶしく雲の上

☆ 雲掴む酒飲み交わす縄のれん 美美子

★ 雲掴む話題も有縄のれん

☆ 夏の雲母の姿に似てました

★ 夏の雲ふつくら丸く母に似る 風露

☆ 雲海が月の合間に描き出す 良子

この表現では何を描くのか不明です。ま

た雲海は山などの高い位置から見下ろした

雲を海にたとえた景観なので

★ 月光に雲海ゆらり波を打つ

☆ 子等妻へ怪しくなった雲行きが博之

事情がよく呑み込めません。勝手に解釈

して改定案を創ってみました。

★ 妻や子の雲行き怪し午前様

今月の佳句を紹介します。

○ 雲隠れいいえ体調不良です 百合

コントの切れ味のする句。

○ 仲秋の月光環にノクターン 閑

きれいな言葉が並んで詩的。

○ 東雲の空に浮かんだ地平線 良子

東雲という大和言葉が似合います。

○ 雲に乗り悟空の如く旅したい ひとみ

○ 変わりゆく雲の形で季節知る ひとみ

それぞれ下5を、したい旅、知る季節と

名詞止めにするのもありますね。

○ 暖かい夕焼け雲は母の色 博之

ほんのりとした味わい。

○ 鉛色の雲と一緒に冬が来る 風露

鉛色と冬がドンピシャリ。

同人特集

私の一句

(順不同)

竹原が大好き 普明閣に立つ
爺ちゃんと囁く背戸のヤモリ君
リセットをしよう 瞬き二三回
炭鉱の跡地のような落選者
嫁ぐ娘に黙って渡す母子手帳
一陽来春を念じて精進す
大字小字ヤモリも共に棲むところ
程ほどの進化を尊ぶ世を望む
初恋は沸点知らぬまま終わる
廃線を歩くレールの先に母
森よりも林の呑気さが好きだ
終息を待つ身も辛い後期なり
大あくびして浮かんでる朝の月
手と足の一句が今も生きている
物価高買わない知恵も一手なり
平均寿命越えて妻には逆らわず

神戸市	大阪市	岸和田市	大阪市	弘前市	橿原市	大阪市	豊中市	奈良県	桜井市	三田市	大阪市	奈良市	和歌山市	鳥取県	竹原市
上	岩	岩	井	稲	居	石	池	安	安	足	東	東	川	新	小
田	崎	佐	丸	見	谷	田	田	福	土	立			上	家	島
和	公	ダン	昌	則	真	孝	純	和	理	つ	敏	定	大	完	蘭
宏	誠	吉	紀	彦	子	純	子	夫	恵	な	郎	生	輪	司	幸



なんとなくそんな気がしていたのです
ロシアへの帰郷ためらう渡り鳥
晩学の坂はだんだん急角度
母が逝く瘡蓋ポロリとれた朝
ひんやりと沈黙ほっこりと寡黙
顔じゃない人は心とお金だよ
此の至福敬うことを知ってから
取り零す目から口から掌から
切狂言心残さぬよう生きる
金婚式すぎ戦友になる夫婦
要るいらぬ要る要る要ると片付かず
風と歩く話しながら抱かれながら
生きるのに希望が一つあればいい
カレンダーに丸あり明日がやってくる
地で生きていこう二度とはない余生
やめようと思うがやめて何をする
記憶から君が消えない罰ゲーム
ヒトラーとダブルス組んだ独裁者
子等が来てにぎやかうれし家笑う

三田市	豊中市	岩国市	大阪市	大阪市	大阪市	大阪市	岡山市	香芝市	箕面市	奈良市	河内長野市	吹田市	藤井寺市	神戸市	三田市	大阪市	堺市	大阪市	
上田	上出	上村	内田	宇都	江島	榎本	大石	大内	大浦	大久保	大島	太田	太田	太田	奥澤	尾崎	小野	柿花	笠嶋
ひとみ	修	夢香	志津子	満知子	勝弘	舞夢	洋子	朝子	初音	眞澄	ともこ	昭	扶美代	洋次郎	一子	雅美	和夫	恵美	恵美



正直に書くとは凶器になる手紙
少しもたまた歳のせいです悪しからず
第九完成失聴を乗り越えて
お口直しにいかがが私のドジ話
残り火でまだ大抵のことはできる
どの枝の花も一途に凜と咲く
空高くふくらむ福をつかむ年
砲弾も白球も飛ぶ広い空
家計簿が乱れたままの物価高
ウクライナ想えば胸が張り裂ける
吉報に字まで踊っているようだ
それぞれの暮らしを生きた同期会
無駄積んでやがて輝く時が来る
ウクライナブルーの空へ鳩よ舞え
序破急があつてこの世の旅の中
残照へわたしの画布はまだ未完
僕の芯作ってくれたのはお米
忘れ得ぬひとを心のアルバムに
橋の名を想う八つ橋食べながら

堺市	西予市	松山市	鳥取市	越谷市	和歌山市	河内長野市	東大阪市	鳥取市	鳥取市	横濱市	東京都	寝屋川市	東かがわ市	藤井寺市	犬山市	奈良市	高槻市	和歌山市
乗	黒	栗	倉	久保	木	木	北	岸	岸	菊	川	川	川	鴨	金	加	片	柏
原	田	田	益	田	本	見	村	本	本	地	本	本	崎	谷	子	藤	山	原
道	茂	忠	一	千	朱	孝	賢	孝	宏	政	真	信	ひ	瑠	美	江	か	夕
夫	代	士	瑤	代	夏	代	子	子	章	勝	理	子	かり	子	千	里	ず	胡

今が旬ふたたびのない今を生き
 イエスマン集め阿吽の壺に入れ
 尖がり生きて悔いの手毬を転がして
 夢は夢物価値上り暮らさねば
 憲法は時代をこえて生き続け
 公平に人生終わる慌てない
 お若いと言われ思わず背伸びする
 好きな事出来るんだから幸せだ
 なんとかなるさ魔法の言葉もっている
 伸びしろがあるねと肩を叩かれる
 急ぎ足動く歩道でひとやすみ
 喜怒哀楽乗り越えてきた喜寿傘寿
 春帽子ふわりと夢をつかまえる
 この暑さ越えてやさしい秋を待つ
 ウイズコロナ如何に暮らそう鬼灯よ
 天孫降臨やまとの先にある大和
 お爺さんと呼んでくれるなお婆さん
 日の丸を立てて平和なお正月
 生きていくレシビ笑顔と忍の文字

鳥取市	犬山市	藤井寺市	熊本市	高槻市	高槻市	堺市	東大阪市	神戸市	防府市	箕面市	大阪市	神戸市	堺市	大阪市	弘前市	神戸市	大阪市	明石市
田賀	関本	鈴木	杉野	初代	島田	澤井	佐々木	桜井	坂本	酒井	坂藤	斎藤	近藤	今水	興水	古今堂	糀谷	和郎
八千代	かつ子	いさお	羅天	正彦	千鶴子	敏治	満作	崇史	加代	紀華	裕之	隆浩	さくら	愁女	弘子	蕉子	和郎	



終章へ向かう砂時計をくるり
生まれ変われるならば今度は強い人
やんやの声に草木も揺れる村芝居
締め直す歳相応の帯の位置
NOと言う返事も出来ず悔やむ日日
ご長寿を祝う陰には泣く介護
プーチンの歯車どこかで狂ってる
分かりやすく言えば分かりにくい人
朝焼けが見たくて岬まで歩く
8度2分迎える医師の重装備
うなづいて不安を消してくれた母
青天も雨天も得をした気分
ウエストのくびれ小麦粉止めてから
性善説信じて馬鹿をみる私
アサガオを数える朝だ平和です
巢の中に鎮座の蜘蛛はアーティスト
土壇場が人の器量を炙り出す
発芽してみようあなたに会うために
朝の風新たな今日が開きます

生駒市	枚方市	神戸市	羽曳野市	大阪市	箕面市	大阪市	土佐清水市	尼崎市	枚方市	岡山市	大阪市	大阪市	寝屋川市	三田市	芦屋市	奈良市	大阪市	大阪市
飛	栃	敏	徳	寺	出	津	辻	近	丹	丹	谷	田	伊	多	竹	高	高	高
永	尾	森	山	本	口	守	内	兼	後	屋	下	口	中	達	田	山	橋	杉
ふりこ	奏子	廣光	みつこ	実	セツ子	柳伸	次根	敦子	凱	義	廣子	郁夫	雅尚	千賀子	敬子	千歩	力	



青空に洗濯物がある平和
守られていると知ったら応えたい
嬉しさは近況を知る友の文
ほんとうの痛みを知らぬ司令官
晩成を信じる亀のポテンシャル
夕間暮れ動き始める酒の虫
お隣を知らず世界のニュース知る
なんだったか思い出せない出てこない
どしゃぶりへ出るワクチンの四回目
秋を呼んでくれそうモジリアニの首
昭七で賛成戦後民主主義
釈迦仏もマスクしたかる東大寺
ありがとうで疲れが消えた介護の日
人思う心育てるボランティア
砂漠にオアシスわが家に妻がいる
褒め言葉杖に柱にして卒寿
ご長寿と言われる歳になりました
女子会の花見仕上げはスイーツで
コロナ禍を雪ぐが如く白い朝

高槻市	神戸市	寝屋川市	堺市	今治市	尼崎市	米子市	奈良県	箕面市	大阪市	唐津市	三田市	神戸市	奈良県	大阪市	宇部市	寝屋川市	箕面市	寝屋川市
富田	富永	富山	内藤	永井	永田	中原	中堀	中山	西出	仁部	野口	能勢	長谷川	平賀	平田	平松	広島	廣田
保子	恭子	ルイ子	憲彦	松柏	紀恵	章子	優子	春代	楓楽	四郎	真桜子	利子	崇明	国和	実男	かすみ	巴子	和織

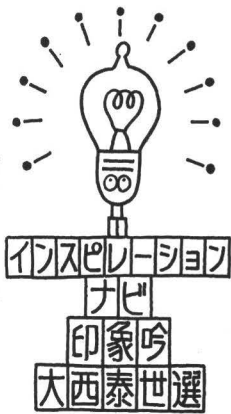


逆風を竹のしなりで切り抜ける
ボクの尻尾 愛に踏まれる為にある
一仕事終えた安堵の長い影
虫の目で気付かず鳥の目で気付く
電話には一番若い声を出す
思い切り吐いて腹いっぱいに吸う大気
ごたごたの過去ひっさげて現在地
紙コップ軽い約束させられる
数独が解けるまだまだ頑張れる
コロナには負けぬカラオケ健康法
年だからと逃げたら余計年を取る
ミサイルに費やす無駄なエネルギー
立ち飲みのつもりか脚に蚊が二匹
家族の輪手料理という武器がある
兄が来たあれは何年前だろう
せめてもの年末年始ウニいくら
締切りがあるから作句止められず
毎日がチャンスだ今日という舞台
柳友からの小包抱いて涙ポロポロ

尼崎市	笠岡市	豊中市	枚方市	尼崎市	寝屋川市	羽曳野市	和歌山市	豊中市	高砂市	高槻市	神戸市	豊中市	和歌山市	松江市	札幌市	松山市	和歌山市	大阪市
藤井	藤井	藤井	藤田	藤田	藤村	藤原	古久保	松尾	松尾	松岡	松倉	松田	松原	松本	三浦	三尾	三宅	宮崎
宏造	智史	則彦	武人	雪菜	亜成	大子	和子	美智代	柳右子	篤	正美	蟻日路	寿子	文子	強一	みのり	保州	シマ子



自画像のバックは淡い色にする	堺市	村上玄也
追い風にすっかり油断してしまふ	八尾市	村上ミツ子
アドリブで生きたまゆらの陽の光	河内長野市	森田旅人
未生流師範ですのとロボが言う	松原市	森松まつお
拜まれて出て拜まれて沈む月	米子市	八木千代
独り居の気まま放題今が旬	高槻市	安田忠子
凡夫婦シテとワキとで馬が合い	神戸市	山口光久
裏方に徹して光るいぶし銀	神戸市	山崎武彦
山頂で天空からの風を抱く	香芝市	山下じゅん子
ランチ定食大盛りたのむ僕の嫁	尼崎市	山田厚江
無口ですみんな「どうも」で済ましてる	尼崎市	山田耕治
人生の汗も涙も知る峠	富田林市	山野寿之
たなごころに載せる夫もウイルスも	吹田市	山本希久子
ことごと煮物幸せ沁みてくる	奈良市	山本昌代
コロナ禍も花は季節と共にある	名古屋市	山本三樹夫
一番の鬼は自分の中に住む	大阪府	米澤俣子
獏だって好き嫌いある夢の跡	奈良市	米田恭昌
虹色の夢をポッケにウオーキング	奈良市	渡辺富子



(投句 184名)

ハッピーニューイヤーのはずですが、どう考えてもハッピーではない事が多すぎます。

爆弾が飛び交う厳寒の地もあれば、昨年のFIFAワールドカップのように国を挙げての大騒ぎまで、スポーツの祭典も莫大な資金が動き、穏やかならぬことも多々。

今年はほんの少しでも平和な方へ軸が傾いてくれればと願わずにはおれません。

では、ナビを。

山門を潜つてからは善人です

(評)山門を一步潜ればあら不思議、心までが洗われたような気になります。きつと、もともとといい人でしたのね。

遠慮なく大きいダイヤ所望する

(評)人から欲が深いとか厚かましいと

か、何と言われようと欲しい物は欲しいと言えなくっちゃあネ。

一つ嘘ついたらあとは嘘だらけ

(評)これ、ホントにそうです。但し、ついた嘘はちゃんと覚えておかなくては次の嘘はつきません。結構キツイ。

賑わいの戻った街は多国籍

(評)最近では以前のように街に外国の人の姿を見かけるようになったけど、コロナはまたぶり返し、いーかげんにして!

怒りなやふわつと丸くなりなされ

(評)ふわつと丸い人を見れば、何て素晴らしい人でしょうと思うのですが、自分になれる自信はありません。

シャボン玉一等星になる決意

(評)どんなに力の無さそうなものだって、やる気になれば大丈夫、きつと輝く一番星になれること間違いなし。

Jアラート鳴って飛び立つガン群れ

(評)Jアラートでテレビの画面は真っ黒になるし、場所によつては地下に潜れと言われるし、そりゃ鳥たちも大変。

シャンパンの泡泡にある期待

(評)シャンパンの出るような、例えばス

テキナパーティーなど、行つた記憶はございません。ところで期待して?

いつだって明日からだと決めている

(評)明日から、というのを選いと思うか早いと思うか、なかなかムズカシイですが、ご本人の決断を優先、かな。

あと百秒あわれ絶滅するヒト科

(評)世界終末時計によると人類の絶滅まであと百秒だとか。昨今の各国の情勢など見れば、笑つておれぬことばかり。

神様は次の地球を考える

風邪薬よりのどアメが効くのです

注射して少しお熱を冷まします

高速路荷物落としちゃいけません

天体ショー地球も星と知らされる

夢の殻破る魔法を得る努力

迷うなよこれから先は一人だぞ

ガチャガチャにワクワク中味振ってみる

弘前市 稲見 則彦

羽曳野市 吉村久仁雄

高槻市 富田 保子

三浦 強一

丸山 孔一

木見谷孝代

笠岡市 藤井 智史

本庄ひろし

宮 すみれ

道子

高木

大阪府

高木

道子

大阪府

高木

道子

大阪府

高木

道子

大阪府

高木

道子

大阪府

高木

道子

大阪府

高木

道子

丹波篠山市 澤 良子

関節が太く指輪がはずれない

米子市 八木 千代

てん手鞠地球の外に飛びたいの

弘前市 高瀬 霜石

悪党にまで行き渡る給付金

生駒市 飛永ふりこ

頬張った綿菓子ふつとふと昭和

枚方市 藤田 武人

ソーダ水ぶくぶく母に怒られた

大阪市 平井美智子

潮時と思う ゆつくり手を離す

香芝市 山下じゅん子

女王蟻の住む巣はどこかあとをつけ

黒石市 北山まみどり

今はまだおたまじゃくしの卵です

佐賀県 真島久美子

その星は時給何百円ですか

大阪市 今村 和男

数時間も待っていたなあボーリング

高槻市 初代 正彦

生きてさえいれば思わぬツキもある

大阪市 笠嶋 恵美

虫めがね使つて見るがわからない

豊中市 上出 修

カルガモにブレーキ踏んで通りゃんせ

可見市 板山まみ子

ちっばけな地球で揉めてどうします

三田市 多田 雅尚

家建てる前にシエルルター用意する

大阪市 小野 雅美

この星を選び生まれてきたのです

三原市 笹重 耕三

アフリカへ届ける食もワクチンも

鳥取市 谷口回春子

囁きが波紋広げて大嵐

豊中市 水野 黒兎

太陽の雫で地球丸洗い

米子市 伊塚美枝子

物価高に畑の野菜出番だよ

尼崎市 八木 幸彦

ビードロを吹いた美人が見当たらぬ

東大阪市 青木 隆一

吐き出したああすつとした気分です

大山市 金子美千代

ツアーは卒業のんびり草津の湯

弘前市 福士 慕情

古時計父の形見を持ち歩く

郡山市 安藤 敏彦

温暖化地球は使い捨てですか

奈良県 長谷川崇明

二十年に一度の神のお引つ越し

東大阪市 青木ゆきみ

私だつて生まれた頃に戻りたい

明石市 桃谷 和郎

ポタポタと続く蛇口のひとり言

土佐清水市 辻内 次根

本当はガラスで出来ている地球

豊中市 きとうこみつ

時計回りにいつも回っているルンパ

大阪市 岡田 恵子

後もどりでできない旅のギフト券

浜松市 中田 尚

地球には効かなくなつた解毒薬

西宮市 高橋千賀子

舞い落ちる枯れ葉の中はファンタジー

大阪府 大浦 福子

海越えて打ち上げられたハンゲル語

広島市 羽城 裕子

地球儀に吹きかけているシャボン玉

芦屋市 新早 義明

太りたいサンマの気持ちよく分かる

大阪市 磯島福貴子

外貨預金あてがはずれた円安で

大阪市 高杉 力

ため息のシャボン玉には虹がない

豊中市 松田蟻日路

大ジョッキ ストロウで飲み目が回る

男鹿市 伊藤のぶよし

つぎつぎと嘘が尽きない青い星

広島市 松尾 信彦

終焉に悪くはないな宇宙葬

3月号発表

(1月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

川柳塔鑑賞

同人吟 高瀬霜石

— 12月号から

認知症の心配は毎日してゐる

谷口 義

クッキーの一つ気にする血糖値

萩原 狸月

後期高齢肉も魚も糖もとる

内田 志津子

ついこの前まで、肉よりは魚。とにかく先に野菜を食えと聞かされていたのに。

近頃は逆に、年寄りには、先に野菜を食べるとおなかがいっぱいになるの、まずは肉を食えたとさ、なんだバカヤロー。

川柳を作り老脳活性化

竹信 照彦

七福神の名前を五人までは言え

山口 高明

「アめんやで忘れとった」で済む歳に

長谷川 崇明

ボケ防止には、人と話すことが大事だ

そうで、キャバクラ（残念ながら行ったことない）や、テレビによく出てくる美人女将のいる粋な小料理屋（ありそうでないでしょ）も、いいんだってよお。そりゃいいだろう。僕も行きたいなあ。

まだボケは時間があると言うカルテ

木田 比呂朗

明けましておめでとうございます。

昨年の10月号の目次下に「悲しき青森県」と題した駄文を書かせてもらった青森県は弘前市に住む高瀬霜石です。

あそこに書いた通り、青森県の（特に男性の）平均寿命は、長い間ぶつちぎりの日本ワーストワン県なのだ。

長生きと健康寿命とは違う

川島 良子

そう、問題は、平均寿命より健康寿命。僕たち団塊の世代は、その健康寿命年齢（73歳）に到達したのであった。

団塊の夫は隠れサユリスト

奥田 由美

サユリストの夫はわたしを妻にした

大沢 のり子

のり子もここに極まれり。幸せ者よ。

弘前市では、弘前大学とコラボして、「いきいき健診」と称して、長い時間をかけて中高年のデータを集めている。

検査する前日だけは休肝日

多田 雅尚

幸せな迷いワインの白か赤

水野 黒兎

2年ごとの定期健診に行つた。前日、飲み過ぎて、ちよつと頭がボーッとしていた。検査した若い（大学生くらい）男性が、いきなり僕にこう質問した。

「何でもいいで、ナンか言つて下さい」

突然のことで、面食らつて、つい、

「酒を飲む人 花なら蕾 今日もサケサケ 明日もサケ」と、呟いた。

「な、な、何でもすかそれ？」と、彼。

「そうか、ゴメン。君は若いから知らんか。これは、都都逸といつて、ホラ、映画でさ、車寅次郎なんかもさ……」

暫くして、封書が届いた。開けると、

「あなたは、ボケ老人予備軍と認定されたので、追加の検査を受けて下さい。ついでに、ウンヌン……」とあった。

秋ですな読書しますか食べますか

川 端 一 歩

探しています昨日おとしてきた記憶

柳 田 かおる

そして、勿論、ポケ防止には読書。

秋夜長 清張読破 寝不足に

磯 島 福貴子

松本清張は、多作な作家。そのぶん、寡作な作家——例えば、芥川龍之介などの才能を認めなかったという。

確かに、アイディアが泉の如く沸き上がる平賀源内や、手塚治虫などは、天才の名に相応しいものなあ。

本棚に少年になる森がある

伊 達 郁 夫

去年の秋、カンヌ国際映画祭で「PLAN 75」（監督・早川千絵、主演・倍賞千恵子）が、特別表彰を受けた。設定が衝撃的。75歳以上の高齢者に生死を選ばせる制度「プラン75」が施行された日本を舞台に、翻弄されていく人々……

姥捨山の国にかわつてゆく日本

山 口 美 穂

老けたなあ仲間の老いはよくわかる

岸 本 清

長老が長老として住める世に

杉 野 羅 天

同い年頑張つてはるがんばろう

大 内 朝 子

青森県でもないのに、どうして、こんなにJアラートの句が多いのか。そうか、

そうだ、日本海に近ければ、みな「Jアラートきようだい県」なのだった。

Jアラート響いてタコ壺へ籠る

石 橋 芳 山

Jアラート出ても隠れる場所がない

岸 本 宏 章

むきになりミサイル撃つて来るお国

川 名 洋 子

僕の大伯父は、川上三太郎の弟子の長

谷川霜鳥（そう・う）という川柳人。

上京し、葛飾柴又の小学校の先生になる。赴任して間もなく、長谷川先生を校長にしようという運動が、PTAで持ち

上がったという。彼に人望があつたのではなく、彼が、授業を担当していると、

いずれ生徒が全員津軽弁になつてしまつと、親が危惧したからだという。

よかつたなあお国訛りの先生で

柿 花 和 夫

（地球は先祖から受け継いだものではない。子供たちから借りたものだ）は、「星の王子さま」の作者の言葉だったか。

いつの世も裸の王は居るのです

糀 谷 和 郎

ゴルビーが残したあの火消さないで

藤 井 文 代

ブーチンも習近平も笑わない

永 井 松 柏

この星の吐息でしようかゲリラ雨

上 田 紀 子

（之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を樂しむ者に如かず）

「塔」には、この孔子さまの言葉を実践

している人生の達人のなんと多いこと。

虫たちのオーケストラは無料です

中 村 伸 子

まだ僕は無敵の笑顔持つている

石 澤 はる子

とんぼトンボ今日は日曜日なんだよ

岩 本 笑 子

冬になつたら冬に従うつもりです

大 内 せつ子

ライバルはかつ井僕はカツカレー

内 藤 憲 彦

水煙抄鑑賞

—12月号から

川 本 真理子

無音のまま行く救急車秋の雨

江 尻 房子

秋の雨の日、おそらく深夜。心配しながらも静かに見守っている人がある。救急車が去った後、さらに深まったであろう静けさが心にしみる一句。

折り折りに花咲く国のありがたさ

青 木 隆 一

一年を通じて順番に咲いては散っていく花々。改めて日本の四季に感謝したいと思います。そして、いつまでも平和な国でありますように。

故郷へ青つきぬけて鳥渡る

山 本 百合

「青つきぬけて」に決然と渡っていく鳥達の力強さを感じます。同時に秋の清々しさと作者の望郷の思いも感じられるようです。

下山する足裏地球確と踏み

大 前 安 子

坂道も階段も怖いのは下り。全体重を預けられる健脚ぶりが感じとれると共に句自体にもみごとな安定感を感じました。

旧道を見つめたままの石地蔵

鈴 木 たけし

新道ができた今も、行き交う人々の安全を祈り続けているお地藏様は、昔を懐かしんでいるよう。時の流れを感じます。

老妻へメモになかったモンブラン

松 尾 信 彦

ケーキを、前にした奥様の表情と、それをやさしく見ている作者の姿が目につかぶようです。ほっこりといえました。

日本晴れ綺麗な〇が描けました

小 川 道 子

ブルーインパルスでしょうか。それとも大空に作者が手で描いたのでしょうか。心にも大きな〇が描けました。

秋空にふわり老軀を浮かばせる

岸 田 武

浮き世の何もかもを忘れさせるようなさわやかな秋の空。こうありたいものとする願う老いの心境です。

立ち話一人は欲しい聞き上手

武 田 悦 寛

情報を発信する側に立ちたい人が多いこの頃です。どんな状況でも、良い聞き手がいてくれることが鍵のようです。

さみしさと同じ濃度のココア飲む

滝 井 えみこ

お酒ではなくココアでということから、さみしさをしっかり受けとめ、噛みしめている様子が伝わってきます。

迷ったら歩く歩いてよく眠る

吉 道 あかね

誰にでもできる簡単な解決法のようにですが、そこからは日頃、何事にも前向きに取り組む作者の姿が見えてきます。

晴れの日もありますからと慰める

松 下 英 秋

「ああ、そうだね」と顔を上げ、ゆつくりとでも立ち直っていつてもらえれば嬉しいですね。

閉じたグー開いたパーを見るチョコキ

山 野 すみれ

おあいこだったということでしょうか。チョコキをキーパーソンに見立てたところが絶妙だなと思いました。



ほっこりあたたまる

厳しい寒さに体が縮んでいるときの炬燵や日向ぼこ等のホッコリした温かさは有り難く「あゝしあわせ…」とまで思えます。それは「寒さのおかげ」で寒暖差のない地域では味わえない感覚でしょう。厳しい季節にも楽しみは多々あります。食べ物で温まる「鍋もの」は前号で取り上げましたので、今回は飲食以外で温まっている句を拝見しました。

初雪のニュース聞こえて炬燵出す

伊塚美枝子

みかん置きようやく炬燵らしくなる

水野 黒兎

炬燵から離れられない葉室麟

上村 夢香

雨かいな雪やでと炬燵から

矢倉 五月

することがあるのに炬燵温かい

土屋起世子

外は雪ひと炬燵で液状化

斉尾くにこ

初冠雪とか初雪のニュースが届きますと、いよいよ冬の到来で炬燵の出番です。「畳部屋に炬燵」は日本の冬の代表的な風景で、ミカンなど頂きながら読書や作句、そしてまた風雪の音を聞きながらトロトロと液状化もいいものです。

しかし、生活様式が洋風になりつつある現代、畳の部屋や炬燵が減りつつあるのは少し寂しい気もします。

老いふたり明日にはふれず日向ぼこ

久保田千代

神さまのおまけ貰って日向ぼこ

丹下 凱夫

日向ぼこ昔むかしを食べ尽くす

牧野 芳光

日向ぼこ素敵な夢を編みながら

稲角 優子

柿すだれ勢揃いして日向ぼこ

高橋 敬子

老化との折り合いつけて日向ぼこ

谷川 憲

地球温暖化対策としてクリーンエネルギーの導入が奨励されていますが、その代表の一つが太陽光発電です。そのような時代の流れから考えますと、お日さまの光を浴びるだけの「日向ぼこ」は脱炭素社会における模範的な暖の取り方でしょう。そして、温まると同時に疲れも溶けて活力が湧いてきます。いわば太陽の光による充電でもあります。

膝に毛布 足元行火 背に懷炉

黒田 茂代

コンサート カイロ三枚貼って聴く

福西 茶子

ひとときの愛です使い捨てカイロ

藤井 智史

ネコちゃん暖房わたしは綿入れ

柏原 夕胡

寒風に犬もマフラーして散歩

山本 昌代

今日からは電気毛布で夢の中

藤原千恵子

昔々の懷炉は石を加熱していましたが、だんだん進化して今では使い捨ての「貼るカイロ」が主流です。無機質な物体を「ひとときの愛」と受け止めるのも川柳作家ならではの。

カイロは体の一部分しか温めてくれませんが、お風呂は全身を包み込んでくれます。どっぷり浸かって手足を撫でて自分を労わってやると失ったところも丸くなってきます。

風呂好きに体力の要る冬が来た

吉田 弘子

頂いた柚子を浮かべて至福の湯

加藤江里子

柚子風呂につかり心は里へ飛ぶ

富永 恭子

湯に浸かり手足を撫でてご苦労さん

住吉美和子

湯加減は初恋ほどの温度です

池田 純子

ぎざぎざな心温める仕舞い風呂

松本 文子

本社 十二月句会

◇十二月七日(水)午後一時
アウイーナ大坂

いましょう、と結ばれた楽しいお話でした。

(眞澄)

月間賞は木本朱夏さん(和歌山市)

(司会―真理子・武人)(協取―勝弘・志津子)

(受付―裕之・眞澄)(懸垂幕墨書―耕治)

(清記―憲彦・勝弘・国和)

席題「鏡」 佐々木 満作 選

冬らしくなってきた7日、本社句会は、102名(うち投句者22名)の参加で開催された。

今月のお話は新家完司理事長。題は「冬に立ち向かう」。好きな季節最下位の冬であるが、季節も、人生も冬を迎えている私達は、冬にも高齢という現実にも立ち向かう必要がある。そのためには冬や高齢のいいところも嫌なところも自分で書き上げて、味わってみよう。

横丁で路郎師は

十二月まがりくねったところで飲み

冬を愛して大木俊秀氏は

大根がおいしいだけで冬が好き

自らの高齢を自嘲して、谷口義さんは、

半分はこの世から身を引いている

或いは開き直って、田中章子さんは

高齢者いばつていたらいいのです

頑張らないが、あきらめないで立ち向か

出陣の朝の鏡の機嫌よし

水溜り今日の化粧を確かめる

本当の自分に出会う水鏡

一期一会不思議なさだめ万華鏡

鏡には罪が無いのに八つ当たり

病名を告げてくれるな内視鏡

紅を差すひととき夢を見る鏡

その昔恋を映した池の水

バブルだったミラーボールもひび割れて

ふる里のトトロの森に鏡石

妻よりも鏡に吐けばほつとする

つげの櫛ぼつんと母の姫鏡

失くした誠が揺れる水鏡

束の間を酔わせてくれた万華鏡

美人の日とまあまあの日がある鏡

正直な姿見に問う良い姿勢

古文書の謎が謎呼ぶ鏡文字

森田 旅人

伊達 郁夫

柴本ばつは

柴本ばつは

柿花 和夫

小野 雅美

平井美智子

栗原 道夫

木本 朱夏

折田 昭子

初代 正彦

片岡 加代

稲葉 良岩

木本 朱夏

島田 明美

富永 恭子

木嶋 盛隆

三面鏡自分も知らぬ貌があり

三面鏡閉じて女将の顔になる

なあ鏡あの娘の心映してよ

親の背中鏡に子等は巢立ち行く

嘘吐かぬ鏡にいつも愚痴を言う

ベッドの母手鏡そつと忍ばせる

敵か味方か鏡へタマの猫パンチ

老けたねと言われて閉じる三面鏡

手鏡に紅を確かめ席を立つ

耳よりな噂聴いてるコンパクト

佳

追憶の鏡の奥に積もる雪

大波小波合せ鏡になる二人

内視鏡覗いて安堵生き返る

心の闇ほんのり映る水鏡

愛憎の流転人間万華鏡

人

万華鏡くるくる僕の生き写し

地

成田屋の鏡獅子いい年を呼ぶ

天

お手本は母さんだった儉約家

軸

鏡面に笑顔でお早ようを交わす

加藤江里子

森松まつお

水野 黒兎

津守 柳伸

木嶋 盛隆

藤井 宏造

片岡 加代

吉村久仁雄

原田すみ子

柿花 和夫

栗原 道夫

内藤 憲彦

平賀 国和

石田 孝純

山野 寿之

藤田 武人

西出 楓楽

西出 楓楽

西澤行兵衛

兼題「謎」 森田 旅人選

謎欠けているのに夫知らぬ顔

誰がいつこんなところに置いた石

鉄壁のディフェンスなどは謎のまま

なんだなんだいつの間にやら八十路坂

艶めいて妻が綺麗になつてきた

買物に手ぶらで帰る謎の妻

いつまでも老いを知らない友がいる

不似合いのペアへ二度見と首かしげ

謎々へすぐ丸くなる団子虫

謎一つ秘めてスターであり続け

謎めいた笑顔にハート盗まれる

記念日は何故か予定が合いません

モノリザも妻も微笑み謎だらけ

さよならに笑顔の訳が解らない

爺ちゃんに謎謎あそび疲れます

謎すべて解ければこの世つまらない

三度目も偶然ですねと言うてはる

謎々がいつぱい公園の砂場

人の気配がない豪華な門構え

「二等賞」謎の寝言に励まされ

前向きに生きてる蟹の横歩き

「スマホ」パソコン」謎の世界よ私には

旅人選

川端 一步

片岡 加代

富永 恭子

堀本のりひろ

大内 朝子

今村 和男

大内 朝子

瀬島流れ星

栗原 道夫

加藤江里子

柿花 和夫

中岡千代美

山下じゅん子

中村 恵

江島谷勝弘

西出 楓楽

中岡千代美

栗原 道夫

アクム

青木ゆきみ

石田 孝純

奥澤洋次郎

モノリザの謎の微笑み母性愛
人前に出られぬわけがあるのです
あなたと生きてなぞなぞが終わらない

謎解きはしないと決めている二人
それからを誰も知らないかぐや姫
恨まずに生きたい謎のままで良い

不確かな答あたりがしめつばい
宇宙つてなに私つて何だろう
解けるまで楽しかったね恋の謎

酒飲めばアホになるのはなぜだろう
謎掛けて女は距離を置くつもり
長く生き色んな謎が解けました

昨日から貧乏神が見当たたらぬ
なぜだろうとことん泣けば笑えるさ
謎解けるなーんだそんなことかいな

住

同じ事言つても今日は怒られる
小遣いも持たず毎晩呑んで来る
花買った夫の気持ちがちよつと謎

母はなぜ父を許せてしまうのか
詮索はするまい過去は謎でいい
人

謎めいた過去はどうあれ今の君
地

勝つたのは謎だが負けたのは確か

西上 遊二

松浦 英夫

鈴木 かく

高杉 力

藤井 宏造

栃尾 奏子

柴本ばつは

居谷真理子

小野 雅美

新家 完司

柿花 和夫

平賀 国和

木嶋 盛隆

饗庭 風鈴

内藤 憲彦

近兼 敦子

川端 六点

原田すみ子

栃尾 奏子

片岡 加代

山崎 武彦

古今堂蕉子

天
しっかりと命の謎を抱きしめる
平井美智子

軸

三回忌夫に謎がなくなった

席題「動く」 富永 恭子選

隅の席もの言いたげに動く眉
ボスの目が動き付度走り出す

家の中杖を突いても動きたい
どうしても別嬪さんへ目が動く

スウィッチオン生産ライン始動する
停戦へ動きが見えぬウクライナ

妻の笑顔今日も空気が動き出す
ママファイト君がお腹を蹴りました

七回忌父の時計は止まらない
身に着けて欲しいと編み棒が動く

ウィルスも人の動きに比例する
バラバラに動く頭と口こころ

へそくりを挟んだ本がずれている
動いたらお金いるので動かない

水面下で動く五輪の黒い金
動かしたやろと掃除を叱られる

選手交代名監督の冴える勘
奥歯グラグラ今日はおしゃべりやめておく

居谷真理子

アクム

江島谷勝弘

森松まつお

山田 耕治

内藤 憲彦

よく動く口に弄ばれている

中村 恵

よく動く爺ちゃん皆に愛される

敏森 廣光

出社すれば席ない夢で目が覚める
看護師が生年月日二回聞く

奥澤洋次郎

まだ動けというのか老いた原発に

大久保真澄

人

いい風が吹くまでここを動くまい

初代 正彦

微笑んだ妻は全てを知っていた
調子乗り呑んだ勘定ひやり汗

山田 耕治

竜頭巻く父の形見はまだ動く

宇都満知子

地

包丁でさえとときとき取り落とす
クラクションひとつでえらいあられる

柝尾 奏子

森松まつお

家事育児しない男は捨てられる

西出 楓楽

天

世の動き三步遅れてついて行く

斎藤 隆浩

内視鏡ひやりとさせて異常なし
誤入力气付いたときは送信後

新家 完司

母の背にゼンマイ仕掛けたのは誰

森田 旅人

軸

まだ少し欲へ動いてゆく命

平井美智子

妻の矢にひやり汗かいている図星
寒いなあ愛想笑いの消えた顔

齋藤 隆浩

あの世でも動いてそんな妻の口

東 定生

重鎮は心得ている動くとき

川端 一步

居谷真理子

休ませるわけにはいかぬ心の臓

山野 寿之

シューベルト聴いてお腹の児が動く

清水 英旺

兼題「ひやり」

原発をヒヤリとさせる大地震

東 定生

再検のひやりに白のひと安堵

西出 楓楽

核ボタンスマホも同じ指が押す

長谷川崇明

松岡 篤選

プーチンがヒヤリとさせる核兵器

東 定生

ご近所で殺人未遂寒い路地

坂 裕之

サンバのリズム勝手に動き出す体

油谷 克己

階段の目まい手すりにしがみつ

大内 朝子

見つかってしまったのかあのお金

バレたのはどの嘘か背筋が凍る

藤井 宏造

ビンシヤンに程遠いけどまだ動く

緒方美津子

朝帰りスマホの秘密消し忘れ

萩原 狸月

失念が惚けという字をかすめゆく

暗闇で妻の声する朝帰り

内田志津子

VARよく見届けてくれました

片山かずお

奥水 弘

節電の便座がひやり外は雪

森松まつお

握つたらひやりとした妻の手は

近兼 敦子

女神様ボールを2ミリ内に寄せ

上田 和宏

コンビニへ車が客と5なるヒヤリ

山崎 武彦

ミサイルが花火のように日本海

フールかも風に運ばれホームラン

伊達 郁夫

足踏みミシンもボクもまだ動く

居谷真理子

ところと師匠の視線突き刺さる

人

濃厚接触連絡入る夜十時

揺れるたび原発群が気にかかる

奥澤洋次郎

指先をからかうように豆動く

川端 六点

異動時期上司が話あると言う

平賀 国和

妻の前ひやりひやりと恋話

明日の遠足タイマーセット忘れてた

西村 哲夫

中田 尚

敏森 廣光

今井万紗子

水野 黒兎

木嶋 盛隆

きとうこみつ

平賀 国和

吉村久仁雄

加藤江里子

加藤江里子

木嶋 盛隆

西村 哲夫

山崎 武彦

武彦 廣光

山崎 武彦

山崎 武彦

山崎 武彦

水野 黒兎

木嶋 盛隆

きとうこみつ

平賀 国和

吉村久仁雄

加藤江里子

加藤江里子

木嶋 盛隆

西村 哲夫

山崎 武彦

武彦 廣光

山崎 武彦

山崎 武彦

山崎 武彦

水野 黒兎

木嶋 盛隆

きとうこみつ

平賀 国和

吉村久仁雄

加藤江里子

加藤江里子

木嶋 盛隆

西村 哲夫

山崎 武彦

武彦 廣光

山崎 武彦

山崎 武彦

山崎 武彦

水野 黒兎

木嶋 盛隆

きとうこみつ

平賀 国和

吉村久仁雄

加藤江里子

加藤江里子

木嶋 盛隆

西村 哲夫

山崎 武彦

武彦 廣光

山崎 武彦

山崎 武彦

山崎 武彦

水野 黒兎

木嶋 盛隆

きとうこみつ

平賀 国和

吉村久仁雄

加藤江里子

加藤江里子

木嶋 盛隆

西村 哲夫

山崎 武彦

武彦 廣光

山崎 武彦

山崎 武彦

山崎 武彦

佳

ひやりして育てた子らが母介護

山野 寿之

何故かしら家の前には救急車

木嶋 盛隆

午前様三つ指ついた妻が待つ

長谷川 崇明

政治家を震撼させる裏帳簿

村田 博

スマホが無い私まるごと見られちゃう

森田 旅人

人

検査結果見ながら医者が首を振る

敏森 廣光

地

上書きをせぬうち画面急に消え

原田 すみ子

天

お風呂場が静かになった出て来ない

今井 万紗子

軸

逆走に爺さんやつと気が付いて

兼題「風物詩」

森松 まつお 選

風物詩にしたい春秋塔まつり

藤井 則彦

おじさんも買い出しレジに並んでる

立蔵 信子

鹿せんべい自販機新たな風物詩

安福 和夫

クリスマス三角帽子懐かしい

川端 一步

助け合う心の豊かなる募金

大内 朝子

顔見世の切符が届く娘の歳暮

伊達 郁夫

故郷の軒に連なる柿すだれ

長谷川 崇明

墨痕鮮か管首が描く今年の字

坂上 淳司

年末に寄って餅つく音が無い

西村 哲夫

風化する記憶の底でルミナリエ

高杉 力

年の瀬に今年の哀と墓洗う

中村 恵

木枯らし一番街が背中を丸め出す

大久保 眞澄

納涼床川床古都の夏涼し

吉村 久仁雄

寒いから爺は炬燵で籠ってる

江島 谷勝弘

仏教徒も無神論者もクリスマス

出口 セツ子

安っぽいサンタが街にあふれてる

居谷 真理子

売れ残りのケーキひとりのクリスマス

小野 雅美

うちはうちチキンと酒のクリスマス

片岡 加代

さあコタツ出した蜜柑も買って来た

栃尾 奏子

棒ダラも数の子ももう冷蔵庫

片岡 加代

どの靴も忙しそう十二月

小野 雅美

おばあちゃんの甘さになった吊し柿

柴本 ばつは

繋がれタスキせて正座で観る箱根

島田 明美

どてら着た亭主静かに餅を焼き

青木 隆一

お祝いは家族揃ってすみよきさん

坂 裕之

まねき揚がるもうそれだけで京は冬

柴本 ばつは

コンビニのおでんが招く昼の酒

木本 朱夏

貯金箱壊して孫が募金箱

伊達 郁夫

シャッター通り風は自由に吹き抜ける

原田 すみ子

焼き芋を買ったつもりで社会鍋

両澤 行兵衛

まあまあ妻と年越しそば啜る

山崎 武彦

風紋の移り変わりに四季を見る

木嶋 盛隆

日本はいいなあ四季という恵み

佐々木 満作

大地震忘れぬようにルミナリエ

澤井 敏治

お節屠蘇春をほろ酔い観る駅伝

吉村 久仁雄

我が町はだんじり祭りこれがなきや

坂 裕之

読みふける畳の下の新聞紙

饗庭 風鈴

佳

良く当たるジャンボ売り場に長い列

坂上 淳司

大臣の更迭いまや風物詩

藤井 宏造

大の男が今年も泣いた赤穂義士

木本 朱夏

大そうじ先ずは夫に活を入れ

加藤 江里子

年一度ベートーベンに会う師走

鈴木 いさお

成人の日毎年アホをやらかして

松岡 篤

地

通天閣千支の引き継ぎ縁起物

青木 ゆきみ

天

科学の進歩一つずつ消す風物詩

西出 楓葉

軸

十二月十四日赤穂の街が騒がしい

兼題「自由吟」

小島 蘭幸 選

身内の死時が解決なんてウソ

川本 信子

老化なんかピンクの服で追い返す

きとうこみつ

消去法わが票託す人がない

萩原 狸月

ヤンチャ弟子寝込む師匠へ大賜杯
戦いはスポーツだけにしたいもの
俺と出会った不運を妻の寝顔に詫げる
ハンカチを落してからの五十年
ドロップの缶に一杯ある希望
点滴の速度で夢を見ています
やりくりで惚ける暇無い物価高
川柳の神に供える句は未だ
作者には会えぬが名句には会える
シルバークラスピンクのドレス赤いバラ
神の愛だろう試練を糧にする
グーチョキパー意見はみんな持っている
永遠に僕を待つてる花時計
いざとなれば俺にまかせと言つてある
敵ながらゴールキーパーあつばれた
VAR明暗分けるミリ単位
立姿きれい幽霊かもしれぬ
村神様平和な世ではありません
かつこ悪いですか汗をかく仕事
絡みつくプラス思考という自縛
句帳開くこの幸せに手を合わす
好きな文字は風縛られずに生きる
声枯らしながらベンチを温める
円陣の中で微かな嫉妬心

谷口 東風
平賀 国和
島田 握夢
山崎 武彦
折田あきこ
鈴木 かこ
出口セツ子
居谷真理子
松岡 篤
今井万紗子
出口セツ子
藤田 雪菜
柿花 和夫
森松まつお
西上 遊二
油谷 克己
古今堂蕉子
奥澤洋次郎
大久保眞澄
松浦 英夫
山田 耕治
青木 隆一
居谷真理子
藤田 武人

人任せ出来ない母は座らない
時々ばてんヒットもある余生
トマホーク持たたいというならずもの
妻が描く夢に移住を決めました
マンネリを冬の桜に論される
失せ物を探す楽しみ増えてきた
とりあえず春まで耐えてみませんか
泣かれると何も言えなくなるのです
親離れ私の覚悟まだ足りず
レノン忌も銃声続く星に居る
佳
お酒さえあればどこでも花畑
未送信フォルダにあったありがとう
僕よりもゴボ天芯がありそうな
老母さんと呼ぶと老父さん返事する
もう一杯もう一杯と孫が注ぐ
人
ブラボーに包まれている生きている
地
戦争は終わるもうすぐクリスマス
天
指狐コロンと啼かせ忘れよう
軸
敢えて言う僕はやさしくありません
原田すみ子
木本 朱夏
江島谷勝弘
栃尾 奏子
稲葉 良岩
今村 和男
平井美智子
川端 六点
近兼 敦子
稲葉 良岩
新家 完司
高杉 力
青木 隆一
吉村久仁雄
内藤 憲彦
小山 紀乃
鈴木 かこ
木本 朱夏

川柳たかね600号記念誌上大会

課題と選者 共選（各題2句）

「タイミンク」

高瀬霜石・真島美智子 選

「欠片」

藤田武人・鈴木千代見 選

「ネット」

中前棋人・佐野由利子 選

投句用紙 規定の投句用紙（コピー可）

参加費 1000円（切手不可）

締切 2月28日（火）消印有効

賞 各題三才（天、地、人）

発表誌 川柳たかね 5月 600号

投句先 〒420・0803

静岡県静岡市葵区千代田

7-3-15-405

石川 柳寿 宛

問い合わせ

電話 090-4231-0097

松田 夕介

そとめ

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

そろそろ仕舞い支度をしようかね
そろそろと忍び足です午前様
待っていたそろそろ俺の番が来た
そろそろと思うばかりの老い仕度
コロナとのうれしい別れそろそろか
そろそろね年寄りらしくしてみよう
いよいよ冬白い絵の具が余り出す
雲間からそろりそろろろ十三夜
これきりにしましうという年賀状
浄土へはそろそろ歩くことにする
花嫁の歩く姿は純和風
半袖をそろそろしましう季が移る
おい息子そろそろいいべ嫁便り
逆走の前に更新やめにする

澄子 龍馬 洋子 義明 孝子 初枝 美鈴 吹喜 柳子 重虎 真由美 隆樹 風来坊

髪のある写真そろそろ撮っておく
同窓会病氣自慢が始まるぞ
十八時ぐい飲み選ぶ目が笑う
プーチンが核のボタンへ手を延ばす
長靴の泥を落して秋仕舞
結局は終の棲家も仮の宿
産直の団子作りに手を挙げる
スピードを少しゆるめて風を待つ
手植えた子らの田んぼのいい実り
赤い糸何故か時々切れかかる
白萩のように五七五を散らす
聞き分けのいいばあちゃんになる老後

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

逆境を抜け出た物腰のソフト
ウクライナソフトの風はいつになる
頑固な父ソフトな母に負けている
イケメンのソフトな語り口注意
叱らずに優しく諭すお爺ちゃん
料簡の狭さつくづく知らされる
37度切るまで計る検温器
台湾に友達がいて気もめる
必勝の九回裏でみたよもや
日本郵便本業を忘れましたか

航太郎 一步 楓楽 蕉子 裕之 ダン吉 憲彦 穂夫 いさお 眞澄

病弱な亡父亡母越えてまだ少し
新聞に今日もよもやが載っている
白河の関を真紅の旗越える
禁酒した夫よもやの甘党化
歩けたら四国遍路をしてみたい
恋色にも一度染まりたい心
沈黙の時計被爆の時刻指し
終末時計残り百秒青い空
玉音に時が止まった終戦日
砂時計帰らぬ今を落ちていく
終末時計確かに時を刻みでる
定年後妻の時計に歩を合わす
昭和史の戦禍忘れぬ古時計
母してた頃に時計を戻したい

犯人逮捕刑事かならず見る時計
ハルカスの影がきたから昼休み
妻入院よもやよもやとうるたえる
再検査させて欲しいと電話する
肉球のモミモミうたた寝の腰
プーチンのまだ飽き足りぬ血染戦
頑張れとネジを巻いてる古時計
再訪の里のせせらぎ柔らかい
プーチンもよもや原爆手にすまい
宮田輝ソフトな語りなつかしい

扶美代 保州 義泰 和美 三成 朝子 進彦 はこべ 隆雄 常男 玄也 珠子 香代 恭子 敏治 万彩 恵子 カズ子 ふさゑ 世紀子 喜代志 侑子 勝久 康信

髪と爪染めて老春闊歩する

ひろ子

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにご報

だれも居ぬ振り時計が家守る

紀美恵

振るい立つ心はあれど動かぬ身

岳人

ネジ巻けば昭和の時計振り子振る

久芽代

ライバルも振られたらしいホツとする

紀の治

振り上げた手を下すのに勇気入る

貴恵

突然の告白野生棒に振る

重利

十五人振られた後で福つかむ

節子

秋桜とメトロノームの子守唄

紀子

さめざめ泣き父母と別れて嫁に出た

悦子

正直な鏡さめざめ見る自分

龍枝

さめざめと泣き妻のいまわの脈をとる

重忠

スクリーン主役の演技さめざめと

清

さめざめとつけは必ず倍返し

美ッ千

横着と思われぬよう遅刻せぬ

玲坊

横着な性格先祖から継がれ

富隆

主に似て夫まで横着吠えません

美知江

おつくうになる階段の上り下り

芳光

横着の尻を叩いて歩かせる

照彦

虹を見たカモメに会った百点だ

完司

弱点は私が好きになったこと

三津子

欠点を探せば十指では足りぬ

芳江

妥協点水と油をかきまぜる

憎しみの出発点はどこだろう

人間を点取り虫が笑つとる

汚水タンクにされたビール樽

和歌山三幸川柳会

西川

千鶴報

病院の椅子にニュースの解説者

朗報探し各地祭の花火観る

ゆつくりと整理するほど財は無い

手間かかるパンの種類が多すぎる

急がねば私が消える砂時計

ゆつくりと許そうやがて日は昇る

ニュースから学ぶ世界の地理歴史

リストラの話も聞いたパンの耳

アンパンのへそにもあった自尊心

物差しで計れぬ幸せのサイズ

シンブルに生きて元氣な無位無冠

石垣の小石一つにある役目

畳の目ほどに日足が伸びてくる

パンのため戦争起こることもある

生活にゆとりうまれたパン焼き器

術後の今ハイハイ歩き歩の一步

君とならゆつくり時間過こせそう

餡パンと酒を供える父の墓

そこまでは良からうゆつくり運任せ

宣子

裕子

石花菜

くにこ

起世子

まき

宏枝

一雄

智三

倅子

純子

和子

昭枝

碧

ひろ子

敏照

保州

妙子

さやか

勝亮

彦弘

義泰

准一

高田博泉選

輪を抜けてやつと人間とり戻す

ちよつといいトスが来たのでしめくる

いい星に生れた男の運の良さ

杖をつき3本足の仲間増え

傷ついた心夜中に丸洗い

医療費を節約してる万歩計

いつまでも受け身じゃないと妻の乱

場所柄を心得ている紅の色

解決は意外と時がしてくれる

年金の元をとるまで生きてやる

佳句地十選

(12月号から)

岸本孝子選

人を恋う形でゆれる秋桜

愚痴などは決して言わぬ母の汗

手の届く高さに夢を置いておく

百才の祝いに開ける玉手箱

先達も集うあの世の塔まつり

逝く前に覗いてみたい黄泉の国

生真面目に生きて泣いたり笑ったり

交差点どうとう走れなくなった

逆転の口火は眼鏡拭いてから

若いねより変わらないねがありがたい

常男

柳子

准一

はるみ

由紀子

洋次郎

千鶴子

扶美代

高志

郁夫

節子

明子

桂子

敏郎

いさお

盛夫

和代

利恵子

良岩

眞澄

井戸端にニュースキャスター勢揃い
スローライフ描くボツンと一軒家
ゆつくりと毎日散歩腰伸ばす
走馬灯過去のニュースも織り交ぜて
娘の家に来てもゆつくりしない母
食パンと牛乳あれば今日も晴れ
曲げられたマスコミニュース裏を読む
恙なく暮らせることがニュースです
熊が出たトップニュースで平和です
女房の今日のニュースを聞く夕餉
トーストの日替わりジャムで曜日知る
たかがパンされどパンだが奥深し
一日の平和ゆつくり陽が包む
里のニュース送つてもらう地方版
議員さんいればニュースに事欠かぬ
誤字脱字見落とす事が増してきた

城北川柳会(大阪)

近藤

あき子 明子 眞智子 悦男 和美 よしこ 明宏 康則 俊介 文彦 昂市 明美 澄夫 侃大 泰博 千鶴 正報 博篤 賢子 ゆきみ 隆一 章 万紗子

倅せな晩年友に囲まれて
プライドという厄介をまだ背負い
世渡りへ本音を包むオブラート
世が移りジュンダーフリー今多様
数学に疎くもやりくり上手い妻
鶴亀算分かった顔で腕を組む
数学は九九の辺りで頭打ち
顔上げるながあるうと日は昇る
河川敷まで燃える茜に会いにゆく
変人と言われてますが無害です
ぼんやりと木になってみる小半時
これからはでんと構えて生きてやる
頼るもの昔は力今お金
老友と会えば昭和が今になり
遅咲きで今が旬です跳ねてます
ドローンと消えたい時もある浮世
数字ほど女心が読めぬ彼
成り行きにまかせてあとは風になる
風向きでやさしい顔も出来るのに
朴念仁こっそりと買うジャンボ籤
ドローンで錦秋を舞う鳥になる
節々に残した人生の布石
湯船に浸かご苦労さんと足を揉む
植民地になりはしないかわが日本
世界からコロナと値上げもう消えて

一步 俊雄 宏造 福貴子 克己 捷二 廣子 朝子 満知子 千恵子 繁子 峰子 廣光 北舟 郁夫 榮子 杵香 野鶴 千賀 肇 星雨 満作 かずお 恭子 五月

ぶらぶらと散歩のはずが縄のれん
ため生きを変えて喜び岡田さん
まだ残る遺る氣に興味の彩を足す
竹原川柳会(広島) 古田比呂子報
二度聞きをしようスマホなり
スマホ無し別に不自由ない二人
分身のスマホやつぱり離せない
一切の笑顔スマホの中にある
スマホ手に身軽に世界闊歩する
スマホ忘れてとても愉快な日になった
白粥を口に運んで今日も無事
白足袋のキリリと締まる僧の足
心配御無用青い大空白い雲
妥協するたびに白さが消えていく
終章の余白に何か忘れもの
染み込んだ潮の香父の夏帽子
秋の絵に染まる帽子とする散歩
佐々岡の帽子やさしい人だった
仏壇の戦鬨帽は語らない
二番線取り残された夏帽子
明日はあす食べたものは食べて寝る
認知症の記事やたらと目について
いわし雲ちちはは恋し夏終る
杖歩き綺麗と言われちよつと照れ

黒兔 義明 信子 笑子 弘子 夢香 千代美 和子 蘭幸 節生 慶子 比呂子 昭紀 敬子 宣之 節夫 白狐 輝恵 栄香 歩美 初音 貞子 幸子

秋の蝶小さな幸を連れて来る

厚子

干し柿もアケビも令和の子は知らぬ

史子

はりねずみみたいなたわしでくつあらう

小一 沙弥

わかやま吟社 小谷 小雪報

這い上がる術を持つてる雨蛙

精子

もがいてた頃が底辺だったのか

佳子

底辺より高さはかりが競われる

よしこ

ヒキ蛙夏の暑さに拍車かけ

タカ子

大都会の片隅に住むソクラテス

倅子

どん底を知っているわたしの強み

夕胡

オタマジャクシ泳ぐ姿を絵手紙に

節子

懐かしいロバのバン屋はどこ行った

明

ワゴン押す買いの一つ増えている

敦已

ワゴン車にベットがちゃんと乗っている

小

やつと来たワゴン販売遅い昼

雪

節約へワゴンセールを利用する

紀子

底辺はいいねみんなが温かい

大輪

浮き浮きと暮らしています定年後

篤

困ったら浮輪出し合う夫婦愛

峰子

半日もいて浮きビクリともしない

昌風

大あくびして浮かんでる朝の月

昌紀

屍が浮いて戦の愚を悟る

克己

楽をしてやせるスポーツないですか

常男

笑っていると楽しそうだと誘う風

よしみ

お蔭様おいしく食べて菌が二〇

加お里

楽園と思えば楽しケアハウス

ひとり呑みできるお店の指定席

江

楽しい今日送る工夫をする朝餉

蕉子

人生はゲーム気楽に行きましよう

力

人間が楽を求めて温暖化

国和

喜怒哀楽越えて人間出来上る

楓

神無月離婚するなら今の内

いさお

神風を信じ我慢をした昭和

柳伸

幸せな日が過ぎ神に手を合せ

ひさ乃

神様は見てると信じ生きてきた

三智

拾う神あって私の今があり

風羅

神様へ妻との出会い感謝する

柳右子

譲られた座席ほんのり暖かい

車椅子に道譲ってるランドセル

譲りあつて支えあつての五十年

一步

通江

大子

蟻日路

敏治

双葉

直子

俊雄

志華子

千鶴子

ルイ子

シマ子

まゆみ

博

ばっは

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

ブーチンがボツンと一人空見てる

宏造

迷子札つけてボツンと友は杖

敏夫

コスモスの迷路で泣いている私

ひとみ

片隅にボツンと座る子気にかかる

喜久子

どちらかが若いつもり譲り合い

お下がりがいい羨ましがる一人っ子

譲れないお茶は急須で淹れるもの

譲り合う気はないだからじゃんけん

譲られて意地で座らぬまだ傘寿

下手の横好きなれど楽しみ五七五

二人で一人老いの暮らしの合言葉

ウクライナ平和賞受けおめでどう

マスク無いこわい小父さんバスの中

急ぐことないのに早く目が覚める

爺ちゃんの昔話がこそばゆい

出来心微塵切りして飲み込んだ

川柳さんだ(兵庫)

酒井 健二報

ブーチンがボツンと一人空見てる

迷子札つけてボツンと友は杖

コスモスの迷路で泣いている私

片隅にボツンと座る子気にかかる

太平洋老人ひとり大航海

こんな溝飛べたはずだが恐ろしい

お試しのサブリで治る筈がない

紀惠

宗鉄

風羅

三智

我が人生語ればほんの五分間

簡単な着付けが天女つくり上げ

道なりはいいな考えずに行ける

遺産なし一行で済む遺言書

濃い霧につつまれ夢の竹田城

いやな日は夜の水利り濃くなる

濃口に馴れて今ではべらんめー

情の濃い浪速が俺は好きやねん

OB会話は弾むが名が出ない

グループライン開けば友が元氣よく

目配せで直ぐに集まる飲み仲間

わくわくと逢える予感に血が騒ぐ

散りそうな同期の枯葉蝨しい

騒ぐのは止そうあなたはもう大人

ときどきはお疲れですと不整脈

新聞で今日の曜日を確かめる

やんちゃでも親を育てた自慢の子

そろそろと鍋が恋しい秋の風

砂時計逆さにしたい老いの坂

ありがとう言葉一つの思いやり

柿落葉朝日を浴びて掃き寄せる

紅葉狩り赤いクレヨン使いきり

月一度ナースの顔を見る用事

前歩く妻の姿に老いを見る

信者二世苦惱を知って胸痛む

廣光

哲夫

和郎

美津子

美和子

勝正

野薫

義徳

雄太郎

登志子

雅尚

武彦

哲男

迪

勝弘

正和

昭美

千賀子

あかね

玲子

ヨシエ

真桜子

耕治

好文

三ツ代

兜太には負けぬ平和を詠む心

爺ちゃんの句にはロマンがないと孫

よく笑う仲間といるとよく笑う

はびきの市民川柳会(天阪)藤原

一呼吸おけばと月が笑ってる

人生の第一声はオギャーから

深呼吸何度もしてる舞台袖

思いきり大きく吐いて胸ひろげ

独り居の呼吸ひとつが気にかかる

一呼吸おいて叱るのやめにする

一呼吸おいて私はマリイ様

溜息をひとつわたしの返事です

深呼吸空があんまり青いから

もうしばらく呼吸をさせてくたしやんせ

過呼吸は君に出会ったその日から

退院の朝青空へ深呼吸

ホームランキングの夢よ佐藤輝

よく働いたあとは輝く汗流す

どの顔も輝いている秋祭り

汗まみれ顔が輝く一等賞

安材料妻のレシビで輝いて

子の未来輝く明日を願います

輝いた記録のかげにある苦節

災害に汗が輝くボランティア

おさむ

徹

利子

宏造

唐郷

大子

千鶴子

一文

専平

みつこ

扶美代

まつお

勝弘

久仁雄

いさお

冬のト

こみつ

瑠美子

フジ

洋一

かつ美

泰子

さくら

ドラフトに甲子園での君がいる

篝火が爆ぜたけなわの新能

いつの日か女性輝く国とやら

育てたい輝く笑顔の子ども達

人はみな輝く星を持っている

ありました輝く僕の一ページ

川柳茶ばしら(愛知)

金子美千代報

お正月待った頃の寒い家

年金は減るだけのもの増えません

ブーチンの蜜行止める手立て待つ

値上がりはしても減らせぬ酒の量

欠片でも残ればよしとする法話

忘れもの取りに行きたや遠い日の

もうあかんでもトイレには長い列

賞味期限過ぎたからって死にはせん

「おい酒」アナログ夫婦仲が良い

試着したダイヤの指輪外れない

大地から浮いた暮しの12階

大酒呑みそのくせおはぎ目がないの

微力でも妻の戦力外せない

今日よりもきつと素敵な明日が来る

えも言わずひけらかす核目に余る

ちづる

楓楽

勝久

ひとみ

一步

ダン吉

まみ子

かつ子

三樹夫

遡行

美千代

福子報

福子

淳司

孝

直樹

ふみ

隆彦

光弘

克己

由夏

孝代

土砂まみれ迷彩服にある誇り
壮大な砂像がロマン掻き立てる
温暖化どんどん破壊オゾン層

あの世との境い目のない歳となり
一戸建て親子三代ローン付き
突然の病に慌て守り札

ガン告知充分生きたと受け入れる
コロナ禍でやっと賑わう秋祭り
ひやおろし秘めたる恋が疼く秋

キンモクセイ香りで知らず木の在り所
つゆ草にそつと寄り添う虫の声
柿や栗手元に届き秋を知る

軒下に五つ顔出す燕の巣
永遠に地上の星の煌いて
I Tと遠く離れて集う老い

鬼嫁が背を向け湿布そこ貼って
疳の虫母に背負われ虫封じ
勝ち負けでガリ勉をした若い頃

手鏡のうつる姿に目を逸らし
背には子が胸では赤児ママスマホ
機械化で牛馬懐かしあの昭和

泣きやまぬ背に負う息子ヒゲ親父
淋しいと母の背が言う帰り際

ブラザ川柳(大阪) 藤塚

克三報

和子

一彌

力まずにボンと生まれた桃太郎
仁王さま八百年も力んでる

厚江

ともこ

克三

ドや顔の園児が見せる掘った秋
簡単に頑固が直る訳がない

清乃

敬老日過ぎればただのオジイさん
食器棚便りよこさぬ子の茶碗

健二

靖博

園子

川柳が僕の頭を掘り返す
過疎の町食品宅送命綱

弘光

田も俺も天地返しで生き返る

柳明

純風

五月

川柳あまがさき(兵庫) 大浦

正子

初音報

雪菜

隆明

政夫

いい朝だ両手をひろげ深呼吸
朝起きは三日坊主で夢の中

淳司

残念ねモンローさんはもういない
登校の子等の声から元氣受け

菊江

ヒロ

悦夫

朝令も自宅でお茶飲みオンライン
朝焼けの空に向かって散歩する

宗鉄

朝日からたつぷりもらうエネルギー
朝までは私はヒーロー夢の中

修平

規之

景子

朝令も自宅でお茶飲みオンライン
朝焼けの空に向かって散歩する

紀華

朝日からたつぷりもらうエネルギー
朝までは私はヒーロー夢の中

英坊

くにお

和代

朝令も自宅でお茶飲みオンライン
朝焼けの空に向かって散歩する

恵子

朝日からたつぷりもらうエネルギー
朝までは私はヒーロー夢の中

久仁雄

純彦

「そろそろや」虎の願いは「アレ」一つ
笑顔いっぱい花いっぱい路地に住む

楓華

幸彦

悔しさが負けず嫌いを育てます
勝ち組や平均寿命もう越えた

ゆきみ

こみつ

観ていてもこちらが力むPK戦
木枯しが仕舞う箒を呼び戻す

正和

龍

生きているのに力があるねどっこいしょ

隆一

新録

空を見てすすめる熟柿がきょうさめい
二刀流やること全てきょうさめい

哲男

初音

外面がきょうさめい程よく笑う
きょうさめい急所を知っていた敵だ

宏造

和子

汗知らぬ役所新米値を決める

紫陽

宗鉄

年寄りにスマホは猫に小判かな

一瑤

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

凱柳報

空を見てすすめる熟柿がきょうさめい
二刀流やること全てきょうさめい

月満

外面がきょうさめい程よく笑う
きょうさめい急所を知っていた敵だ

紫陽

年寄りにスマホは猫に小判かな

一瑤

汗知らぬ役所新米値を決める

紫陽

年寄りにスマホは猫に小判かな

一瑤

汗知らぬ役所新米値を決める

紫陽

汗知らぬ役所新米値を決める

紫陽

十聞いて三つ遣せと母の知恵

あわよくば百まで生きるストレッチ

真実は一つだ天がみてござる

男には生涯絶えぬ向こう傷

手助けは無理でもできる思い遣り

一日の喜怒哀楽を溶かす酒

所持金がやけに減ってる気のせい

気のせいかもうそろそろと誘う声

気のせいかしたばっかりに底に落ち

口達者脳がさびたわ気のせい

気のせいかやたら母さん夢に来る

気のせいか地球の自転遅くなる

孝行もできずに亡き父詠み続く

犬でさえ育ての恩は忘れない

どんなにしても孝行息子にはなれん

総理様民に孝行してくれよ

孝行に哀しい嘘もまぜておく

孝行は背なかを流すだけです

六十三円そんな孝行だってある

母ちゃんの荷車押した遠い秋

代役を好演技して認められ

代役はでんぐり返し出来ません

代役の妻が我が家を仕切ってる

代役なし女は強し妻と母

貴婦人の代役一度してみたい

白 兎

稲佐嶽

重 忠

拓 治

宏 章

無 限

みつ子

貴 恵

金 祥

千 代

八千代

奇林子

由紀女

絃 一

高 明

勲 章

蛙 明

蟹 郎

茶 人

欣 之

厚 子

哲 子

鐘 馥

振 作

真理子

しがらみもあつて代役生きて寡婦

愛妻の代役なんていやしない

地球は一つ代役なんてありません

きょうめいさいことだ俺の句天ぬかれ

富 柳 会(大阪)

山 野

寿之報

あこがれのD51勇姿迫りくる

制裁の効果虚しく打つ手なし

箱はそれぞれ人生というギフト

御無沙汰へ動画を送る愛と哀

笑ってる文字が素敵な花模様

胎動の命勤しむ母の愛

尽くしても尽くしきれないハイサヨウナラ

酔い痴れて気分上上君の膝

手作りの食事まずいと言う言葉

福耳も聞こえなければ役立たず

パノラマに酔う絶景のワンカップ

赤ワインひと口動脈が熱い

何もかも許したあとの酒旨い

邪魔せぬ様小さな旗を振りつづけ

夢にみた孫とのデート腰立たず

胃袋が心配してる自給率

リタイア後梅田難波も遠い街

お好み焼き差し入れ届く退院日

思ひ出が家族を繋ぐ小宇宙

洋 子

回春子

みゆき

凱 柳

高 驚

正 義

か こ

和 子

文 重

壽 峰

一 文

恵

きみ子

由 夏

欣 之

武 人

常 男

隆 充

和 雪

隆 充

きよみ

章 子

常 男

小春日和独りを干しているマスク

民の為言うて虚しい政

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

真つすぐな言葉がすぐにブーメラン

断捨離が食べる物しか買わせない

ちよつとでも人とは違う事したい

歳を重ね丸くなる人失る人

犬と住み犬と抱き合い眠ってる

善行のうわさだけでも残したい

キリギリス我を貫くも容易ない

稲刈りを半分残し雨になる

バスツアーマスク姿の紅葉狩り

酔美蓉昨夜はどこで飲んだのか

値上げにも食欲だけは負けてない

飯の世にあと暫くもバスポート

ちよつと待て人の噂も七十五日

ちよつといい話テレビに拍手する

冬支度やつぱり火燵丸くなる

忘れたと治め白い目で見られ

みかん狩り今年はやつと行けそうだ

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見

舟小屋の残る入江に風ばかり

出船入船港は人をよく泣かす

柳歩報

知恵子

主

寿 之

宏之報

令位子

俊 久

雨 奇

多美子

日枝子

ひろし

美 穂

瑞 枝

菜 々

美 緒

宣 子

千 代

宏 之

紀の治

治 代

恵 子

久 直

柳歩報

知恵子

あきら

ジャムセツション絡めて次の港まで

建売りの港巢立つて軽くなる

降るように愛の言葉が一冊に

雨降って地固まるって嘘だろう

降る雨も知らないという死生観

降りそそぐ月光ついに翔べそうだ

重い腰掛け声かけて軽くなる

約束の重みを小指だけが知る

秒針は迷わぬいつも一直線

迷うのはやめた合成皮財布

見合い話来れば一瞬迷います

トビウオよ迷わず鳥にならなさい

読めるけど理解に迷うカタカナ語

迷走の少年翼描いてやる

生き抜けば迷ってもいい魔女の森

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦報

松茸の値上げ一番困ります

安酒場客足気がねで値上げせず

娘から手ほどき受ける台所

目標のライバル越えたのは粘り

窓際で逆転チャンス待つ蜻蛉

強くても絶対勝てる訳じゃない

停年後夕食作り妻を待つ

逆転の一步に重い意地がある

芳山

とも子

柳歩

弘充

徳利

玲峰

邦代

桂子

雪代

青帆

吹喜

モナカ

豊仙

美智子

小鹿

男は愛嬌女は度胸それもよし

援助した他国に抜かれゆく日本

逆転の野心捨てると旨い飯

逆転で勝つよるこびはひとしおだ

働けどなんで暮らしに逆比例

逆転はしたが空しい口喧嘩

女にも叶わぬ仕草ニューハーフ

風呂場まで逆転勝ちを言いに来る

逆転のチャンスにチョンボしてしまう

子に孫に逆転されたアナログ派

なだめてる方がだんだんエキサイト

我がままも見方かえればマイペース

ハロウィンもパレードも嫌興味なし

古い二人趣味を活かしてマイペース

寡婦になり寂しいけれどマイペース

褒めたって腐されたって動じない

ストレスを溜めないためにマイペース

ひょうひょうと風にまかせている余生

兎には勝てると亀のマイペース

ばあちゃんかずつと続けた粗衣粗食

知らぬ間に山川越えて子は育つ

しまつたと安請け合いを子に愚痴る

叱るよりやさしく抱いて子を論す

幸せだ優しい妻と子沢山

シロですよやっています殺しなど

美津子

憲

和夫

廣子

清

佳子

禮子

万紗子

玄也

里子

五月

敬子

淑子

満作

八千代

世紀子

(江)勝弘

朝子

敏治

満知子

(田)勝弘

素頓馬

ひろ子

さくら

いさお

心配事山ほどあるが肥えている

川柳塔なら

大久保眞澄報

楓楽

朝子

恭昌

勝弘

隆一

行久

貫一

舞夢

大子

昭

すみえ

さとし

げんえい

一歩

俊雄

満作

寿之

則彦

富子

保州

萌子

ふりこ

かずお

趣味なので今はゆつくり二兎を追う
崇明

すみ子

ゆつくりと爪研ぎながら策を練る
すみれ

江里子

アナログの時計で日々を紡いでる
良岩

志津子

生と死のテーマに傾斜したムンク
ゆきみ

和郎

ブーチンに民の叫びが届かない
武人

百合子

泣き叫ぶ吾子よ許せとむせぶ父
ひろ子

敬介

SOS叫ぶ地球の崖つぶち
成子

敬介

死の間際泣くか笑うか叫ぼうか
敬介

志津子

枯渇する資源を守る省エネで
里子

満作

叩かれてもエネルギッシュな岸田さん
福貴子

廣子

爺ちゃんの活動源は酒と孫
真桜子

久仁雄

ポケットの中の追憶しやべり出す
勝弘

いさお

風評はどうあれ一途な君が好き
篤

フクシマを忘れてならぬ日本人
篤

何もかも値上げ値上げの向かい風
宏造

寿之

錦秋の風が運んでくるロマン
憲彦

美籠

百薬の長だと孫に言い聞かす
とみ子

敏明

帰郷して風のざれ言聞いている
満知子

萌

聞き上手相植だけで語らない
智子

俊雄

父ちゃんも再生可能エネルギー
万紗子

たかこ

千年杉その風格に息を呑む
直子

雅美

今風の若者にみる思いやり
一步

ゆみ子

秋風の誘いに乗った旅鞆
さくら

ふりこ

心開き語ると消えるわだかまり
芳香

裕之

金星を語る力士の息づかい
ばっは

民子

強弱を知ってる風が押す背中
まつお

陽一

現実を語っています赤木メモ
龍

沖へ沖へ何があるのか行ってみる
金送れだけで納得した親父

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

アホやなあ言つて手を貸すお爺さん
哲男

16億馬耳東風で肅肅と
千賀子

墓参り揚羽が舞ってくれました
いわゑ

母さんと同じ味するちらし寿し
敦子

新人が早くも散った五月病
良種

錆ついた鍵と鍵穴でも夫婦
一徳

会話にも乗って一つの和が出来る
千代

大切に使う私のこの時間
ひとみ

肩車父より高い未来見よ
はな

満天の星に聴かせるハーモニカ
武彦

人生のヒント短いみつをの詩
そのみ

過疎の町枯れ葉一枚バスに乗り
野鶴

兄の吹く父の残したハーモニカ
哲子

縄電車わたしも乗せてくれますか
恭子

子育ての鍵はやっぱりハグです
みよし

ハーモニカ長屋の頃がなつかしい
勝弘

歎異抄何度読んでも身につかず
盛夫

三年振り祭囃子が風に乗り
(偏)弘子

久し振り祭り太鼓の遠い音
正和

鍵落し合鍵失くし入れない
美香

空気だけ運んでいます赤字線
宗鉄

快速逃がす喝采やまぬ駅ピアノ
真桜子

光久

単語並べ短い文で英会話

電話にて御礼言いつつ目は野球

紙くずは投げて捨ててる百二歳

万歩計毎朝吾れを叱咤して

何歳まで生きるつもりか柿植える

ハーモニカ吹くと少年とり戻す

秋天へ透けるハーモニカの音色

妻運転横に乗ったら眠気飛ぶ

乗ったげる好きなあなたの軽い嘘

ハーモニカ吹けば月さん笑ってる

内緒ないしょ内緒話が風に乗る

故郷は鍵のいらぬ暮らしぶり

川柳de遊ぼう会(大阪) 小野 雅美報

エレベータ浪速の豹が乗ってくる

表だけ見せているのは月と妻

飲み干した水筒語る幼児の死

言おうかなあそこ開いてる悩みます

じいちゃんが口を開けばメシまだか

老いの坂祭り囃子に背を押され

新築の屋根に輝く月あかり

せつない日月を眺めてスタワット

感染で大手をふって引きこもる

「見てるわよ」月がささやく隠し事

遺言に書こうか悩む月の土地

和宏

邦男

利子

豊子

洋次郎

野薫

修

新録

廣光

喜明

俊雄

ふみ

雅美報

よしみ

晋一

敏郎

はるみ

喜美子

てるひこ

爽也

康雄

幸徳

えみこ

次郎

あの時の誓いの言葉空回り

ちびつこがジャンプしてます自動ドア

ピンク色の方位磁石が福を差す

かぐやには見せたらあかん月の裏

はよ帰り追い立てながら笑う月

秋ナスを食べる淋しい過去がある

風の子を孕んだ夜の赤い月

切り札の鉛ポケットで溶けていた

倉吉川柳会(鳥取)

大羽

雄大報

いい場面電車の音がうるさかった

パチンコにどつぷり嵌り妻家出

焼酎にどつぷり浸かり平和ボケ

政治家が統一教会どつぷりと

重ね重ね申し訳ない土下座する

一筋の明かりが欲しいウクライナ

どつぷりと夫の優しい愛もらう

受験生かなし深夜の窓明かり

どつぷりと人情に浸り老い生きる

月明かり頼りに浸る河原風呂

明かりが見えぬコロナ内安統一教

妻不貞寝重々承知俺のせい

話し声家の前からうるさいな

物価高明かり見つける老いの知恵

野良仕事月の明かりに助けられ

(圓)恵子

満知子

孝純

和男

(阪)恵子

のり子

美智子

雅美

道春

由紀子

完司

醉芙蓉

照彦

龍枝

紀美恵

節子

鬼一

重忠

風露

隆昌

さちこ

智恵子

日出子

たびたびのお詫び会見茶番劇

何時までも惰眠するかと窓明かり

スポットライト浴びて主役を自覚する

うるさくてゴメンよ命守るため

初デート二重三重赤い丸

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

猫敏感夫婦喧嘩は妻に付き

かなり前の事や忘れたふりしとく

隠しごと妻の鼻には勝目なし

老いてなお枯れ木に花が咲くたとえ

あの言葉かなりひびいた私には

気配りがまわりの空気なごませる

政ごと端切れ悪さの臘月

猫じゃなく虎を見せてね来季こそ

子守唄歌う木枯し山眠る

残された命わたしの色を塗る

へだてなく恋配りますキュービット(永)玲子

虚も実も越えたわたしのテリトリリーヨシエ

ワクチンを棄てるのならば配れぬか

腰に手を高いメロンを見て思案

責任をやっと配り終えました

作るよりシフト注文嗚呼おせち

敏感に時流を読んで先んずる

汽笛一声百五十年ひた走る

佑子

凱柳

大鯰

麦青

雄大

勝久

真理子

武彦

健二

晴子

多美子

時子

英三

北舟

きらり

子

子

子

子

子

子

子

子

子

抱いて寝て洗わぬクマのぬいぐるみ

ちよっとした気配りのあり日日豊か

好きだからかなり厳しく意見する

いずれ世話娘の断捨離に逆らえず

背筋伸ばすと後ろに転けるおばあさん

貧乏です真つ白な道あゆんでる

忍耐と寛容を混ぜ五十年

今日もまた無事に終えたと爪を切る

赤札を貼ったとたんに蟻の列

紅葉舞う何も未練はないように

わたし色グラデーションも愛おしい

ニッポンの誇りだこども平和賞

技術者の指先が知るミクロン差

お日様のみんなに配るぽつかぽか

硝煙が絶えぬ地球儀よく軋む

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

柿実り家中皆が良く食べる

人生の秋も次第に冷えきつい

秋晴れの陽だまりの中昼寝する

秋祭り賑わいもなく過疎の村

燃え盛る紅葉命が目覚ます

窓は秋畑は春の草のまま

虫の声聞けば熱燗倍の味

信じられる確かなものは自分だけ

分の悪い時は夫が姿消す

食べすぎを確かに示す体重計

雑踏の甘い確認大惨事

政治家の確かな公約期待せず

計算も記憶も確かとはいかぬ

蒔いた種確かに花咲かす準備

女房からイエローカード手渡され

若者のカード地獄を垣間見る

ポイントが付けば嬉しい診察券

籠あけて里の土産を次々と

子どもらを籠に入れては育たない

いつの世も駕籠に乗る人担ぐ人

買い物籠今はおしゃれなエコバッグ

麵のメニュー「キツネ」たぬき」は好み

食い初めに姿造りと焼き鯛を

翠 洋 会(大阪) 原田すみ子報

走ったら転ける歩いたら遅れる

声待つも納屋の臼杵忘れられ

反抗期何かにつけて理屈こね

理屈なし孫は可愛い老夫婦

師走でも教師走らずオンライン

千手観音千の手にあるメッセージ

使う人の癖に馴染んで行く道具

核廃絶助走もしない被爆国

楓花

紫陽

一平

白周

茶子

すみれ

恒

重忠

文道

大鯰

慎一

宏章

完司

蟹郎

瑞子

川柳藤井寺(大阪) 鈴木いさお報

義

敬子

恭昌

廣子

和夫

江里子

大子

眞澄

懸命に駆けた青春書き綴る

料理人家では何もしてくれぬ

理由などいらぬ急場引き受ける

ベットのテレビのんびり紅葉狩り

人生は彼岸着くまで持久走

理由などないがむしゃくしゃしてる十五歳

消えていくオアシスだった本屋さん

ひたすらにただただ走る稲妻に

あなたの背中走って追った日は遠い

ノーマルな暮らしの中に幸がある

断捨離で亡母の茶道具捨て切れず

笑えないことも笑っている介護

茶道具を並べ天下を語り合う

客帰り明日へ包丁研ぐ板場

ブランドの道具揃えてへばゴルフ

秋の空雲の走りが冬を呼ぶ

コスモス畑少女に帰るわたしです

善之

すみ子

満作

弘美

ふりこ

舞夢

楓楽

蕉子

定生

弘子

理恵

志華子

昭

希久子

富子

行久

げんえい

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

すみ子

善之

ままごとの孫の素振りにはまるでママ

いまさらの裏に未練が匂い出す

(長)敏子

議事堂は魑魅魍魎の集会所

福貴子

澄んだ瞳に見抜かれていた下心

扶美代

もう時効いまさら過去を穿るな

克己

吐いて吸うこの往復は止められず

亜成

何んでも食べる五体満足感謝する

憲彦

反戦と今更だけど更に今

古池蛙

川柳ねがわ(大阪)

恵子報

子の暮らし見抜ける母の千里眼

俣子

汗流す謝罪に僕も試される

ダン吉

真夜中は静かに跳ねている金魚

かこ

その邪心洗い直せと仏の眼

比呂志

いまさらと言われようとも基本形

恵

冬の絵にはしゃぐ瀟洒な寒椿

仁

無職にも勤労感謝いう日あり

一步

禁酒禁煙茶寿を目指してまだ米寿

寿之

肩張らず種も仕掛けもなく生きる

信子

感謝状社会奉仕で市長から

正義

永田には記憶なくせる魑魅が棲む

敏治

行きは良い帰りはバスにする散歩

博泉

初殻の煙ふる里ありがとう

ダン吉

ばあちゃんの魅力を語るおじいちゃん

遊

遠距離へ往復切符買う逢瀬

朝子

ありがとうごめん世間渡り切る

久仁雄

励まそうまだまだ魅力ある余生

利秋

入退院幾度も重ね喜寿傘寿

高志

生きてるか二三日置きに来る電話

喜代子

魅力あるひと言パワー持っている

(立)信子

もう出口でももう一回フェルメール

壽峰

亡き父に弟まるで生き写し

瑠美子

憲法の魅力非戦の誓いだろ

はこべ

日帰りの旅に心が晴れました

泰子

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

渡るものありまだ飛躍うたがわず

賀世子

バラだもの酔わせてあげる一瞬で

哲夫

パイキング残せばマナー違反だろ

銀杏

技を駆使不況を越えた町工場

みつこ

平和ではないなら魅せられぬわたし

ひとみ

人前でひそひそ話やめてんか

勝弘

進歩する医学飛躍の顕微鏡

ひろ子

原発は死んだふりして生き返る

蒼水

いま大事国連憲章守らんか

彰一

ドラフトの星が飛躍を誓う春

いさお

アラートや逃げも隠れも出来んのに

奈津

お手伝いのつもりが知らぬ間に主役

一步

ひまわりに飛躍を誓うウクライナ

黒兎

芋堀りの兄らは知らない自給率

心平太

手伝おうか口先だけで言う亭主

いさお

飛躍する世に追いつけぬ杖とベン

常男

物価高文化と食費削られて

(河)正

手伝って小さな善を積みあげる

高鷺

焼失から三年首里城の起工

知栄

ネオン街の魅惑に負けた若かった

一步

黄昏にこの寂寥をいかにせん

順子

感触を掴んだ安打製造機

欣之

変わりないことが幸せ老いの日日

正明

さりげなくそつと手伝う押し車

鈍甲

実利より論理飛躍の勇み足

壽峰

着地点模索しながら飛び上がる

蕉子

しあわせのお手伝いです空の青

武彦

藁困いして軟弱となげく親

穩夫

一層の飛躍を期して飛ばす檄

文聡

憲法の周りがいつも騒がしい

あかり

大はしゃぎきつと淋しい人なんだ

はしゃぐのはもうやめました秋の蟬

旅行前知らず知らずにはしゃいでる

プーチンの悪口日本なら自由

もう二度と戻らぬ過去を夢で追う

ポジティブに生きて真つ赤なスニーカー

秋の海会いたい人があのあたり

わだかまり解けて落ちだす砂時計

りんごいろいろ今は「秋映」いい名前

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

さよならの代わりに皿を真つ二つ

先達と夜空の星が道照らす

砂時計のくびれ通つて現在地

照らされて晩生はやつと光りだす

大切にいのちの時計生きている

膝の皿笑わないよう言い聞かす

膝をつく正座なかなか出来ません

前触れもなしに心にズキーン弾

古時計慕情ひとつが千切れない

突かれたら突き返すのもエネルギー

映画館出たら真つ暗空に月

砂時計ときどき砂を補給する

集まれば老人力も町照らす

郁夫

一文

ルイ子

かすみ

秀雄

千賀

弘子

和織

恵子

八千代

幸子

くにこ

紫陽

風花

露

けいこ

順子

美ツ千

久子

コスモス

紀の治

雄大

暇だヒマだ今日も明日もその先も

目覚ましも手帳も要らぬ自由人

照りつける陽も懐かしくなる冬至

幸せがすぐ消えそうな砂時計

大皿に大鯛ダイヤ婚祝う

あなただけ照らす光に僕はなる

良かつたらどうぞと皿が並んでる

日時計が急ぎ立ててくる下山道

壁面の飾り昭和の古時計

プーチンの時計は徽が生えている

六甲川柳会(兵庫) 梶谷 和郎報

時熟しじつくり過去が甘くなる

異次元に誘う笛の音薪能

雑巾を絞る右利き左利き

信号待ち車人も来ないのに

淋しいな今日も二次会無いらしい

節くれて指輪はどれも入らない

コロナ無体ワクチン打った日うつる

プレスリーのギターですよと詐欺に遭う

無い知恵を絞つて出るのはため息か

無言だとすぐに降参する夫

何もかもコトコト煮込む今日の鍋

じつくりはつづかないなあこの私

芳山

ゆたか

余光

麦青

石花菜

小鹿

富隆

重忠

規雄

完司

次郎

美津子

栄

盛夫

勝弘

恭子

道子

利恵子

克美

利子

ひとみ

弘

葬送へパイプオルガン厳かに

無実です最後のケーキ食べてない

以心伝心無論ですすの夫婦仲

人一人許して風が和んでる

じつくりと考え楽な道選ぶ

墓参り父母弟も待つている

圧力鍋でじつくり煮込む今日の憂さ

絞りたてやっぱり旨い生原酒

帯キリリひとりで生きると決めた朝

夜を徹し胡弓が咽ぶ風の盆

民族楽器奏でる人の生きる音

人生を十七音に絞り込む

オルガンの音残つて分教場

百歳へ的を絞つてスクワット

じつくりと樽で熟女になるワイン

夕焼けとハモるハモニカ赤とんぼ

ほとばりの冷めるのを待つ腹の虫

仏壇で熟れる日待つているメロン

老夫婦互いに知恵を絞り出す

絞り出した知恵が答えてくれました

跳ねる髪ウキウキ分語つて

真心を買いに袋小路まで

農業は生き様だよと教えられ

美恵子

崇史

和宏

千賀子

健二

忠志

博

隆浩

武彦

正美

廣光

哲男

洋次郎

すみ子

狸月

和郎

迪

正和

光久

美穂

弘華

公輔

義明

句会名	日時と題	会場と投句先
ほたる川柳同好会	15日(日) 13時30分締切 点・焼く・うっかり	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
川柳藤井寺	15日(日) 14時締切 盃・共選(3名)	パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪川柳会	16日(月) 18時40分締切 作品・誓う・サービス・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中もくせい川柳会	16日(月) 14時締切 本気・輝く・こつこつ・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳ねやがわ	17日(火) 13時締切 生き甲斐・めでたい・白星	産業振興センター 投句先: 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亜成
川柳さんだ	17日(火) 13時30分締切 理由・優しい・イメージ 叶える・自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
岸和田川柳会	21日(土) 14時 世界・祈る・華やか・フレッシュ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳たちばな	21日(土) 13時45分締切 席題・名・来る・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔みちのく	21日(土) 17時締切 ふんわり・想像・香る	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
はびきの市民川柳会	29日(日) 14時締切 白・開ける・イヤホン・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳ふうもん吟社	22日(日) 13時～ 29日(日) 13時から 自由吟・みえみえ・脳	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳塔すみよし	28日(土) 14時締切 夢・当たる・ヒロイン	住吉区民ホール集会室4 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山三幸川柳会	28日(土) 13時15分締切 餅・正月・買う	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

1 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句 会 名	日 時 と 題	会 場 と 投 句 先
川 柳 塔 な ら	5 日(木) 14時締切 期待・そろり・進む	奈良県文化会館 近鉄奈良①番出口東へ5分北側 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城 北 会 川 柳 会	7 日(土) 14時締切 開場13時 穏やか・ラッキー・一番 自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川 柳 とんだばやし 富 柳 会	7 日(土)14時締切 平和・祝う・自由吟・席題	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200 m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉 吉 川 柳 会	7 日(土) 14時締切 朝・塵・芥・カード・席題	倉吉市明倫公民館 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川 柳 塔 ま つ 吟 社	7 日(土) 13時40分締切 山・面倒・貰う・速い	雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川 柳 会	7 日(月)消印有効 そわそわ・初恋・稽古	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
川 柳 塔 わかやま 吟 社	8 日(日) 14時10分締切 兼 題＝昆布・のびのび・ランチ 課題吟＝笑	会場 和歌山県JRビル11階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 柴原道夫
西宮北口 川 柳 会	9 日(月) 13 時 30 分 席題・兎・願う・さり・自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川 柳 塔 さ か い	6 日(金) 締切 こつん・計画・絆 折句：お・も・と	投句句会 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら
あかつき 川 柳 会	13日(金) 14時締切 馬・大吉・庶民の幸せ 時事吟	大阪保育運動センター (新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六 甲 川 柳 会	14日(土) 14時締切 席題・カット・さすが 始める・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川 柳 塔 打 吹	14日(土) 13時30分締切 門・掴む・ざわざわ・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川 柳 あまがさき	15日(日) 14時締切 添える・神(連記)・きっと 自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

柳界展望

秀 吟 永見 心咲

安息の森を求めて風媒

花

秀 吟 木本 朱夏

命がけて生きた彬の百

日紅

秀 吟 澤井 敏治

命がけてデタント叫ぶ

ときは今

★令和4年度愛媛県民総

合文化祭川柳誌上大会。

参加者253名。同人成績。

松山市教育長賞

森山 盛桜

オーラなら√の中に入

れてある

▽同人の動向△

○平田実男さん（宇部五

平太川柳会会長・宇部市）

は、山口県文化功労賞を

受賞された。

○鈴木公弘さん（鳥取市）

は「芸術・文化の振興に

顕著な功績をあげた」こ

とにより、第47回鳥取市

文化賞を受賞され、11月

3日贈呈式が行われた。

川柳家としては二人目。

▽訂正とお詫び△

○十一月号P11上段後ろ

から2行目、子や孫の事

光にする自縛癖↓子や孫

の事先にする自縛癖。

P25上段14行目、マイ灰

皿持つてベニチの愛煙家

↓マイ灰皿持つてベンチ

の愛煙家。P35上段後ろ

から7行目、ていねいな

電話丁寧語で話す↓てい

ねいな電話丁寧語で返

す。P49下段後ろから7

行目、省みてやたら他国

を避難すな↓省みてやた

ら他国を誹謗すな。P51

上段1行目荒巻孝子↓荒

牧孝子。

○十二月号P35上段後ろ

から2行目、来たの暴挙

遺憾ですますお人好し↓

北の暴挙遺憾ですますお

人好し。P36下段15行目、

おいばれた入道雲が活い

れる↓おいばれに入道雲

が活入れる。P65中段3

行目、恵利菊枝↓恵利菊

江。P71下段後ろから3

行目、斉尾くに子↓斉尾

くにこ。P73上段後ろか

ら2行目、就業時間です

お先に失礼↓終業時間で

すお先に失礼。P92中段

14行目、お隣りは幸せそ

うなゴミ袋↓お隣りは幸

せそうなゴミ袋。P113上

段合祀者お名前、阿部紀子

様（生駒市）↓（奈良市）。

▽新誌友紹介△

船橋市 中嶋 常葉

紹介者 新家 完司

摂津市 荻布 律子

紹介者 平井美智子

唐津市 前田 廣幸

米子市 鹿島 美緒

紹介者 後藤 宏之

▽川柳塔誌電子化事業△

12月1日、小西無鬼「わ

らじ酒」（昭和58年、川

柳塔社）がアップされた。

常任理事会（12月7日）

出席20名。①「川柳塔社

役員等に関する規定」7

項についての検討②「第

11回春の川柳塔まつり誌

上大会」進捗状況の確認

③「第29回川柳塔まつ

り」の取り組みについて

④「大阪川柳大会」につ

いて⑤定例確認事項⑥各

部報告⑦役員新年会は中

止。

次回常任理事会1月10日

（火）AM10、

柳界展望募集

各地句会・同人・誌友の活動・動

向などをお寄せください。

採否は編集部に一任願います。

「各地句会だより」原稿募集

川柳塔社グループの川柳会で、紹介・アピールを希望の会は、川柳塔社事務所まで原稿をお送りください。

内容 | 会の特色・様子・行事・今後の予定など自由
 文字数 | 19字×50行
 写真 | 会の様子や集合写真など1枚
 締切 | 随時

願います。
 なお、掲載月・文章の添削については編集部に一任

第43回 ときせん賞作品募集

応募締切 令和5年1月31日(火)
 当日消印有効
 選者 小島 蘭幸 森中恵美子
 雫石 隆子 梅崎 流青
 徳永 政二 矢沢 和女
 作品賞 雑 詠 2句(未発表作品)
 ときせん賞1名・
 準ときせん賞2名・佳作7名
 5月 時の川柳交歓川柳大会
 で表彰(予定)
 応募方法 ・応募用紙又は便箋に作品2句
 ・郵便番号、住所、氏名、電話番号
 及び所属柳社、時の川柳社
 の誌友、誌友外の区別を記入
 応募料 1000円(1口) 定額小為替等
 (切手不可)
 応募先 〒675-0019
 加古川市野口町水足 1160
 岡田 篤 宛
 主催 時の川柳社(兵庫県神戸市)

令和5年度 業務分担表

令和4年12月現在

	常 任 理 事		
総 務 部	江島谷勝弘	上田ひとみ	平井美智子
企画事業部	松岡 篤 藤村 亜成	藤井 宏造	藤田 武人
編 集 部	栗原 道夫 内藤 憲彦	江島谷勝弘 平賀 国和	大久保真澄 山下じゅん子
句 会 部	居谷真理子	内田志津子	藤田 武人
同人誌友部	梶谷 和郎	吉村久仁雄	
会 計 部	内藤 憲彦	宇都満知子	
発 送 部	吉村久仁雄 藤井 宏造	江島谷勝弘 松岡 篤	平賀 国和
事 務 部	森松まつお	内田志津子	宇都満知子

◎ 太字は部長 (部長以外は50音順)

◎ アンダーラインは新任者

あけましておめでとうございます

鳥取県川柳作家協会

会 員 一 同

連絡先 〒682-0034 倉吉市大原 6 3 7-3

牧 野 芳 光

TEL・FAX 0858-23-0140

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会 員 一 同

事務局：〒689-0202 鳥取市美萩野2丁目171-3

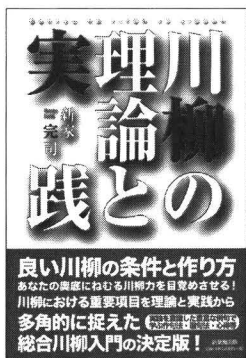
中 村 金 祥 方

TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日 13:00～

会 場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町 21）
（県立生涯学習センター 4F）

新家完司・著



川柳の理論と実践

ご注文は下記へ、ハガキかFAXにて。お支払いは到着後で結構です。

実践を意識した豊富な例句で学ぶ作句法・選句法・心得
初心者はもちろん、中級者やベテランにも役立つ

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司
326頁。送料+消費税=2,000円 FAX 0858-52-2449

おりひめ☆ひこぼし川柳会

☆ 本年もどうぞよろしく願いいたします ☆



☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
藤	栃	真	真	松	永	新	山	木
田	尾	島	島	田	井	阜	野	本
武	奏	久	美	夕	良	義	寿	朱
人	子	美	智	介	心	明	之	夏

2023 年度誌上大会の案内状を今月号に
同封しております。みなさまのご参加
心よりお待ちしております。

川 柳 葦 群

■主な内容

同人作品「葦群抄」

近詠作品「葦の原」

作品鑑賞 新家完司・大西泰世

柳論 エッセイ 句会報 ほか

■A5版 45頁 季刊(年4回)

年間 4000円(千込)

発行人・編集人 梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426 TEL.0944-72-6046

振替口座 01760-2-120254

E-mail house7@cello.ocn.ne.jp

あけましておめでとうございます

南 大 阪 川 柳 会

会 員 一 同

明けて
おめで
とうご
ざいま
す

明けて
おめで
とうご
ざいま
す

川 柳 塔 なら

會計監査	顧問	”	”	世話人	編集	會計	”	”	副会長	会長	
江島谷勝弘	渡辺富子	安土理恵	高橋敬子	加藤江里子	宇賀史郎	安福和夫	中堀優	飛永ふりこ	中堀優	長谷川崇明	大久保眞澄

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保眞澄

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主 幹 福士 慕情・ほか同人一同

事務局 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 稲見則彦方

あけましておめでとうございます

川 柳 さ ん だ

会 員 一 同

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会 員 一 同

あけまして

おめでとうございます

ほたる川柳同好会

水野 黒兔 中山 春代

池田 純子 樋口 順子

田中 螢柳 貝塚 正子

岡田 守啓 多田 契子

齋藤 奈津子 倉本 一弥

藤井 則彦 田村 直子

藤井 宏造 江島谷 勝弘

松田 蟻日路

句会 第二火曜日 午後一時より

場所 豊中市蜷池公民館

明けましておめでとうございます。



六甲川柳会

会 員 一 同

会 長 糀 谷 和 郎

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会 員 一 同

あけまして

おめでとうございます

川柳藤井寺

会長 鈴木 いさお

世話人 鴨谷 瑠美子

太田 扶美代

園田 婦美枝

吉田 喜代子

津田 シルク

あけましておめでとうございます

きやらぼく川柳会

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304

TEL 0859-21-7656

竹 村 紀 の 治

川柳茶ばしら

謹 賀 新 年

早川 遯行

板山 まみ子

金子 美千代

山本 三樹夫

関本 かつ子

明けましておめでとうございます

本年もよろしくお願い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同 人 一 同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14

川 上 大 輪 方

電話・FAX 073-462-7229

迎 春

川柳ささやま一同

代 表 北 澤 稠 民

賀 正

川柳ねやがわ

会 員 一 同

明けましておめでとうございます

西宮北口川柳会

例会 毎月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8112 甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

明けましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会 員 一 同

会 長 森 山 盛 桜

あけましておめでとうございます

いずも川柳会

会 長 竹 治 ちかし

会 員 一 同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし 方

TEL 0853-22-4309

迎 春

はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄

会員一同

明けましておめでとうございます

城北川柳会

会員一同

明けましておめでとうございます

川柳とんだばやし

富柳会

秋田あかり 中村 恵

穂山 常男 林 澄子

井澤 壽峰 肥山 一文

坂本 晴美 藤田 武人

久世 高鷺 堀内きみ子

沢田 和子 松井 正義

鈴木 かこ 松谷 由夏

関 よしみ 松本 正治

土田 欣之 村山 佳子

都筑 文重 山野 寿之

栃尾 奏子 他一同

あけましておめでとうございます
年賀状にかえさせていただきます

番傘川柳本社

森中恵美子

〒566-0022

摂津市三島二丁目五―二―五一四

謹賀新年

小島蘭幸

〒725-0022

竹原市本町一丁目一四―三

謹賀新年

新家完司

〒689-2303

鳥取県東伯郡琴浦町徳万五九七

謹賀新年

川上大輪

〒640-8482

和歌山市六十谷二一八八―一四

あけまして
おめでとうございます

西出楓楽

〒543-0012

大阪市天王寺区空堀町八―五

謹賀新年

仁部四郎

〒847-0082

唐津市和多田天満町二丁目二―一三

謹賀新年

村上玄也

〒590-0016

堺市堺区中田出井町三―四―三一

賀春

木本朱夏

〒640-8392

和歌山市中之島八七一

あけまして
おめでとうございます

山本希久子

〒564-0012

吹田市南正雀一―一九―二一

謹賀新年

柿花和夫

〒592-8349

堺市西区浜寺諏訪森町東二丁一八五

明けまして

おめでとうございます

岸本宏章
岸本孝子

〒689-0202

鳥取市美萩野一―一三四

新年おめでとうございます

鴨谷瑠美子

〒583-0026

藤井寺市春日丘二―八―二二

<p>〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東三―九―一四</p> <p>謹賀新年</p> <p>坂 裕 之</p>	<p>〒569-1022 高槻市日吉台六番町二―一―一五</p> <p>謹賀新年</p> <p>片 山 か ず お</p>
<p>〒569-1116 高槻市白梅町五―一五―一〇〇八</p> <p>おめでとうございます</p> <p>松 岡 篤</p>	<p>〒550-0006 大阪市西区江之子島 一―七―二二―一三〇一</p> <p>あけまして おめでとうございます</p> <p>平 井 美 智 子</p>
<p>〒630-0122 生駒市真弓四―一三―一三</p> <p>あけまして おめでとうございます</p> <p>飛 永 ふ り こ</p>	<p>〒569-0073 高槻市上本町五―二六</p> <p>謹賀新年</p> <p>初 代 正 彦</p>

<p>〒558-0054 大阪市住吉区帝塚山東二―四―九</p> <p>古今堂蕉子</p> <p>おめでとうございます</p>	<p>〒599-8103 堺市東区菩提町五―一七―一</p> <p>矢倉五月</p> <p>あけまして おめでとうございます</p>
<p>〒558-0043 大阪市住吉区墨江四―十一―十一</p> <p>宇都満知子</p> <p>あけまして おめでとうございます</p>	<p>〒661-0953 尼崎市東園田町三―四九―五</p> <p>藤井宏造</p> <p>謹賀新年</p>
<p>〒642-0011 和歌山県海南市黒江一―三四―二</p> <p>三宅保州</p> <p>謹賀新年</p>	<p>〒560-0026 豊中市玉井町二―三―二四</p> <p>藤井則彦</p> <p>謹賀新年</p>

<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>小 松 紀 子</p> <p>〒807-0084 北九州市八幡西区大平台二二二</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>緒 方 美 津 子</p> <p>〒663-8123 西宮市小松東町三一六一三</p>
<p>おめでとうございます</p> <p>松 原 寿 子</p> <p>〒649-6313 和歌山市楠本三八六一四</p>	<p>謹賀新年</p> <p>山 口 光 久</p> <p>〒651-1123 神戸市北区ひよどり台二二三一五</p>
<p>新年おめでとうございます 難聴により句会の欠席を ご容赦願います。</p> <p>太 田 昭</p> <p>〒565-0851 吹田市千里山西 四一三七一四〇一</p>	<p>「川柳塔まつり」に四年振りの帰阪にて 参加が叶い懐かしい方々にお逢いでき 幸せでした。</p> <p>久 保 田 千 代</p> <p>〒343-0023 越谷市東越谷三一六一七 カーネリアン東越谷一〇五号</p>


<p>謹賀新年</p> <p>平賀国和</p> <p>〒536-0014 大阪府城東区鳴野西 三十四―二―三〇五</p>	<p>初夢は やっぱり富士の山がいい</p> <p>平田実男</p> <p>〒755-0241 宇部市東岐波五三九五</p>
<p>明けまして おめでとうございます</p> <p>大久保眞澄</p> <p>〒631-0078 奈良市富雄元町 一―一―七―二―一四</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>山下じゅん子</p> <p>〒639-0254 香芝市関屋北六―五―一〇</p>
<p>明けまして おめでとうございます</p> <p>栞^{くわ}原^{ばら}道夫</p> <p>〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町 東二―二〇八―五</p>	<p>謹賀新年</p> <p>内藤憲彦</p> <p>〒590-0013 堺市堺区東雲西町二―二―五</p>

<p>おめでとうございます</p> <p>山 田 耕 治</p> <p>〒661-0953 尼崎市東園田町二―四五―八</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>富 永 恭 子</p> <p>〒651-1514 神戸市北区鹿の子台南町 四―四六―五</p>	<p>頌 春</p> <p>辻 内 次 根</p> <p>〒787-0558 土佐清水市宗呂丙一二六七―三</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>永 見 心 咲</p> <p>〒704-8194 岡山市東区金岡東町 三―二七―六</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>恵 利 菊 江</p> <p>〒889-1201 宮崎県児湯郡都農町 大字川北二〇七三四</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>内 田 志 津 子</p> <p>〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東 三―八―二二〇六</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>小 川 道 子</p> <p>〒722-0022 尾道市栗原町三二〇〇―八</p>	<p>新年おめでとうございます</p> <p>宮 尾 みのり</p> <p>〒790-0045 松山市余戸中二―五―四</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>渡 辺 富 子</p> <p>〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾六二―六</p>

<p>新たな土を踏みしめいざ行かん</p> <p>坂 本 加 代</p> <p>〒747-1232 防府市台道二二〇〇</p>	<p>あけまして おめでとーございます</p> <p>小 野 雅 美</p> <p>〒545-0037 大阪市阿倍野区帝塚山 一一一六―三―一〇七</p>	<p>本年もよろしくお願い致します</p> <p>上 田 ひ と み</p> <p>〒669-1324 三田市ゆりのき台三一四―九</p>
<p>謹賀新年</p> <p>津 守 柳 伸</p> <p>〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北 一一三―一一</p>	<p>謹賀新年</p> <p>山 崎 武 彦</p> <p>〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町 四―一―十一</p>	<p>謹賀新年</p> <p>梶 谷 和 郎</p> <p>〒673-0883 明石市中崎二―四―一―六二二</p>
<p>謹賀新年</p> <p>澤 井 敏 治</p> <p>〒590-0114 堺市南区槇塚台一―六―五</p>	<p>謹賀新年</p> <p>伊 達 郁 夫</p> <p>〒572-0001 寝屋川市成田東町四〇―二</p>	<p>謹賀新年</p> <p>水 野 黒 兎</p> <p>〒561-0813 豊中市小曾根二―四―一</p>

<p>謹賀新年</p> <p>原田 すみ子</p> <p>〒540-0014 大阪市中央区龍造寺町三ー一〇</p>	<p>謹賀新年</p> <p>長谷川 崇明</p> <p>〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎 二一ー六四</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>川 端 一 歩</p> <p>〒536-0024 大阪市城東区中浜一ー一ー二七</p>
<p>謹賀新年</p> <p>佐々木 満作</p> <p>〒578-0963 東大阪市新庄二ー一九ー一〇</p>	<p>明けまして おめでとうございます</p> <p>敏 森 廣 光</p> <p>〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町 二一ー二一五</p>	<p>謹賀新年</p> <p>安 福 和 夫</p> <p>〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森 一〇〇ー九三</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>大 内 朝 子</p> <p>〒639-0251 香芝市逢坂二ー七二〇ー二〇</p>	<p>謹賀新年</p> <p>村 田 博</p> <p>〒669-1322 三田市すずかけ台 三一四ー一E八〇四</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>榎 本 舞 夢</p> <p>〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 二一ー一ー一一七</p>

<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>竹村紀の治</p> <p>〒683-0804 米子市米原五―一―三―三〇四</p>	<p>ピョンピョンと飛躍の年になるように</p> <p>柏原夕胡</p> <p>〒640-8442 和歌山市平井五五</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>鈴木いさお</p> <p>〒583-0007 藤井寺市林五―八―二〇―三〇三</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>川本真理子</p> <p>〒155-0033 東京都世田谷区代田二―二四―二</p>	<p>おめでとうございます</p> <p>前田洋子</p> <p>〒351-0035 朝霞市朝志ヶ丘四―二―一六 スチューディオオ 8 304号</p>	<p>謹賀新年</p> <p>福士慕情</p> <p>〒036-8275 弘前市城西一丁目九―五</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>石田孝純</p> <p>〒546-0033 大阪市東住吉区南田辺 二―二―一六</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>森田旅人</p> <p>〒586-0027 河内長野市千代台町二―三―二五</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>居谷真理子</p> <p>〒634-0051 橿原市白橿町五―二―二四〇五</p>

<p>  謹賀新年 本 田 さ く ら 〒811-2502 福岡県糟屋郡久山町上山田 二五四―六 </p>	<p> あけまして おめでとうございます 齋 藤 さ く ら 〒599-8122 堺市東区丈六 七七―四 </p>	<p> 喪中につき年始のご挨拶を 失礼させていただきます 黒 田 茂 代 〒797-0015 西予市宇和町卯之町五―三二一 </p>
<p> 謹賀新年 杉 野 羅 天 〒861-8064 熊本市北区八景水谷 一―三一―一七 </p>	<p> あけまして おめでとうございます 八 甲 田 さ ゆ り 〒440-0892 豊橋市新本町六二 </p>	<p> 謹賀新年 富 山 ル イ 子 〒572-0043 寝屋川市錦町八―二三 </p>
<p> いくつになっても正月いいもんだ 今年もよろしくお願い致します 川 本 信 子 〒572-0063 寝屋川市春日町一―二六 </p>	<p> 賀 正 北 野 哲 男 〒669-1515 三田市大原一五五三―一二 </p>	<p> 明けまして おめでとうございます 藤 村 亜 成 〒573-1104 枚方市楠葉丘一―九―一三 </p>

<p>謹賀新年</p> <p>あけまして おめでとうございます</p> <p>雪 本 珠 子</p> <p>〒596-0076 岸和田市野田町二一八一二七</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>石 田 ひ ろ 子</p> <p>〒597-0082 貝塚市石才二五―三</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>谷 英 也</p> <p>〒573-1174 枚方市小倉東町一二―五</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>池 田 純 子</p> <p>〒560-0022 豊中市北桜塚 四一〇一―一〇一三〇三</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>酒 井 紀 華</p> <p>〒562-0001 箕面市箕面四一六―二六</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>栗 田 忠 士</p> <p>〒791-0101 松山市溝辺町甲六一〇</p>
<p>老齡の為新年のご挨拶 ご無礼致します</p> <p>津 村 志 華 子</p> <p>〒547-0022 大阪市平野区瓜破東 四一五一―四一三二三</p>	<p>新年おめでとうございます</p> <p>安 土 理 恵</p> <p>〒633-0054 桜井市阿部七八七</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>西 田 美 恵 子</p> <p>〒797-1324 西予市野村町大西二二三</p>

<p>明けて おめでとうございます</p> <p>藤 原 大 子</p> <p>〒583-0857 羽曳野市誉田三ー一ー二</p>	<p>あけて おめでとうございます</p> <p>米 澤 俣 子</p> <p>〒599-0301 大阪府泉南郡岬町淡輪 三〇二六ー九七</p>	<p>謹賀新年</p> <p>丹 後 屋 肇</p> <p>〒573-0065 枚方市出口二ー一九ー五ー三〇一</p>
<p>あけて おめでとうございます</p> <p>川 名 洋 子</p> <p>〒193-0812 八王子市諏訪町 一九二三ー一ー六ー七〇八</p>	<p>あけて おめでとうございます</p> <p>山 田 葉 子</p> <p>〒617-0852 長岡京市河陽が丘二ー二二ー八</p>	<p>謹賀新年</p> <p>古 手 川 光</p> <p>〒790-0924 松山市南久米町一七六ー八</p>
<p>賀 春 倉吉川柳会</p> <p>竹 信 照 彦</p> <p>〒689-0605 鳥取県東伯郡湯梨浜町園 五四五ー一六</p>	<p>本年もよろしくお願い致します</p> <p>岩 切 康 子</p> <p>〒861-2233 熊本県上益城郡益城町惣領 一六二四ー二</p>	<p>明けて おめでとうございます</p> <p>田 中 廣 子</p> <p>〒558-0055 大阪市住吉区万代六ー八ー二二</p>

<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>徳山みつこ</p> <p>〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘一―一―八</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>柳田かおる</p> <p>〒791-8082 松山市梅津寺町五六</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>島田千鶴子</p> <p>〒569-1146 高槻市赤大路町二四―六</p>
<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>松本文子</p> <p>〒699-0401 松江市宍道町宍道三八五―二</p>	<p>謹賀新年</p> <p>永井松柏</p> <p>〒799-2206 今治市大西町脇甲六四〇</p>	<p>謹賀新年</p> <p>谷口義</p> <p>〒546-0043 大阪市東住吉区駒川五一〇―一六</p>
<p>賀正 年豊人榮 五穀よく実り人喜ぶ 川柳塔なら 朱子</p> <p>中原比呂志</p> <p>〒636-0144 奈良県生駒郡斑鳩町稲葉西 二―四―一三三</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>太田扶美代</p> <p>〒583-0037 藤井寺市津堂一―一―一九</p>	<p>あけまして おめでとうございます</p> <p>森松まつお</p> <p>〒580-0026 松原市天美我堂 三―一三〇―二―四〇四</p>

春 頌 社 塔 柳 川

主 幹

小島 蘭 幸

常任理事

藤井 宏 造

理 事 長

新家 完 司

藤田 武 人

副 主 幹

川上 大 輪

藤村 亜 成

副 理 事 長

内藤 憲 彦

松岡 篤

常任理事

居谷 真 理 子

森松 まつお

上田 ひとみ

山下 じゅん子

内田 志 津 子

吉村 久 仁 雄

宇都 満 知 子

相 談 役

板尾 岳 人

江島谷 勝 弘

木本 朱 夏

大久保 眞 澄

西出 楓 楽

栗原 道 夫

仁部 四 郎

糺谷 和 郎

村上 玄 也

平井 美 智 子

会 計 監 査

初代 正 彦

平賀 国 和

西村 哲 夫

編集後記

に感謝する。

★定例ではない同人特集を数年ぶりに企画した。

★新年号は、定例の同人特集「私の一句」である。「私の一句」は、昭和41年以来掲載された「ゆーもあ特集」に代わり、昭和53年から現在まで続いている特集である。

★12月号で予告した野沢省悟氏の「菠薐草の花」が始まった。省悟氏と執筆の段取りについて電話で打ち合わせた時のこと。「タイトルがまだ決まっています。川柳塔の川柳讃歌は木津川先生が考えてくださいました。出来れば考えてくださいませんか」とお願いしたところ、30分もしないうちに「菠薐草の花」のタイトルがFAXで送られてきた。私はすぐに、路郎精神が花と開いた作品という意味だと理解した。素晴らしいタイトルを付けてくださったこと

に感謝する。
★定例ではない同人特集を数年ぶりに企画した。
4月号発表の「私の好きな笑いの句」。どんな作家のどんな笑いの句が採り上げられるのか、楽しみにしています。
（道夫）
○おめでとうございます。猫年の眞澄です。今年もよろしくお願いします。
○昔はあちこちで猫を見かけたが、町から猫の姿が消えて久しい。
○3年前、1匹の野良猫に出会った。ノラらしい、ブチブチ模様のプサ子だった。寒いのに寝床やご飯は、と氣にかけていたら、バイクでご飯や布団やカイロを15年も届けているおばさんを知った。
○夏の終わりまで、彼女の代わりにご飯をあげた日もありましたが、弱っている様子を気にした彼女が、ついにペット禁止の自宅に連れ帰った。

ひとこと

川柳ささやま

私達の「川柳ささやま」が、毎月の句報八〇〇号を記念して句集を手作りで発刊することになりました。平成二五年に七〇〇号記念誌を、恩師・遠山可住先生のもとで発刊の喜びを分かち合いました。その後、恩師を始め多くの仲間が他界されました。

「川柳ささやま」も高齢化が進

み、一番の悩みとなっております。市のあらゆるイベントを通じて入会の勧誘を行っておりますが、なかなか入会者がありません。しかしながら、先人が遺された偉大な功績を励みに皆で頑張っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を願います。

（北澤稠民）

○半年ぐらいで怪文書がマンションに入れられて、彼女はその子を70数万円かけて保護施設に預けた。
○今は落ち着いて施設で暮らしている後期高齢猫である。幸せかどうかはともかく、人に恵まれ、生き運はあったようだ。
○私も柳友に恵まれた高齢者です。ありがたいこととす。

（眞澄）

▲松本清張の没後早くも30年が経つ。肝臓がん

で平成4年に82歳で世を去った。清張は、飽くなき探求心で、長編短編ほか千篇を世に残した。
▲その中の小説「空の城」を、NHKがドラマ化した「ザ・商社」をDVDで観た。安宅産業破綻のドキュメントである。
▲昭和50年のオイルショック只中、総合商社安宅産業のカナダ石油精製ビジネス失敗が発覚した。政府含め日本株式会社総力戦また安宅生体解剖と呼

（憲彦）

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(3月号)」

地名

市都
県道
府道
姓
雅
号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにご利用いたします。

檸檬抄投句用紙

「かなり」（1月15日締切）

3月号発表

永見 心咲 選 — 共選 — 江島谷勝弘 選

B A

--	--

地名

市都
県道
府
姓雅号

B A

--	--

地名

市都
県道
府
姓雅号

切らないで下さい

きりとせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

きりとりせん

同人特集

市道
都府
姓雅号

句

作者名

原稿用紙
70字

※必ず原句を確認してください。

[illegible]

好きな笑いの句と作者名（フルネーム）を記入し、70字以内の文章を添えてください。
なお、文意を変えない程度に編集部で文章を添削することがあります。

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

フリガナ	氏名	住所	電話	紹介者	<input type="radio"/> 年 <input type="radio"/> 年 月から半年 月から一年 5000円 9800円 該当の方に○をつけて下さい
			〒 ー		

(無記入でも可)



年 年
月 月
から から
一 半
年 年

5000円
9800円

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

川柳塔のホームページアドレス

<https://senryutou.net>

作品募集

3月号発表 (1月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭 幸選
水煙抄 (8句) 木本朱 夏選
愛染帖 (2句) 新家完 司選
檸檬抄 (2句) 江島谷 勝弘 共選
檸檬抄 (2句) 永見心 咲選
インスピレーションナヒ (2句) 大西泰 世選
一路集 (2句) 「耕す」 梅澤盛 夫選
「バワフル」 柏原夕 胡選
「近」 「い」 (3句) 平井美智子 担当
初歩教室 「近」 は4月号発表

3月号

檸檬抄「穴」
一路集「一番」「輪」
初歩教室「箱」

本社1月句会

とき 1月10日(火) 13時開場・13時40分締切
ところ アウイーナ大阪 3階 葛城の間
おなじみ 天王寺区石ケ辻町19-12 電話06-6772-1441
「広島県の川柳作家」
兼題 「祝う」
「大変」
「情け」
「きり」
「自由吟」
石田隆彦 氏選
小島蘭 幸氏選
岩佐ダン吉 選
大久保真澄 選
鈴木朝子 選
鈴木かこ 選
新家完司 選
会費 1000円
投句料 1000円(切手不可)
(各題2句以内)

本社2月句会

7日(火) 午後1時から
兼題 「近い」「不良」「売り」
「しらける」「自由吟」

本社句会欠席投句のお薦め

- * 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- * 投句料1000円(切手不可)。
- * 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)
二〇二三年(令和五年)一月一日発行

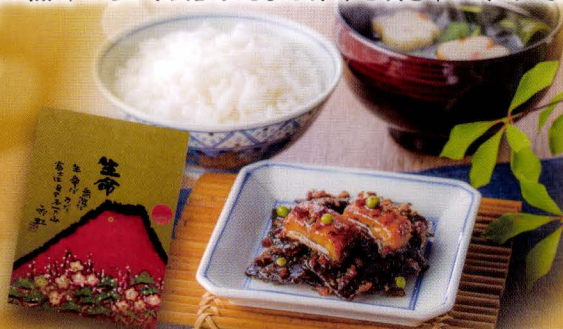
発行人 小島蘭 幸
編集人 榊原道夫
印刷所 美研アート
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一四番
花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話 (06) 六七九一三四九〇番
振替 〇〇九八〇一四二九八四七番

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）

フリーダイヤル 0120(11)5283

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにするお手伝いをいたします。

美 研 ア ー ト

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日：土 / 日 / 祝